目　次

1 古代メソポタミア…… p 2
2 地中海東岸の諸民族…… p 4
3 古代ギリシア…… p 5
4 ヘレニズム…… p 9
5 古代イラン…… p10
6 共和政ローマ…… p11
7 帝政ローマ…… p13
8 古代ギリシア・ローマ文化…… p15
9 キリスト教…… p17
10 マウリヤ朝・クシャーナ朝…… p18
11 グプタ朝…… p20
12 ゲルマン民族の大移動とフランク王国…… p21
13 ノルマン人の活動…… p23
14 ビザンツ帝国…… p25
15 神聖ローマ帝国史…… p26
16 十字軍…… p28
17 イスラーム世界の形成と発展…… p31
18 イスラーム世界の分裂…… p33
19 ティムール帝国とサファヴィー朝ペルシア…… p36
20 インドのイスラーム化とムガル帝国…… p37
21 アフリカのイスラーム諸王朝…… p39
22 殷・周・春秋戦国時代…… p40
23 秦…… p41
24 前漢…… p42
25 後漢…… p43
26 魏晋南北朝…… p44
27 隋・唐…… p46
28 五代・宋…… p48
29 モンゴル帝国と元…… p50
30 明…… p52
31 東南アジア史…… p53
32 大航海時代…… p55
33 古アメリカ文明…… p56
34 ルネサンス…… p57
35 フランス史（カペー朝と百年戦争）…… p59
36 イギリス史（ケルト人～テューダー朝）…… p60
37 宗教改革と宗教戦争…… p64
38 イギリスの革命…… p68
39 フランス絶対王政と第２次英仏百年戦争…… p70
40 オーストリア・プロイセンの絶対王政…… p71
41 帝政ロシア…… p73

〈予習の方法〉

空欄に適切な語句を入れなさい。

また，下線が引かれた語句には一部誤りがあります。１ページに１つずつ誤りがあるので，選び出し正しい語句に直しなさい。ただし，誤りがない場合は“なし”と答えなさい。何も見ないでトライするのが望ましいですが，諸々の教材に頼ってもかまいません。必ず予習をしましょう。

1 古代メソポタミア

メソポタミアのメソは「間」ポタモスは「川」，だから右のティグリスと左のユーフラテス両河の間です。つまり今のイラクということになります。イラク共和国の首都バグダードはティグリス川に沿っています。

〈シュメール→アッカド〉

世界最古の農耕の遺跡ジャルモは北メソポタミアです。5000年前の最初の都市文明は民族系統不明のシュメール人の都市で南メソポタミアにあったウルです。他にラガシュ，ウンマで各都市国家では守護神を祀り青銅器文明で楔形文字を使用し，［ 1 ］で所有権を示しました。神権政治が特色です。崇拝のための人工の山ジッグラトを造りました。『ギルガメシュ叙事詩』が『旧約聖書』の巻頭の書『創世記』の「ノアの洪水」に影響したということです。ジッグラトは「バベルの塔」の話に影響しました。

シュメールの次がセム系（語族）のアッカドで前24Cにサルゴン１世がメソポタミアを統一しました。全盛期のナラーム＝シンは「全世界の王」と呼ばれました。シュメール系のウル第３王朝が一時復活し，現存最古のウル＝ナンム法典を残します。

〈古バビロニア〉

前19世紀に入ると，セム系のアムル人のバビロン第１王朝（古バビロニア）がユーフラテス川沿いのバビロンを都としました。神はマルドゥク。1902年にスサ（現在のイラン）で発見された第６代の王による「ハンムラビ法典」は，「目には目を，歯には歯を」の同害報復の復讐法で身分により異なる法を適用しました。この国は小アジアのインド＝ヨーロッパ語族のヒッタイトにより滅亡しました。その後メソポタミアは北をミタンニ王国が，南のバビロン付近をカッシート王国が支配します。カッシートはエラム人に滅ぼされました。いずれも民族系統は不詳です。ミタンニからティグリス川上流のアッシュール付近から自立するのがアッシリア王国です。ミタンニの住民の大半はフルリ人でした。

〈ヒッタイト〉

ヒッタイト王国はインド＝ヨーロッパ語族で小アジア（アビシニア高原，現トルコ共和国）のボアズキョイ（ハットゥシャ）を中心に興り，最初に鉄製武器を使用したという点が最重要です。バビロン第１王朝（古バビロニア）を滅ぼしたが，前12Cに海の民に滅ぼされました。

〈アッシリア〉

さて，アッシリア王国だ。ヒッタイト滅亡後強国になります。ティグリス川上流アッシュールから興ったが，ニネヴェが覚えるべき都です。サルゴン２世はイスラエル王国を滅ぼしエサルハドンが前 671 年にエジプトを征服し全オリエントを初めて統一しました。アッシュール＝バニパル王はニネヴェに最古の図書館を造りました。メソポタミアからナイル川まで，つまり「肥沃な三日月地帯」からエジプトまで支配したものの，残酷な統治と過酷な税は反乱を招き，前 612 年にメディアと新バビロニア（カルデア）の連合軍の前に滅びました。

〈４王国時代〉

そして４王国分立時代に入ります。

小アジアのリディアは都がサルデスで最古の鋳造貨幣をあみだした国であり，クロイソス王の富で有名です。イラン高原のメディアはインド＝ヨーロッパ語族で都はエクバタナです。新バビロニア（セム語族のカルデア人）のネブカドネザル２世はユダ王国のヘブライ人を強制連行しました（前 586 ～前 538 のバビロン捕囚）。彼はホームシックにかかったメディアからきた王妃のために故郷に似た風景の空中庭園を造ってあげました。４王国の残る１つがエジプト第 26 王朝（都サイス）です。

〈アケメネス朝ペルシア〉

これら４王国のうちメディアから自立したのがペルシア湾に近いペルシス地方のスサに興ったアケメネス朝ペルシア（前 550 ～前 330）です。

キュロス２世の時に自立し４王国のうちメディア，リディア，新バビロニアを滅ぼしヘブライ人を捕囚から解放したことから「解放者」キュロス２世といわれます。第２代カンビュセス２世がエジプト第 26 王朝を滅ぼし全オリエント統一を実現しました（前 525）。

第３代ダレイオス１世は，東はインダス川から東北はシル川・アム川がアラル海に注ぐ地域ソグディアナ，南はエジプトのナイル川から西はエーゲ海北岸のトラキア地方の範囲を州（サトラ）に分け，知事サトラップを置きそれを「王の目・王の耳」で監視しました。アラム語を公用語とし，駅伝制を整備し中央集権化し，サルデスから都スサまで王の道を敷きました。また，次のクセルクセス１世と２代でゾロアスター教の新都 [2] を建設しました。また，いわゆるペルシア戦争でエーゲ海に派兵し，最終的には最後の王ダレイオス３世がアレクサンドロス大王に敗れ滅亡しました（前 330）。統治の特色は「寛容」がキーワードです。ヘブライ人にイェルサレムへの帰還と神ヤハウェの神殿再興を許可したり，フェニキ

ア人の商業活動を奨励しました。

〈メソポタミア・イラン文化〉

宗教は現世的で多神教が特色であり，太陽暦・60進法(一年360日)で占星術の起源です。

ダレイオス1世の事績が 3 (ザグロス山脈)に刻まれ，19世紀のイギリス人ローリンソンが解読しました。クセルクセス1世を讃える碑文が 2 碑文でドイツ人グローテフェントが古代ペルシア楔形文字を解読しました。

ゾロアスターの生存年代は確定できません。ゾロアスター教は拝火教ともいわれアフラ=マズダ(光明・善神)アーリマン(暗黒・悪神)の善悪二元論で最後の審判，天使と悪魔の思想がユダヤ・キリスト教に影響しました。ササン朝で国教となり，経典アヴェスターが編纂されました。

2 地中海東岸の諸民族

地中海東岸は歴史的にシリアと呼ばれる地域です。現在はシリアの他にレバノン，ヨルダン，イスラエルという国があります。

〈アラム人〉

古代史におけるこの地域の民族としては，まずアラム人を覚えましょう。現シリアの首都ダマスクスを中心に内陸交易に従事しアラム文字を生み出しました。アラム語はアケメネス朝ペルシアの公用語となり，イエス=キリストも話していたそうです。アラム文字はイラン系のソグド文字，トルコ系の突厥文字やウイグル文字，モンゴル系の契丹文字，ツングース系の女真(満州)文字に影響しました。

〈フェニキア人〉

地中海沿いには，ウガリットの遺跡があり，ビブロス，ベイルート，シドン，ティルスを築きました。ベイルートは現レバノンの首都です。ティルスは北アフリカにカルタゴ(現チュニジアの首都チュニス)植民市を建設しました。ポエニ(フェニキア)戦争で共和政ローマと戦ったカルタゴです。カルタゴにはフェニキア人の宗教の名残があり，フェニキア人はインド洋からバルト海にかけて広範囲で交易に従事しました。ゆえにシナイ文字をもとにフェニキア文字を生み出し，これがアルファベットとなってギリシア文字，エトルリア文字を経てラテン文字，つまり私たちが日々格闘する文字となりました。

レバノンは風光明媚で快適な国であり，狭い国土に多様な気候が混在します。レバノン国旗の表象レバノン杉の原木は現在数本を残すのみとなっています。

〈ヘブライ人〉

パレスチナの先住民はカナーン人です。神ヤハウェから「乳と蜜の流れるカナーンの沃野」を約束されメソポタミアのウルからユーフラテス川沿いに移動したアブラハムの一族は，先住民から「川向こうから来た人々＝ヘブライ人」と呼ばれました。

前13世紀にモーセはヘブライ人を出エジプトさせた後にシナイ山でヤハウェから十戒を授かりヤハウェと契約関係に入ります。そして今から3000年前にダビデはイェルサレムに都を定め，ガザを建設した海の民＝ペリシテ人(フィリスティア人，パレスチナの語源)の巨人ゴリアテを石投げ機で打ち倒しました。

イェルサレムにヤハウェの神殿を建立したのが，ダビデの子ソロモンです。ヘブライ王国の国土は現在の２倍に及び(現在のイスラエルは日本の四国ほどの広さ)，アラビアからシェバの女王はソロモンの栄華を見に訪れました。しかし統治の後半には妻を1000人持ちヤハウェの崇拝から離れ，結果ヘブライ王国は北のイスラエル王国と南のユダ王国に分裂しました。イスラエル王国は前722年アッシリア王国に，ユダ王国は前586年に新バビロニア王国のサルゴン２世により滅亡しました。この時期に預言者が出現しユダヤ教が熟成しました。

3 古代ギリシア

〈エーゲ文明〉

エーゲ文明は前半がクレタ文明，後半がミケーネ文明です。

クレタ(ミノス)文明はギリシア人による文明ではありません。民族系統不明のクレタ人で，［ 4 ］が中心です。

イギリス人エヴァンズは［ 4 ］で見つかった文字をクレタ人の文字である線文字Ａ(未解読)とクレタを征服したアカイア人(ギリシア人)の文字である線文字Ｂ(イギリス人ヴェントリスが解読)とに分類しました。［ 4 ］には城壁がなく，海洋生物が写実的に明るく平和的に壺や壁に描かれており，青いイルカの壁画がひときわ目立ちます。

ミケーネはギリシア本土の都市国家で戦闘的な発掘物が特色です。大切なのは，アカイア人つまりギリシア人による最初の文明であるということです。他にティリンスを覚えましょう。ドイツ人シュリーマンが発掘し，ミケーネ文明は「海の民」により滅亡したというのが定説です。

シュリーマンは19世紀のドイツ人で幼少時にホメロスの『イリアス』『オデュ

ッセイア』を読んでトロイア戦争に興味を持ちました。老年期に入る時期に多言語を習得し，古ギリシア語の解る若い女性と結婚し，その助けで発掘に成功しました。シュリーマンの著作は『古代への情熱』です。

〈暗黒時代とポリスの形成〉

暗黒時代とは文字の記録の残らない時代という意味です。しかし，ギリシア的なものが全て整った時期といえます。オリンポス 12 神，神話，神殿，ポリス…。

バルカン半島を南下したギリシア人の第１波はアカイア人やアテネをつくったイオニア人やテーベをつくったアイオリス人で，第２波は鉄器も持って南下してきたドーリア人です。ドーリア人はスパルタをつくりました。エーゲ海を北からアイオリス人，イオニア人，ドーリア人が東へ渡りました。

だから，アテネは有力者を中心にゆっくりと［ 5 ］(集まる)した集住型ポリス(アッティカ型)，スパルタは先住民のポリスを乗っ取った征服型ポリス(ラコニア型)ということになり，スパルタ市民は皆が戦士でした。経済活動は周辺民ペリオイコイと被征服民ヘイロータイにやらせ軍事訓練に励みました。これはヘイロータイの反乱に備えるためで，これが元祖スパルタ教育です。２人の王が支配するスパルタの伝説的立法者はリュクルゴスで，厳格な軍国主義で貴金属貨幣の流通は禁止する鎖国政策をとりました。ペロポネソス半島ラコニア地方にありスパルタ人は「ラケダイモン」を自称しました。

〈海外植民市〉

ギリシア本土は国土が石灰質で１にオレンジ２にぶどうが産物で，主食に供する小麦の産出に適しません。だから，ギリシア人は南フランスあたりの地中海からクリミア半島あたりの黒海北岸にまで植民市をつくりつつ広がり住みました。

フランス第２の都市マルセイユ(マッサリア)，イタリア第５の都市ナポリ(ネアポリス)，タレントゥム，シラクサ，ミレトス，トルコ第１の都市イスタンブル(ビザンティオン)などです。

その間に異国の言葉を意味不明の雑音と感じそれを発する異人をバルバロイとみなし，その中でギリシア人のことは同胞つまりヘレネス，ギリシア人の国土をヘラスと意識しました。

〈ポリス世界〉

ギリシア人の諸ポリスは都市と周辺の農村から成り，水源をめぐり常に抗争し，統一へは向かわず，各々が独立国家です。

ポリス同士はライバルだけど，同時にヘレネスとしての同胞意識もあります。ギリシア語・オリンピア祭典(第１回オリンピック・前 776 年を覚えましょう。

前８世紀からが本格的古代ギリシア史だから）・ゼウス神によるデルフォイの神託・同じ神を戴く隣保同盟・ホメロスの物語を共有していることなど…が同胞意識を育みました。

ポリスでは重装歩兵がファランクス（密集戦法）で活躍するから，発言権が増し参政権が拡大，政治的に平等に，つまり民主的になりました。また，貨幣経済が深化すると社会が流動的になり再編成されました。オリエントの西の端，小アジア西部に位置するリディアの鋳造貨幣の影響もそのうち加わってきます。

信仰と防衛の中心の城山がアクロポリスで，裁判・民会・交易のための公共広場がアゴラです。市民はクレーロスという私有地を保有する農民で，租税はないが自弁の武器で従軍する義務があります。

〈アテネの民主化〉

王政→貴族政（ドラコン，前621）→財産政治（ソロン，前594）→僭主政治（ペイシストラトス，前561）→民主政治の確立（クレイステネス，前508）→民主政治の完成（ペリクレス，前443～429）→衆愚政治。

アテネは［ 5 ］型だから有力者つまり王のもとに集住した，これが王政です。次に複数の貴族による統治，これが貴族政です。再編成された社会に対応するためドラコンによる立法，財産の所有にもバリエーションが生じ財産の額に応じ参政権を決めました。貨幣経済は借金と債務奴隷を生んだが，ソロンは重装歩兵を確保するために借金を棒引きしました（重荷おろし）。貴族から土地を取り上げ貧民に分配する荒業をやってのけ人気を博し僭主つまり独裁者となったのがペイシストラトスです。しかし息子ヒッピアスは暴君になったので，クレイステネスは［ 6 ］で僭主出現を防止しました。当時のアテネには陶器の破片は至るところに落ちていたらしく，その理由はオリーブオイルとワインが主産物であったからです。さらに血縁集団を解体する10部族制に改変し貴族による政治独占も防止し，また将軍職を設置しました。こうして民主政治が確立しました。

〈ペルシア戦争〉

前５世紀にアテネが遭遇した世界大戦，それが歴史家ヘロドトスが描いた（アケメネス朝）ペルシア戦争（前500～449）です。

騎馬民族スキタイに圧迫されたアケメネス朝は小アジア西部イオニア地方のギリシア人諸都市に対し課税を強化しました。ミレトスを中心にギリシア人が反乱を起こすとミレトスの母市アテネがこれを支援，だがそれに対しアケメネス朝のダレイオス１世がエーゲ海に派兵しました。第２回ペルシア戦争のマラトンの戦い（前490）ではアテネの平民が重装歩兵として活躍しました。第３回ペルシア戦

争ではクセルクセス１世の派兵でアテネのパルテノン神殿も焼失し絶体絶命のピンチであったが，サラミスの海戦(前 480)ではテミストクレス指揮のもと無産市民が三段櫂船の漕ぎ手として活躍し戦後の政治的地位を向上させました。もっとも救国の英雄テミストクレスは傲慢になり，後に［ 6 ］によりアケメネス朝ペルシアに亡命します。

ペルシア戦争は翌年のプラタイアの戦いに再びアテネが勝利し，事実上決着がつきました。この戦いの前 479 年からペリクレスが死ぬ前 429 年までの 50 年間がデロス同盟の盟主としてのアテネ黄金時代です。

〈アテネ黄金時代〉

ペルシアの再来に備え結成されたデロス同盟だが，その共同基金を流用しペリクレスはドーリア様式のパルテノン神殿を再建しました。友人フェイディアスが監督し彼の作品「アテナ女神像」も安置されました。こうしてアテネ民主政治が完成しました。

民会が国権の最高機関で官職はくじ引き，しかし将軍職だけは例外でペリクレスは何度も再任され「事実上の独裁」だったと歴史家トゥキディデスが述べました。

現在の我々の時代の民主政治との相違点は①直接民主政であったこと② 18 歳以上の男子市民にのみ参政権つまり女性参政権がなかったこと③奴隷に参政権がなかったこと(［ 7 ］銀山などで生産奴隷として働く)，の３点です。

〈衆愚政治〉

明治時代の偉人が民主主義と訳した英語の元々のギリシア語 demokratia はデーモス(民衆)とクラトス(力・支配)の合成語。実態は民衆制といったところです。

仮に，場当たり的な言説(デマゴギー)を吐き散らかす煽動政治家(デマゴーゴス)が登場し民衆を刺激しつつ操れば，愚かな道へと進んでいきます。

この時期プラトンはデマゴーゴスの代表格アルキビアデスと付き合いがあったので煽動罪で自害を命じられ「悪法もまた法なり」と言って毒杯をあおぎました。

ペリクレスの死の２年前にペロポネソス同盟の盟主スパルタとのペロポネソス戦争が始まったが，スパルタが勝利しました。(ペリクレスの戦没者葬送演説に自由や民主政治という言葉が登場します)

そのスパルタもテーベにレウクトラの戦い(前 371)に負け覇権はテーベに移ります。しかしもはや重装歩兵による市民皆兵から傭兵の時代へと時流は移り，公共的空間としてのポリスも変質し，ギリシア世界を束ねる指導的な役割を担うことのできるポリスはもはや存在しない時期に入っていきました。

4 ヘレニズム

〈 8 〉

マケドニアはギリシアの北の果て，ポリス世界からはバルバロイ視されていました。もっとも19世紀の発掘でドーリア人であることが確認されたが，マケドニアは 8 の時に富国強兵しました。目的はアケメネス朝ペルシア対策であり，金山銀山も所有しました。マケドニアの強大化に対し，アテネの弁論家はデモステネスら主戦論 vs イソクラテスら和平論に分かれたが主戦論がとおりマケドニアと戦いました。カイロネイアの戦い(前338)です。マケドニアがアテネ・テーベに勝ち，スパルタを除く全ギリシアの盟主となりました(コリントス同盟＝ヘラス同盟)。いよいよマケドニア人の覇権の時代，ヘレニズム時代の幕開けです。

〈アレクサンドロス大王〉

弱冠二十歳で帝位を継いだアレクサンドロス3世(大王)は，オリンポス12神を引き連れダーダネルス海峡を渡り東征を開始しました。初戦のグラニコス川の戦いは辛勝するものの前333年のイッソスの戦いでアケメネス朝ペルシアの最後の王ダレイオス3世を蹴散らします。次いでアレクサンドロス大王は地中海東岸を南下，ティルスを埋め立てて攻略しフェニキア人，イェルサレムを攻略しユダヤ人を支配しました。エジプトに入るとメンフィスでアモンの化身となって自らを神格化，東方的専制君主への道を歩み始めます。メソポタミア北部のアルベラの戦いでダレイオス3世を再び破りバビロンに入城し神マルドゥクの化身となり自分の帝国の中心地とします。

〈 2 炎上〉

ザグロス山脈を越えイランに入り，アケメネス朝の都スサそして 2 を攻略，ゾロアスター教の善神アフラ＝マズダの化身となります。 2 のクセルクセス1世の神殿に火を放ちます。

しかし彼の遠征はペルシア征服では終わりませんでした。現イランを北上しカスピ海南東のパルティア，アム川上流のバクトリア(現アフガニスタン)，シル川との間ソグディアナ(現ウズベキスタン)と旧ソ連を征服し現中華人民共和国へ迫ります。ヒンドゥークシュ山脈を越えカイバル峠を越えインドに入るが，インダス川上流には毛細血管の如くに川があり，結局それらを渡り切れずインダス川そしてアラビア海に沿って移動しバビロンに戻りました。こうして成立したのがヘ

レニズム文化圏です。東がインダス川から西はマケドニア。

〈東西融合政策〉

アレクサンドロス大王といえば東西融合政策です。①マケドニア男性とペルシア女性の通婚②ペルシアの官僚制度の採用③アレクサンドリアを多数建設しギリシア文化を移植④東方的専制君主体制の採用⑤共通ギリシア語［ 9 ］の普及などです。

〈ディアドコイ(後継者)戦争〉

アレクサンドロス大王は30代前半でバビロンにて急逝，カッサンドロス，リシマコス，プトレマイオス，セレウコスらディアドコイ(後継者)が受け継ぎました。その中のセレウコスはインド侵入時の講和条約の証としてグプタ朝マガダ国のチャンドラグプタから象をプレゼントされ，前301年のイプソスの戦いを優位に進め，結果ヘレニズム３国で最大となりました。

ヘレニズム３国とは，アンティゴノス朝マケドニア(都ペラ)，セレウコス朝シリア(都セレウキア→アンティオキア)，プトレマイオス朝エジプト(都アレクサンドリア)です。アレクサンドリアこそヘレニズム文化の中心地で学術研究所ムセイオンがつくられました。museumの元となる語です。セレウコス朝がティグリス川にセレウキアを建設したのでユーフラテス川のバビロンが衰退しました。

セレウコス朝シリアから自立するのが,現アフガニスタンのバクトリア王国(ギリシア系)，現イランのパルティア王国(イラン系)，小アジア現トルコのペルガモン王国(アッタロス朝，羊皮紙の発祥地でヘレニズム文化の中心の１つ)の３つです。

5 古代イラン

〈パルティア〉

パルティア王国は現イランのカスピ海南東で前３世紀に遊牧系イラン人がセレウコス朝シリアから自立した国です。建国者がアルサケスで中国名は安息です。シルクロードの西半分を支配し繁栄しました。

東はインダス川から西はユーフラテス川にまで拡大し，ティグリス川沿いに新都クテシフォンを建設しました。だからセレウコス朝はセレウキアを放棄して地中海のアンティオキアに都を移します。最初はギリシア語が公用語でヘレニズム文化の影響大だったが，後にペルシア文化が復興しました。アラム文字表記から

パフレヴィー文字表記にペルシア語が変化しました。パルティアはユーフラテス川付近で共和政ローマの第１回三頭のメンバー，クラッススを戦死させました。しかし，224年にペルシア地方に興った農耕系イラン人のサササン朝ペルシアにより滅亡しました。

〈ササン朝ペルシア〉

ササン朝の建国者はアルデシール１世でアケメネス朝の復興を理念に掲げ，ゾロアスター教を国教にしました(教典は『アヴェスター』)。都はクテシフォン，学芸の中心はグンディ＝シャープール。ギリシア・ローマの古典を翻訳イスラーム世界に伝えました。

３世紀のシャープール１世は西ではローマ帝国の軍人皇帝ウァレリアヌスを捕虜にし(エデッサの戦い, 260), 東では西北インドのクシャーナ朝を滅ぼしました。

６世紀のホスロー１世は西では東ローマ(ビザンツ)帝国のユスティニアヌス帝と対決し，東では突厥と結んでエフタルを滅ぼしました。

３世紀のバビロンでマニはゾロアスター教にキリスト教とイスラーム教を融合しマニ教をつくるがこれがイスラーム以前のウイグルの宗教です。また，ネストリウス派キリスト教(唐代の景教)も信仰されました。法隆寺の獅子狩文錦や水差しなどにササン朝ペルシアの影響が反映されています。

ササン朝ペルシアは642年のザグロス山脈のニハーヴァンドの戦いで，正統カリフ時代のアラブ人イスラーム教徒に敗れ滅亡しました(651)

6 共和政ローマ

〈イタリア半島統一期〉

初代のローマ皇帝アウグストゥス帝の時代の［ 10 ］の叙事詩『アエネイス』や歴史家リウィウスの『ローマ建国史』によると，ティベレ川沿いに双子の兄弟ロムルスとレムスが住みつき，伝説では前753年にローマの町が誕生しました。ラテン人もしくはイタリア人が建てた町です。

当初は北のトスカーナ地方を本拠とするエトルリア人に支配されていたが，前509年にエトルリア王を追放し，共和政ローマがスタートしました。共和政というのは君主政の否定用語です。元老院(セナトゥス)において貴族(パトリキ)が政権を担いました。執政官(コンスル)は定員２名で任期１年, 独裁官(ディクタトル)は非常時のみ１名置かれ任期は半年でした。イタリア半島統一事業においてローマ市民が重装歩兵として活躍し始めると，前494年の聖山事件をきっかけに護民

官が設置され身分闘争が始まりました。前 450 年には成文法である十二表法が制定されました。前 367 年のリキニウス＝セクスティウス法で執政官の１人が平民から選ばれ，かつ貴族の大土地所有が制限されることになります。前 287 年のホルテンシウス法において，平民会の決定が元老院の承認を経ずに国法となることになり，時代は民主的な共和主義の時代になります。この時期，ローマは中部のラテン人の領域のみならず，北のエトルリア人，南のギリシア人を平定，前 272 年にはギリシア人の都市タレントゥムを攻略しイタリア半島を統一しました。ローマの半島支配を［ 11 ］と呼ぶが，これは各都市の待遇に差をつけて団結を防ぐ方策です。この半島統一期にローマから南に向けてアッピア街道が敷かれました。

〈ポエニ戦争〉

現レバノンのティルスを母市とするフェニキア（ポエニ）人の都市カルタゴとの間にシチリア島をめぐり第１回ポエニ戦争が始まりました。ローマが勝利し，シチリア島を獲得，ローマ初の海外領土つまり属州（プロヴィンキア）となります。以後，属州はローマ総督により治められ，徴税請負人とともに支配しました。後者はのちにローマ社会において新興成金階級である騎士階級（エクイテス）を形成しました。

イベリア半島（現スペイン）からカルタゴの将軍ロンメルがアルプスを越えローマを攻め，食料貯蔵所カンネーで一時ローマを破るが，結局ザマの戦い（前 202）でローマが勝利し第２回ポエニ戦争もローマが勝ちました。第３回もスキピオ将軍の活躍でローマが勝利し，カルタゴは滅亡しローマの属州となります。ハンニバルと同盟関係にあったアンティゴノス朝マケドニアをすでに前 168 年のピュドナの戦いで負かしていたが，マケドニアも正式にローマの属州としました（前 146）。カルタゴ炎上を目撃したのが「政体循環論」のポリビオスでスキピオの友人でした。

〈内乱の一世紀〉

こうしてローマは西地中海の覇者となり農業国から商業国へと変貌をとげます。前 133 年には小アジアのペルガモンを属州化しました。この土地を貧民に分配すべく改革を始めたのが，グラックス兄弟でリキニウス＝セクスティウス法を復活させようとしたが失敗に終わりました。内乱の一世紀とは，グラックス兄弟の改革が始まった前 133 年に始まりました。

属州からの安い穀物が流入し中小農民は没落，この時期奴隷による果樹栽培を主とする［ 12 ］という大農場経営が始まりました。これがグラックス兄弟に改

革を決意させました。没落農民は遊民化しローマの町に流入していました。彼らを「パンとサーカス」で操ったのが，富裕なパトリキと富裕なプレブスにより形成された新貴族（ノビレス）というわけです。遊民を私兵化し軍制改革をしたマリウスの平民派とスラの閥族派が対立しました。スラが平定したのが，イタリア半島内の同盟市がローマ市民権を要求した同盟市戦争で，結果として市民権が与えられました。ローマの新興支配勢力は娯楽，特に剣奴の戦いを見せ物として提供し人気を得，自らの権力の基盤としていました。

〈三頭政治〉

シチリア島では奴隷反乱が起きました。前73～71年に剣奴スパルタクスが反乱を指導しました。この反乱を鎮圧したのが，ポンペイウス（前64年にセレウコス朝シリアを属州化しイェルサレムをも支配，地中海の海賊も征伐）と騎士階級のクラッススで，２人はカエサルとともに私的な同盟を結び第１回三頭政治を行いました。

クラッススはパルティアに遠征しユーフラテス川付近のカルラエの戦いで戦死しました。属州ガリア（現フランス）総督カエサルは「賽は投げられた」と言いルビコン川を渡り，元老院と組んだポンペイウスと対決，ファルサロス戦後エジプトまで追撃し，そこでプトレマイオス朝の女王クレオパトラと遭遇し結婚，息子カエサリオンを連れてローマに凱旋しました。ローマでインペラトル（軍司令官）を名乗ったカエサルは，さらには終身独裁官（本来は任期半年）となり，エジプトの太陽暦をもとにユリウス暦を定め，属州の徴税請負制度を廃止し，元老院を軽視しつつ権力を自らに集中させたので，共和政の危機を感じた元老院派のブルートゥスらにより暗殺されました。「ブルートゥス，おまえもか！」

次いでクレオパトラは第２回三頭政治のメンバーであるアントニウスに接近そして結婚。レピドゥス失脚後，三頭政治のもう１人のメンバーであるオクタウィアヌスにアクティウムの海戦で敗れ（前31）自殺，こうしてプトレマイオス朝およびヘレニズム時代そしてローマの「内乱の一世紀」が幕を閉じました（前30）。

7 帝政ローマ

〈１世紀ローマ帝国史〉

地中海最大の穀倉エジプト獲得を背景にオクタウィアヌスは元老院からアウグストゥスの称号を与えられ，プリンキパトゥス（元首政）と呼ばれる帝政を開始しました。前25年です。この語は自らがプリンケプス（第一の市民）と名乗ったこ

とに由来します。9年のトイトブルク森の戦いではゲルマン人に敗れ，以後ライン川・ドナウ川がローマ帝国とゲルマン人の境となる。『ゲルマニア』は 13 の作品です。

第2代皇帝ティベリウスの時，イエス＝キリストがローマのユダヤ総督ピラトによりイェルサレムで処刑されたが，使徒たちのうち特にパウロによりキリスト教はローマ帝国内に広められました。第4代皇帝クラウディウス帝の妻アグリッピナの連れ子がネロです。64年のローマの大火に起因するネロ帝によるキリスト教迫害によりパウロやペテロは殉死したとされます。70年にはイェルサレムが征服され「嘆きの壁」と呼ばれる西の壁だけが現在残っています。79年にウェスウィウス火山が噴火しポンペイの町が埋没しました。『博物誌』のプリニウスが見に行って窒息死しました。80年には円形競技場コロッセウムが完成しました。キリスト教徒はランチタイムの余興としてライオンに食い千切られました。キリスト教徒が隠れ活動した地下の隠れ家がカタコンベです。

コロニア＝アグリッピナがケルン（オーデコロンのコロン），ルテティアがパリ，ロンディニウムがロンドン，ヴィンドボナがウィーン，メディオラヌムがミラノ。これらがローマ時代に発展した都市です。

〈五賢帝時代〉

96年から180年までは五賢帝時代と呼ばれ，ローマ帝国の最盛期です。ネルウァは養子相続を開始，次のイスパニア出身のトラヤヌスはダキア（現ルーマニア）を平定しローマ人を植民し帝国領土は最大となります。だからルーマニアはバルカン半島で唯一ラテン系の国なのです（たいていはスラヴ系）。ハドリアヌスはスコットランドに長城を築きました。また第2次ユダヤ戦争の結果，ユダヤ人をイスラエルから離散（ディアスポラ）させたので，イスラエルはパレスチナという呼称となりました。アントニヌス＝ピウスを経て，5人目のマルクス＝アウレリウス＝アントニヌス（『自省録』をギリシア語で著すエピクロス派の哲学者）までが五賢帝時代です。だから，2世紀がローマ帝国の最盛期ということになります。1〜2世紀がパクス＝ロマーナ（ローマの平和）です。パクスとはラテン語で「秩序」を意味します。

〈軍人皇帝時代〉

3世紀のセプティミウス＝セウェルス帝が最初の軍人皇帝です。息子のカラカラはアントニヌス法で全属州民にまでローマ市民権を広げたので，ローマ市民としての自尊心が欠落し始め，征服戦争の減少から質実剛健の気風も損なわれ，性道徳が低下し家族制度が崩壊，帝国の支配の基盤が揺らぎ始めました。

〈ディオクレティアヌス帝〉

284年にディオクレティアヌスが元老院の影響を排除しドミナトゥス(専制君主政)を開始しました。また四帝分治制(テトラルキア)を始め，自らはニコメディアに遷都しました。さらには［14］を強要し拒否したキリスト教徒に対する最後の大迫害を行いました。

〈コンスタンティヌス帝以降〉

帝国再統一にキリスト教勢力を活用，そのために313年のミラノ勅令でキリスト教を公認したのがコンスタンティヌス帝です。325年のニケーア公会議では三位一体説のアタナシウス派を正統，アリウス派を異端としました。330年にはビザンティウムに遷都し，コンスタンティノープルと改称(現イスタンブル)，332年には小作人コロヌスに土地の移動を禁ずる法令を施行しました。またソリドゥス金貨を流通させました。

その後，ユリアヌス帝はミトラ教を採用し「背教者」となります。375年にはゲルマン人の西ゴート族がドナウ川を渡り帝国領内に侵入，アドリアノープルの戦い(378)でウァレンス帝は戦死します。

392年テオドシウス帝はキリスト教アタナシウス派を国教とします。死後，帝国は分裂し，長子アルカディウスと次子ホノリウスによりそれぞれ東ローマ(ビザンツ)帝国(395年～1453年)，西ローマ帝国(395年～476年)として再スタートしました。

8 古代ギリシア・ローマ文化

ヘシオドスは『労働と日々』で勤労の尊さを説き，『神統記』に神々の系譜を著しました。ピンダロスはオリンピア競技会の優勝者を讃えた『競技祝勝歌』を残しました。アナクレオンは酒や恋愛をテーマとした叙情詩人です。アイスキュロス(『アガメムノン』)・ソフォクレス(『オイディプス』)・エウリピデス(『メディア』)がアテネの３大悲劇詩人です。アリストファネスはペロポネソス戦争に明け暮れる男たちに妻たちが性的ストライキをするという反戦劇『女の平和』を著しました。

サルデスを中心とするイオニア植民市からおこった自然哲学者の最初が万物の根源を「水」と考えたタレスです。「数」と考えたのがピタゴラス，「火」と考え「万物は流転する」と述べたのがヘラクレイトス，「原子(アトム)」と述べたのがデモクリトスです。フェイディアスはペリクレスと親交を持ちドーリア様式のパルテノン神殿の再建工事の総監督を務めました。その本尊で現存しないアテナ女神像

は彼の作です。

前5世紀に民主政最盛期のアテネで活躍した弁論・修辞の職業教師をソフィスト(「知恵ある者」)といいます。その代表が［ 15 ］で「人間が万物の尺度」と述べ，普遍的客観的真理はないという相対主義･主観主義を表明しました。いや，ある！という立場をとったのがソクラテスで知徳合一を主張し，問答法という対話を通じて「無知の知」を自覚させる方法を実践しました。ソクラテスの弟子のプラトンはイデア論を展開して観念哲学を説き(『国家論』)，少数の哲人が統治する哲人政治を理想としました。アテネ郊外に学園アカデメイアを建てました。そこでプラトンに学んだのがアリストテレスです。マケドニアのフィリッポス2世に招かれて王子アレクサンドロスの教育係となり，後にアテネに赴き学園リュケイオンを建てました。「万学の祖」と呼ばれ，中世ヨーロッパの哲学・神学に多大の影響を与えました。代表的著作は『政治学』です。

古典ラテン語で書かれた文学をラテン文化といいます。初代ローマ皇帝アウグゥストゥス帝時代が黄金時代です。［ 10 ］は叙事詩『アエネイス』で英雄アエネアスのトロイア脱出からローマ建国までの冒険物語を描きました。ホラティウスは『叙情詩集』の叙情詩人です。オウィディウスはアウグストゥス帝に流刑に処された叙情詩人で『転身譜』『愛の歌』が代表作です。リウィウスはアウグストゥス帝の厚遇を得て委嘱され『ローマ建国史』を著しました。1～2世紀の［ 13 ］は『ゲルマニア』でゲルマン社会を『年代記』でネロの死までのローマの政治史を著しました。同時期のプルタルコスは『対比列伝』でギリシア＝ローマの英雄を比較評論しました。

カエサルと対立して暗殺された雄弁家が『国家論』のキケロで，ストア派の哲学者でネロ帝の師がセネカです。プリニウスは『博物誌』を著したが79年のウェスウィウス火山の噴火(ポンペイの町が埋没)に際し窒息死しました。紀元前後のギリシア人ストラボンはヨーロッパからインドまでの『地理誌』を著しました。2世紀のギリシア人天文学者でアレクサンドリアで活躍し天動説を唱えたプトレマイオスは『天文学大全』を著しました。2世紀のギリシア人医師ガレノスはマルクス＝アウレリウス＝アントニヌス帝の侍医を務めました。前5～4世紀の小アジアの「医学の父」はヒッポクラテスです。前2世紀のポリビオスはカルタゴ炎上を目撃し『歴史』を著し，政体循環史観を示しました。

9 キリスト教

A.D. とは Anno Domini「我らの主の御年」の略です。

イエスは現イスラエル共和国の首都イェルサレムの南郊ベツレヘムにユダヤ人の大工の息子として生まれました。ヨルダン川でヨハネから受浸したのち奇跡を行ったが，モーセの十戒にある安息日を軽視しユダヤ教の律法主義者［ 16 ］や富裕な上層階級サドカイ派を批判しました。そして隣人愛アガペを説きました。ユダヤ人はモーセやアケメネス朝のキュロス２世のように「解放」をもたらしてくれるメシアとしての役割をイエスに期待したが彼はただ「神の国は近づいた」と言うのみでした。

結局イエスはユダヤ人に訴えられローマ帝国のユダヤ総督ピラトにより磔（はりつけ）というローマの処刑方法で処刑されました。ユダヤ人自らによる処刑なら石打であったにちがいない。

しかしイエスは復活しました。復活を信じイエスこそメシア（ギリシア語でキリスト）だと証言したのが使徒たちでありクリスチャンと呼ばれるようになる人々です。『新約聖書』はヘレニズム時代の共通ギリシア語［ 9 ］で書かれました。イエスの言行をまとめた４福音書，使徒たちの活動，パウロらの書簡（大半を占める），黙示録という幻から成ります。

４世紀になるとキリスト教がローマ皇帝コンスタンティヌスにより公認され（ミラノ勅令，313），テオドシウスにより国教となりました（392）。ニケーア公会議（325）では，イエスの人性を強調したアリウス派が異端となりました。エフェソス公会議（431）では，イエスの神性と人性を分けマリアを人としてのイエスの母と見なしマリアの神性を肯定したネストリウス派が異端となりました。カルケドン公会議（451）では，イエスの人性が神性に吸収されるという単性論が異端となりました。こうして正統信仰が確立しました。単性論はエジプトのキリスト教コプト教に影響し，現在のレバノンのキリスト教マロン派に引き継がれます。これらの公会議が開かれた町はいずれも現在のトルコ共和国です。トルコ共和国はキリスト教揺籃の地です。ニケーア公会議における教会代表は『教会史』を書いたエウセビオスで，彼はローマ帝国を「神の国の地上の模像」だと持ち上げました。こうしてアタナシウス派の正統が三度確認され次第に普遍化（カトリック）しました。アタナシウス派は父なる神と子なるイエスと聖霊を一体化して神と見なします（三位一体説）。

⑩ マウリヤ朝・クシャーナ朝

〈インダス文明〉

青銅器文明のインダス文明の都市遺跡は，［17］がインダス川下流（シンド地方）にありハラッパーが中流のパンジャーブ地方にあります。整然とした都市計画と排水設備，公衆浴場が特色です。象形文字のインダス文字は未解読で，前1800年頃から衰退，滅亡の原因には諸説あります。

〈ヴェーダ時代〉

先住民で皮膚の黒いドラヴィダ人の世界に，アーリヤ（高貴なる＝白い皮膚）を自称する民族が，前1500年頃にカイバル峠を越えパンジャーブ地方に侵入しました。前1000年頃にはガンジス川中下流域に移動し始めます。この時期，インドは鉄器時代に入り定住農耕の国家群が形成されました。そのうちでコーサラ国とマガダ国が強大化。前500年にかけてのアーリヤ人の移動期をアーリヤ人の自然の威力崇拝，神々への讃歌からヴェーダ時代と呼びます。主要な聖典が『リグ＝ヴェーダ』です。『サーマ＝ヴェーダ』『ヤジュル＝ヴェーダ』『アタルヴァ＝ヴェーダ』でヴェーダです。この時期，アーリヤ人とドラヴィダ人との混血が進むが皮膚の「色」による差別ヴァルナが形成されました。この差別を合理的に説明する宗教がバラモン教で，その基底をなすのがヴェーダ（知識）ということになります。

アーリヤ人がバラモン，クシャトリヤ，ヴァイシャ階級を，ドラヴィダ人がシュードラと不可触民を構成しました。

バラモン教の祭式万能こと形式主義を哲学的に批判したのがウパニシャッド哲学で，宇宙の根本本質である梵（ブラフマン）と人間の根本本質である我（アートマン）が一如（一致）すれば輪廻から解脱できると考えます。

仏教の開祖ガウタマ＝シッダールタはヴァルナを否定し八正道の実践による輪廻からの解脱を説きました。ルンビニーで悟りに至り，サールナートで初説法を行い，クシャトリヤ階級に支持されました。

ジャイナ教の開祖はヴァルダマーナ（尊称はマハーヴィーラ）でヴァルナを否定し不殺生による輪廻からの解脱を説き，ヴァイシャ階級に支持されました。

『マハーバーラタ』・『ラーマーヤナ』の二大叙事詩の原型が成立しました。

〈マウリヤ朝〉

アレクサンドロス大王がインドに侵入した頃のマガダ国はナンダ朝，その大王

の武将セレウコスが侵入した時はマウリヤ朝の創始者チャンドラグプタの時代であり，ギリシア人の侵入に対しインドは初めてマウリヤ朝で統一しました(前317頃)。都はパータリプトラ(現パトナ)です。

前3世紀のマウリヤ朝のアショーカ王はカリンガ征服時の大量殺戮を悔いダルマ(仏の理法)を各地の石柱碑・磨崖碑に刻み統治しました。上座部(小乗)仏教を保護し第3回仏典結集をして，セイロン島(現スリランカ)に布教し，サーンチーにストゥーパ(仏塔)を建てました。

マウリヤ朝は遊牧民サカ族の南下で衰退しました。早くもゼロの観念はインド人により発見されていました。インドの子供は20×20まで暗誦させられました。

〈サータヴァーハナ朝〉

サンスクリット語で「南の」を意味するデカン高原にドラヴィダ系タミル族のサータヴァーハナ(アーンドラ)朝が成立しました。ローマ帝国と後漢の間に位置し胡椒などを輸出する季節風貿易の結節点となりました。アラブ人商人の活動は『[18]』に詳しいです。後にヒンドゥー教徒の生活規範になる『マヌ法典』の原型ができました。

〈クシャーナ朝〉

同時期つまり1世紀頃，大月氏から独立した中央アジアのクシャーナ族がカイバル峠を越えてすぐのプルシャプラ(現パキスタンのペシャワール)にクシャーナ朝を開きました。カニシカ王の時です。彼は大乗仏教を採用しました。大乗理論は[19]によるもので，菩薩像に手を合わせれば出家し修行しなくても輪廻から解脱できるという，許容範囲の広い「大きな乗り物」というわけです。アサンガとその弟が確立した菩薩(すべての人々を救うことで自分も救済されたいとする行者)信仰が大乗仏教の基本です。そして上座部を「小乗」として蔑視しました。

そのようなわけで，ガンダーラ地方で仏像製作が始まりました。仏像の相貌はカールした頭髪に高い鼻，ギリシア風の衣装つまりヘレニズム的です。それもそのはずインダス川上流はアレクサンドロス大王帝国→セレウコス朝シリア→バクトリア王国とギリシア人支配が続いた直後だからです。バクトリア王国→トハラ族→大月氏国と続き，大月氏国から自立したのがクシャーナ族です。日本は大乗仏教の国，だからガンダーラ地方とは縁が深いです。

クシャーナ朝はササン朝ペルシアのシャープール1世に滅ぼされました。

11 グプタ朝

〈グプタ朝〉

320年に始まるグプタ朝マガダ国は，アーリヤ的なものやサンスクリット的なものが完成した王朝，言い替えるならヒンドゥーが完成した王朝です。インドのシェークスピアといわれるカーリダーサの戯曲『シャクンタラー』がその代表格です。

マガダ国だから都はパータリプトラです。チャンドラグプタ１世が興し，チャンドラグプタ２世(超日王)が最盛期で，東晋の僧，法顕(往路が陸路で帰路が海路，『仏国記』)と会見しました。ヒンドゥー教徒の生活規範『マヌ法典』が完成，シヴァ（破壊神)，ヴィシュヌ(維持神)，ブラフマー（創造神)の３神が出揃います。シヴァはアーリヤ人の雷(インドラ)とドラヴィダ人の男根崇拝，ブラフマーはウパニシャッド哲学のブラフマンに由来します。ヒンドゥーは教祖も統一の教義もない混合宗教だから多神教です。だが，ただ１人の神について考える宗教です。そのヒンドゥー教徒が皆等しく畏敬の念を抱くもの，それがガンジス川の水です。沐浴し川の水に抱かれたい，と熱望します。代表的な沐浴場がヴァラナシです。

ヒンドゥーが民間信仰になると，その１つの構成要素である仏教は教義研究の対象となります。グプタ朝期にナーランダー僧院(学院)がつくられました。

デカン高原には，アジャンターとエローラの石窟があります。ヘレニズムの影響のない純インド・グプタ様式です。

グプタ朝はエフタルに滅ぼされました。

〈ヴァルダナ朝〉

７世紀には，ハルシャ＝ヴァルダナがヴァルダナ朝を開きました。都はカナウジです。

唐の僧の玄奘は往復陸路で訪印しハルシャ王と会見し，ナーランダー僧院に学び『大唐西域記』を著しました。唐の太宗に敬愛され，持ち帰った仏典は，洛陽の大雁塔に保管されました。仏教はヒンドゥーと混合して密教化します。仏教はベンガル地方のパーラ朝によって12世紀頃まで保護されたが，12世紀のイスラームの侵入で教団としてはインドから姿を消しました。

ハルシャ王の死後インドは分裂状態になります。分裂期をヒンドゥーの王子たちを意味するラージプート時代と呼びます。この分裂時代の８世紀に唐の僧の［ 20 ］は往復海路で訪印しナーランダー僧院に学び(途中，シュリーヴィジャヤ

王国のスマトラ島パレンバンに立ち寄る）『南海寄帰内法伝』を著しました。

12 ゲルマン民族の大移動とフランク王国

〈ケルト人〉

ヨーロッパの先住民はケルト人です。ヨーロッパ全域に住んでいました。例えば現イギリスのブリトン人，現フランスのガリア人，現スペインのイベリア人，現トルコのガラテア人はケルト人です。ケルト人の前期遺跡として現オーストリアのハルシュタット文化と後期遺跡として現スイスのラ＝テーヌ文化が代表的です。しかし，ゲルマン・ラテン・スラヴの３大征服民族に征服され，現在はアイルランド・スコットランド・ウェールズ・フランスのブルターニュ半島・スペインのガリシア地方に居住するのみです。

〈フン族〉

匈奴説が有力なのがアジア系のフン族です。前漢時代に東西に分裂した東匈奴が後漢時代に南北に分裂しました。南匈奴は後漢に服属，また五胡の１つとして中国史にとどまります。北匈奴はユーラシア大陸を西進しました。白匈奴とも呼ばれるエフタルはその一派です。アッティラに率いられたフン族は匈奴ではないかといわれてます。ローマに入り教皇レオ１世に説得され退去しました。ドナウ中流のパンノニア（現在のハンガリー）がフン族の本拠地です。451年のパリの東方のカタラウヌムの戦いでは西ローマ帝国・西ゴート・フランク連合軍に敗れました。アッティラの死後，疫病・内紛で崩壊しました。

〈ゲルマン民族の大移動〉

ゲルマン民族の原郷はユトランド半島（現デンマーク）・スカンディナヴィア半島南部・バルト海沿岸です。先住のケルト人を圧迫しながら南下しました。前１世紀頃数10の部族国家キヴィタスを形成しました。王・貴族・平民からなる全自由民男子による民会が最高決定機関です。自由民の間では従士制という契約関係がありました。前１世紀のカエサルの『ガリア戦記』と１～２世紀の［ 13 ］の『ゲルマニア』にゲルマン人の実態が描かれています。ローマ帝国には傭兵・下級官吏・コロヌスとして平和的に移住しました。375年にフン族がゲルマン人の東ゴート族を圧迫，その東ゴート族に圧迫された西ゴート族がドナウ川を渡りました。ゲルマン民族大移動です。

〈西ゴート族〉

黒海西岸にいた西ゴート族はアラリック王に率いられローマ帝国に侵入，410

年には西ローマ帝国のローマを荒廃させたが，この事件が北アフリカ・ヒッポの教父(最大の教父) 21 が『神の国』を著すきっかけとなりました。(もう１つの著作が『告白録』でマニ教徒だった放蕩三昧の過去を告白しました)。次いで西ゴート族は南フランスに移動しトロサ(現トゥールーズ)に遷都したが，フランク族に圧迫されイベリア半島のコルドバを都に建国しました。711 年にはウマイヤ朝のイスラーム教徒に征服されました。

〈東ゴート族〉

黒海北岸にいた東ゴート族は北イタリアに入り，(西ローマ帝国を滅ぼした)オドアケル王国を倒しました。オドアケルは東ローマ帝国の総督としてラヴェンナに建国したが東ゴート族のテオドリック大王により滅亡，しかしアリウス派の東ゴート王国は 555 年に東ローマ(ビザンツ)帝国のユスティニアヌス帝により滅亡しました。

〈ヴァンダル族〉

現ポーランド東部にいたヴァンダル族は，イベリア半島を経て北アフリカのカルタゴ(現チュニジア)に建国しました。ガイゼリック王が 455 年にローマを脅かしたが，534 年に東ローマ帝国のユスティニアヌス帝により滅亡しました。スペイン南部を通過してアフリカに渡ったので，スペイン南部はヴァンダルの地アンダルシアとなりました。

〈ブルグンド族〉

ブルグンド族は現ポーランドのオーデル川とウィスラ川の間から，ガリア東部に移動し建国したが，534 年にフランク王国により滅ぼされました。現フランスのブルゴーニュ地方の語源です。民族叙事詩『ニーベルンゲンの歌』は彼らの伝説がもとです。

〈フランク族〉

フランク族はライン川下流から短い距離をガリア北部(現フランス)へ移動，481 年にメロヴィング家のクローヴィスが全部族を統一し 486 年にパリを都にフランク王国を建国しました。496 年にはランスでアタナシウス派キリスト教に改宗しました。宮宰(マヨル＝ドムス)のカロリング家が台頭しました。宮宰とは「家政の長官」のことでありカロリング家が世襲しました。その家のカール＝マルテルが 732 年のトゥール・ポワティエ間の戦い(パリ南西)でイスラーム教徒のウマイヤ朝軍を撃退しました。

〈カロリング朝フランク王国〉

その子のピピン３世が教皇ザカリアスの支持で 751 年にカロリング朝を創始し

ました。またランゴバルド王国を討伐しラヴェンナ地方を教皇ステファヌス２世に寄進しました（ピピンの寄進）。これが教皇領の起源です。

その子カール（シャルルマーニュ）はエブロ川付近のイベリア半島で後ウマイヤ朝のイスラーム教徒を破りピレネー山麓にスペイン辺境伯領を設置しました。カールのいとこが戦死したが11世紀末に北フランスで成立した騎士道物語 22 の題材となりました。北東のザクセン族を平定しエルベ川までを版図としました。アジア系遊牧民マジャール族の帝国を滅ぼしました。774年には北イタリアのランゴバルド族を征服しました。全国を州に分け伯（グラーフ）を置き，王直属の巡察使に監督させ中央集権化を進めました。中心地はアーヘン。ここにイングランドから高僧アルクインを招いて教会・修道院付属の学校を通じてラテン語の普及を図りました。これをカロリング＝ルネサンスといいます。

800年には教皇レオ３世に戴冠され西ローマ帝国が復活しました。カールの戴冠の政治的意義は，ビザンツ帝国の影響から脱却し西ヨーロッパ世界が成立したことです。文化的意義は，ローマ帝国以来の古典文化（ヘレニズム）がゲルマン人（ゲルマニズム）フランク王カールがキリスト教皇（キリスト教）レオ３世により戴冠され西ローマ帝国が復活しました。つまりヘレニズムとゲルマニズムとキリスト教の３要素が融合し西ヨーロッパ文化の源が形成されたことです。宗教的意義は，ローマ＝カトリック教会がビザンツ帝国から独立し東西教会の分裂・対立が決定的になったことです。

フランク王国はカールの孫の段階の843年のヴェルダン条約でロタール領（中）とルートヴィヒ２世領（東）とシャルル２世領（西）に分裂しました。ロタール２世が死にロドヴィコ２世に譲る時の870年のメルセン条約でロタール領の一部が東と西のフランク王国に割譲されました。こうして現在のイタリア・ドイツ・フランスの原型ができました。

13 ノルマン人の活動

ゲルマン人の移動の第２派の話です。人口増加と耕地不足から移動を開始しました。ユトランド半島（現デンマーク）とスカンディナヴィア半島南部（現ノルウェー・スウェーデン），バルト海付近を原郷としたノルマン人（ヴァイキング＝入江の民）のうち，スウェーデン系のルス族（ルーシー）のリューリクが862年に建国したのがノヴゴロド国です。ノヴゴロドは毛皮の集散地です。「ルス」がロシアの語源です。つまりロシア人というのはスラヴ人とノルマン人の混血だというこ

とになります。

この一派がドニエプル川沿いに南下し882年に建国したのがキエフ公国です。キエフは黒海とバルト海を結ぶ交易ルートの中継点です。同国のウラディミル１世（リューリク朝）が東ローマ（ビザンツ）皇帝の妹と結婚することによりギリシア正教化したことが，ロシアの地の正教化の始まりです（989）。

〈現在のノルマン国家〉

ノルマン人のロロが911年北フランスにノルマンディー公国を建国，その子孫のウィリアムが1016年のヘースティングズの戦いでイングランドを征服しノルマン朝を開きました。イギリス最初の本格王朝です。

別の一派はノルマンディーから南イタリアへと進出し，1130年にルッジェーロ２世が両シチリア王国を建国，その中心地 23 はアラビア語からラテン語への翻訳の中心としてイベリア半島のトレドと並び大いに栄えることになります。

11世紀にはノルマン人の活動は沈静化しました。この間にキリスト教に改宗し北欧３国が形成されました。８世紀頃できたデンマークはバルト海に進出しハンザ同盟と抗争しました。ノルウェーは９世紀末に建国されアイスランドを支配しました。オスロはキエフをモデルに建設された都市です。ベルゲンは北欧最大の都市でした。10世紀頃できたスウェーデンはウラル語族フィン人の国フィンランドを支配下に置きました。1397年には 24 が結成されました。これはデンマーク王マルグレーテを中心とした北欧３国の同君連合で1523年にスウェーデンが離脱するまで存続しました。同盟解体後，デンマークがノルウェーを，スウェーデンがフィンランドを支配しました。

ノルマン人の別の一派は，アイスランド，グリーンランドから北極を越えて北米大陸に達しました。また東ローマ帝国の都コンスタンティノープルを脅かすこともありました。

〈封建制度の成立〉

ヴァイキングは小回りのきく舟でパリのあるセーヌ川をさかのぼります。ロワール川沿いに古城が多いのも元はといえばヴァイキング対策です。

例えば農奴は領主と「川まで３日間」と契約を結びます。ヴァイキングが襲来したら契約をドライに履行します。二君にまみえることもあります。農奴は週の半分を領主直営地で賦役（労働地代）に従事，半分は農民保有地の産物を貢納（生産物地代）し，結婚税・死亡税や領主への十分の一税も課されました。このタイプを古典荘園といいます。12世紀以降は貨幣地代が主流になりこちらは純粋荘園（地代荘園）といいます。

14 ビザンツ帝国

最後のローマ皇帝テオドシウスは395年に死ぬ時に長子アルカディウスに東を，次子ホノリウスに西を分封しました。東ローマ（ビザンツ）帝国の都はコンスタンティノープルです。

〈ユスティニアヌス帝〉

ユスティニアヌス帝はササン朝のホスロー１世と抗争しました。ゲルマン人のヴァンダル王国と東ゴート王国（555年に征服したのでユスティニアヌス帝を６世紀の人物と覚える）を征服し西ゴート王国からも領土を奪い，地中海をほぼ一周制圧し再び「ローマ人の海」としました。イタリアのラヴェンナにあるビザンツ様式のサン＝ヴィターレ大聖堂には，ユスティニアヌス帝夫妻の描かれているモザイクがあります。

さらにユスティニアヌス帝はコンスタンティノープルのビザンツ様式の傑作セント＝ソフィア（ハギア＝ソフィア）大聖堂を修築しました。競技場の暴動に端を発したニカの乱で焼失したものを再建したのです。またプラトンの創設したアカデメイアを閉鎖しました。さらにはトリボニアヌスに命じ『ローマ法大全』を編纂させました。中国から綿織物業が伝わり養蚕が奨励されました。

〈ヘラクレイオス１世〉

ビザンツ帝国は７世紀のヘラクレイオス１世の時代になると東部地域シリアとエジプトをアラブ人のイスラーム教徒に侵食されます。このような状況で成立したのが全領域を小管区に分ける軍管区（テマ）制です。これは兵農一致の屯田兵制で軍管区に屯田兵が入植しました。

ビザンツ帝国は皇帝がコンスタンティノープル教皇の任命権や教義規定権を有する「皇帝教皇主義」です。これは帝政ロシアに継承される基本的な性格です。さらには公用語がラテン語からギリシア語へと移行しギリシア化が進みました。

〈レオン３世〉

イスラームのウマイヤ朝のコンスタンティノープル攻撃をギリシア火という一種の火炎放射器で撃退した皇帝レオン３世が，726年にイスラームの影響で聖像禁止令を出しイコン（聖画）崇拝を禁止したことからローマ教会との間に溝ができ始めました。

〈東西教会分裂〉

800年にローマ教皇がゲルマン人カールに戴冠したことにより距離がさらに広

がりました。両教会は最終的に［25］年に相互を破門しました。ローマ教会とコンスタンティノープル教会のそれぞれが，カトリックとギリシア正教会として今日に至ってます。

９～11世紀のマケドニア朝期は６世紀に次ぐ繁栄期です。バシレイオス１世が創始者でバシレイオス２世はトルコ系遊牧民が建てた第１次ブルガリア王国を滅ぼしました。

〈十字軍〉

1071年のマンジケルトの戦いで皇帝ロマヌス＝ディオゲネスがセルジューク朝に捕虜になったので，皇帝アレクシオス１世がローマ教皇に援助を求めました。これが十字軍のきっかけとなります。また地方領主に国有地の管理をまかせ軍役などを課すプロノイア制を実施したので，貴族の大土地所有が公認され兵農一致が崩れました。

第４回十字軍の攻撃を受け，首都コンスタンティノープルにはヴェネツィアの植民国家ラテン帝国が建てられ，ビザンツ帝室は逃れニケーア帝国などとなりました。ニケーア帝国はのちにジェノヴァと同盟しコンスタンティノープルを回復します。

1453年にオスマン＝トルコのメフメト２世に山越えの離れ業で征服され同帝国は滅亡します。最後の皇帝の姪と結婚したのがモスクワ大公イヴァン３世だったので，彼は東ローマ帝国の後継者としてツァーリ（カエサルの意）と名乗りました。（正式には実際に血を引く孫のイヴァン４世からがツァーリ）

古代ローマ史からビザンツ帝国滅亡までを扱った18世紀イギリスの歴史家が『ローマ帝国衰亡史』のギボンです。

西欧が自給自足の荘園経済が中心になった後もビザンツ帝国では貨幣経済は衰えなかったということとギリシア十字形と円屋根とモザイク画を特徴とする建築様式ビザンツ様式など独自の文化を形成しました。

［26］は９世紀にギリシア正教を南スラヴ人へ布教した人物です。布教のためギリシア文字をもとにグラゴール文字がつくられ現在ロシア語で使われているキリル文字に発展しました。

15 神聖ローマ帝国史

〈ザクセン朝〉

３分したカロリング朝フランク王国のうち東フランク王国は911年カロリング

家が断絶し選挙王政になった後919年にザクセン家のハインリヒ１世が，936年にオットー１世が王に即位しました。955年にレヒフェルトの戦いでアジア系のマジャール人を撃退，962年にオットー１世が教皇ヨハネス12世から戴冠され，神聖ローマ帝国(～1806)が成立しました。中央集権化に教会・修道院を利用する帝国教会政策が特徴です。

神聖ローマ皇帝はローマでローマ教皇に戴冠されるのだから歴代皇帝の関心はイタリアにありました。これをイタリア政策といい，衝突が生じればイタリア戦争となりました。

〈聖職叙任権闘争〉

聖職売買禁止・聖職者の妻帯禁止を掲げる教会刷新運動の中心フランスのクリュニー修道院出身の教皇グレゴリウス７世に対し，聖職叙任権闘争に関連し謝罪した神聖ローマ皇帝がハインリヒ４世でこの事件を「カノッサの屈辱」(1077)といいます。1122年のヴォルムス協約で，聖職叙任権は教皇にありということで，この闘争に決着をみました。(教皇カリクストゥス２世と皇帝ハインリヒ５世)

〈シュタウフェン朝によるイタリア政策〉

シュタウフェン家のフリードリヒ１世は第３回十字軍に参加します。またイタリア遠征を数回実施し，北イタリアのミラノを中心としたロンバルディア同盟と対立しました。これがイタリア政策の代表的事例です。イタリア半島の諸勢力は教皇派ゲルフと皇帝派ギベリンに二分され激しく対立しました。シェークスピアの戯曲『ロミオとジュリエット』のモチーフにはこの対立があります。

シュタウフェン家のフリードリヒ２世はイタリア政策を継続しました。シチリア島 23 に生まれ拠点とし，ボローニャ大学を創設しました。この大学で後にトマス＝アクィナスが学びます。また，第５回十字軍を派遣，イスラーム側と妥協し聖地イェルサレムを支配したので，教皇庁と対立しました。

〈ハプスブルク家とスイスの形成〉

これらイタリア政策のゆきすぎからドイツ経営がおろそかになり，神聖ローマ帝国は1256年～1273年まで皇帝不在の「大空位時代」となります。その後即位したのが，ハプスブルク家のルドルフ１世です。

ハプスブルク(鷹城)はもともとスイスの豪族であり，アルプスの要衝を抑え通行税を得ていました。これが，シラーの戯曲『ウィリアム＝テル物語』の背景です。13世紀の最後にハプスブルク家の支配からウリ・シュヴィッツ・ウンターヴァールテンの３州が独立，1499年のシュヴァーベン戦争に勝ち13州が独立を達成し自治権を獲得，これらが後の1648年のウェストファリア条約で正式に独立す

るスイスの原型となります。スイスは1815年のウィーン議定書で永世中立国になり，2002年には国際連合190カ国目の加盟国になりました。カロリング朝フランク王国のアヴァール人に対する東の辺境伯領オストマルクがオーストリアの起源です。

〈金印勅書〉

さて，1356年に皇帝カール4世が出した「金印勅書」により，トリーア･ケルン･マインツの3司教とベーメン王・ファルツ伯・ザクセン伯・ブランデンブルク辺境伯の4世俗諸侯の7人の選帝侯が皇帝選出を決めることになりました。300余りの領邦分立体制の出発点です。諸侯の権限が皇帝よりも上に立つ領邦体制の時代です。カール4世はドイツ最古のプラハ大学を建てました。

その息子のジギスムントは，1396年のニコポリスの戦いでオスマン帝国のバヤジット1世に敗れました。1414～1418年のコンスタンツ公会議(現ドイツ)では，カトリックの［27］が終了し，また聖書をチェコ語訳し，贖宥状を非難したベーメンの宗教改革の先駆でプラハ大学総長のフスに異端が宣告され火刑となりました。フスに異端が宣せられたことにより彼に影響を与えたケンブリッジ大学のウィクリフの墓まであばかれ凌辱されました。

〈ハプスブルク家の世襲へ〉

アルブレヒト2世の1438年からは神聖ローマ皇帝が，ハプスブルク家の世襲となります。特にマクシミリアン1世がブルゴーニュ家と血縁となることにより，同家はネーデルラントまで領有することになりました。

16 十字軍

聖者・聖遺物崇拝が広まった10世紀末から「神の平和」運動が起きました。貴族同士や非戦闘員に対し生命財産を侵害しないという平和誓約のことです。また11～12世紀にかけてヨーロッパで聖地巡礼熱が高まりました。イェルサレム・ローマ･［28］が三大巡礼地です。ローマ教皇は東方教会の再統合をねらいます。また北イタリア諸都市による東方貿易(レヴァント貿易)が拡大しました。これらが十字軍の遠因です。

1071年のマンジケルトの戦いで東ローマ皇帝はセルジューク朝に敗れたが，その脅威から東ローマ皇帝アレクシオス1世がローマ教皇に，セルジューク朝により聖地イェルサレムが占領されたことを訴え支援を要請しました。これが十字軍の近因です。

1095年のクレルモン宗教会議で教皇ウルバヌス２世により第１回十字軍が提唱され，1096年から始まった派遣の結果，イェルサレム王国が建国されました。

イェルサレム王国を滅ぼしたのがアイユーブ朝を創始したクルド人サラディン(サラーフ＝アッディーン)で，それに対し結成されたのが第３回十字軍です。

第３回十字軍のメンバーは，神聖ローマ皇帝フリードリヒ１世，フランス王フィリップ２世(カペー朝)，イングランド王リチャード１世(プランタジネット朝)です。しかし実際戦ったのはイングランド王だけでした。

第４回十字軍は「教皇は太陽，皇帝は月」と言った教皇インノケンティウス３世が提唱，ヴェネツィアの商人中心の派兵は東ローマの帝都コンスタンティノープルを攻め，1204年にラテン帝国を建国しました。

第５回十字軍は，神聖ローマ皇帝フリードリヒ２世が教皇庁と対立しつつイスラーム教徒と妥協し，イェルサレムで独自の支配を行ないました。

第６・７回十字軍は，フランスのカペー朝の聖王ルイ９世によるもので彼はチュニスで戦死しました。

十字軍は最終的に1291年にエジプトのマムルーク朝が，十字軍最後の拠点アッコンを陥落させ終了しました。

〈商業の復活と都市の形成〉

十字軍の影響で教皇権は失墜，諸侯・騎士が没落し王権が伸長しました。

遠隔地商業が盛んになり貨幣経済が進行し荘園制が崩壊する方向に向かいます。「商業の復活＝商業ルネサンス」はベルギーの歴史家ピレンヌの言葉です。すでに9世紀頃から耕地を３分し春耕地・秋耕地・休耕地とし３年で一巡させる［ 29 ］が発達，重量有輪犂の普及で農業生産性が向上していました。11世紀以降修道院を中心に森林・荒野の開拓も進みました。11～13世紀のヨーロッパは気候も温暖でした。余剰生産物の局地的交換つまり定期市が発生していました。このタイミングで12世紀に「商業が復活」しました。次第に封建領主から特許状により自治権を獲得する運動(コミューン運動)が起こります。12世紀以降北イタリアで領主から自治権を獲得した自治都市･都市共和国をコムーネといいます。14世紀以降ドイツで発達し皇帝に直属し自治権が与えられ諸侯と同じ地位を与えられたのが帝国都市(自由都市)です。帝国都市に一年と一日逃げ込んだ農奴は自由になることを「都市の空気は自由にする」といいました。都市ではギルド(同業組合)が結成され自由競争を禁止して製造方法・品質・価格などを排他的に取り決めました。大商人を中心に結成し手工業者も参加し市政を運営したのが11世紀の商人ギルドです。それに対抗し13世紀に手工業者が結成したのが同職ギ

ルド(ツンフト)で親方・職人，徒弟という厳格な規約を持ちました。ツンフトが商人ギルドに挑んだ対決をツンフト闘争といいます。その結果ツンフトも市政に参加することになりました。

〈ハンザ同盟〉

北ドイツの諸都市を中心に1241年に結ばれたハンザ同盟は，リューベックを盟主とし,13世紀後半から発展しました。ハンブルクやブレーメンも中心となり，さらに海外のロンドン・ブリュージュ・ベルゲン・ノヴゴロドを外地4大商館として，北海・バルト海を中心に海産物・穀物・木材・毛織物など生活必需品の交易を行いました。

東地中海地域でヴェネツィアなどの北イタリア諸都市の商人を中心として，銀や毛織物などを輸出し，アジア産の香辛料や絹などの奢侈品を輸入した東方貿易と対照的です。14世紀にデンマークの南進を阻止し繁栄の最盛期を迎えたハンザ同盟も，大航海時代になると大西洋沿岸の繁栄，オランダ商人やイギリス商人の進出で次第に衰えました。さらにドイツの諸領邦君主による領邦内諸都市への圧迫，イギリスやロシアの重商主義政策による商館の閉鎖，また加盟都市内部での商人と手工業者との対立などで17世紀初めにはほぼ活動を停止しました。

〈修道院〉

4世紀にエジプトで始まった隠遁・禁欲・苦行・瞑想の場が修道院です。ベネディクト派修道会は529年にイタリアのモンテ＝カシノにベネディクトゥスが創立し西欧の全修道院を統括しました。「清貧・純潔・服従」という厳しい戒律で「祈り，働け」がモットーでした。910年にフランス中東部につくられたベネディクト派のクリュニー修道院は11世紀以降の教会刷新運動の中心です。シトー修道会は1098年にフランス中部シトーに創設され開墾運動に従事しました。13世紀，修道院の封建領主化・富裕化を批判し個人財産を持たず信者からの托鉢に頼り都市で説教した新しいタイプの修道院が托鉢修道会です。その典型が1209年に信仰に目覚めて財産を放棄したイタリア・シエナの聖者フランチェスコが創立したフランチェスコ修道会です。元に派遣されたモンテ＝コルヴィノはフランチェスコ派です。スペイン出身のドミニコが南フランスのカタリ派に対抗して説教活動をして後に創設した，1215年創設のドミニコ修道会も同タイプで異端撲滅に成果をあげました。トマス＝アクィナスはドミニコ会出身です。

17 イスラーム世界の形成と発展

セム語族のアラブ人は都市の商業民と砂漠の遊牧民(ベドウィン)でした。前10Ｃ～前２Ｃのイエメンにあったサバー王国のシバの女王がヘブライ王国のソロモン王の栄華栄光を見にきたと『旧約聖書』にあります。シリアにあって３世紀にローマ皇帝アウレリアヌスに攻略された隊商都市が[30]です。

〈ムハンマド時代〉

６世紀の西アジアではビザンツ帝国とササン朝ペルシアとが抗争しシルクロードや海の道が途絶し，代わって交易ルートとなったのがアラビア半島(現サウジアラビア)の紅海岸ヒジャーズ地方です。商業の普及は貨幣経済を浸透させ貧富の格差が増大しました。そのメッカに登場したハーシム家のムハンマドは610年に神の啓示を受けイスラーム(神への絶対的帰依)を創始，アッラー（唯一神)を崇拝し偶像崇拝を否定しました。多神教のカーバ神殿を守護するクライシュ族に生まれたため圧迫され，信者を連れてヤスリブ(メディナ)へ聖遷(ヒジュラ)しました。これが[31]年イスラーム暦紀元元年です。ちなみにイスラーム暦は太陰暦で一年は354日です。

ユダヤ人が多く一神教アレルギーの少なかったメディナではイスラームは信者を増やしウラマー（教団・共同体)となり，ムハンマド存命中にジハード(聖戦)によりアラビア半島全域をイスラーム化しました。

〈正統カリフ時代〉

預言者の代理人をカリフというが，アブー＝バクル→ウマル→ウスマーン→アリーと続く４人の正統カリフが教団を統治しました。この時期，ササン朝ペルシアを642年，ザグロス山脈のニハーヴァンドの戦いで破り，ビザンツ帝国を討ちイェルサレムやエジプトをイスラーム化しました。特にウマルの時代が「イスラームのパウロ」と呼ばれるように大征服が進んだ時代です。ウマイヤ家のウスマーンの時に『アル＝クルアーン(コーラン)』が編纂されました。

〈ウマイヤ朝〉

アリーがウマイヤ家に甘いことに業を煮やしたハワーリジュ派によりアリーが暗殺されると，対立していたウマイヤ家のムアーウィヤはダマスクスで世襲カリフ制を始めました(ウマイヤ朝，661～750)。ムハンマドの娘ファーティマと夫アリーの子フサインはイラク南部カルバラーでウマイヤ家に殺されました。カルバラーの悲劇(680)です。だからイラク南部はシーア派です。アリーとその子孫

のみをカリフとみなし他の正統カリフとウマイヤ朝以降のカリフを否定するシーア＝アリー（シーア派）はこのようにして形成されました。シーア派の最高指導者をイマームといいます。それに対し代々のカリフを正統と認めるのがスンニー（スンナ）派です。

軍営都市（ミスル）として現イラク南部のクーファとバスラがあります。軍人には俸給アターが支給されました。アター支給の役所をディワーンといいます。

イェルサレムに岩のドームが建立されたのは，カリフのアブド＝アルマリクの時で，アラビア語を公用語に定めました。ウマイヤ朝の最盛期は６代目のワリード１世の時です。この時期イスラーム世界は東はインダス川から，西はジブラルタル海峡を渡り現在のスペイン・フランス国境のピレネー山脈にまで拡大しました。イベリア半島ではトレドを都とした西ゴート王国を滅ぼしフランスに侵攻したが，732年のトゥール・ポワティエ間の戦いではメロヴィング朝フランク王国の宮宰カロリング家のカール＝マルテルに撃退されました。ビザンツ帝国の都コンスタンティノープルも包囲したがギリシア火に撃退されました。

ウマイヤ朝に不満だったのはシーア派だけではありません。マワーリーという非アラブのムスリムはジズヤ（人頭税）とハラージュ（地租）を支払わされたがアラブ人は免除だったので不満でした（アラブ人第１主義）。だからウマイヤ朝はアラブ帝国といわれます。

〈アッバース朝〉

アリーの子フサインとササン朝ペルシアの最後の王ヤズドギルド３世の娘が夫婦だったという伝承がありました。だからイランのホラーサーン地方にはシーア派が多かったです。同地でシーア派を取り込んで挙兵しウマイヤ朝を倒しアッバース朝（750 ～ 1258）を樹立したのがアブー＝アル＝アッバースです。２代目のカリフのマンスールは新たな世襲カリフ制成立ためにシーア派を粛清し新都バグダード（別名マディーナ＝アッサラーム，平安の都）をティグリス河畔に建設しました。

アッバース朝はムハンマドと血筋が近いためカリフ権を強化しやすく当初は中央集権化が進みました。宰相をワズィール，地方総督をアミールといいました。５代目のハールーン＝アッラシードがアッバース朝の最盛期で，彼と彼の統治下のバグダードは『アラビアンナイト』に登場します。またフランク王国のカールとは使節を交換しました。９世紀にアッバース朝は黒人農業奴隷ザンジュの乱で動揺しました。９世紀にはカリフのマームーンの時にバグダードに建設された学問研究所が［32］でプラトン・アリストテレスのギリシア語文献のアラビア語へ

の翻訳・研究が行われました。

アターは俸給。アミールは将軍。ジズヤは人頭税。ジハードは聖戦。ジンミーは非ムスリム。ムスリムはイスラーム教徒。イスラームとは神への絶対的帰依。ハラージュは地租。マワーリーは非アラブ人ムスリム。ワズィールは宰相。ヒジュラは聖遷。ウラマーはイスラーム法学者。スークは市場。キャラバンサライは隊商宿。ミナレットは光塔。

18 イスラーム世界の分裂

アッバース朝はムスリム平等主義で，アラブ人とマワーリーいずれもジズヤは免除でハラージュは支払いました。ゆえにイスラーム帝国といわれます。

アッバース朝ができた時ウマイヤ家のアブド＝アッラフマーン１世は北アフリカをイベリア半島まで逃げ切り，現スペイン南部コルドバを都にウマイヤ朝を継続しました(後ウマイヤ朝)。北アフリカのアルジェリアに興ったファーティマ朝は，エジプトに移りカイロを建設し現在のイスラームの最高学府 [33] をつくったシーア派(イスマーイール派)の王朝です。イェルサレムをめぐってセルジューク朝と抗争しました。カリフを宣言し(中カリフ国)，北アフリカ全体に版図を拡げたので，脅威を感じた現スペイン・コルドバの後ウマイヤ朝のアブド＝アッラフマーン３世はカリフを宣言しました(西カリフ国，スンニー派)。

シーア派の10世紀にアッバース朝(東カリフ国，スンニー派)の都バグダードに入城したのが，イラン系のシーア派(12イマーム派)のブワイフ朝です。アッバース朝のカリフから権力を奪いました。アラブ系の初期イスラーム時代，軍人はアター（俸給)制だったが，ブワイフ朝ではイクターという徴税権を有力者に与える制度に移行しました。

1055年には，中央アジアのシル川流域から興ったスンニー派のトルコ系セルジューク族がメルブを都とした後トゥグリル＝ベクに率いられバグダードに入城し，ブワイフ朝を打倒しアッバース朝のカリフからスルタン(権力者，判断者)の称号を得ました。

セルジューク朝はマリク＝シャーの時が最盛期でそのイラン人宰相のニザーム＝アル＝ムルクはイクター制を継承し各地にスンニー派のマドラサ(学院)，ニザーミーヤ学院をつくって神学者ガザーリーを招きました。スルタン，アルプ＝アルスラーンの時の1071年のマンジケルトの戦いではビザンツ帝国を破りました。セルジューク朝の流れを汲む王朝でイスラーム勢力として初めて組織的戦いを十

字軍に挑んだのがザンギー朝です。

セルジューク朝は諸勢力との抗争で分裂，小アジアのルーム＝セルジューク朝，中央アジア～西アジアはホラズム＝シャー朝に継承されました。ホラズム＝シャー朝は13世紀にチンギス＝ハンに滅ぼされたトルコ系イスラーム王朝です。

〈イベリア半島・マグリブ地方〉

マグリブとは「太陽の沈む所」の意です。北アフリカのチュニジア・アルジェリア・モロッコがマグリブ３国です。ベルベル人の世界で彼らはヨーロッパ人からはムーア人と呼ばれました。

８～９世紀にモロッコのフェズに建てられたイドリース朝は最古のシーア派です。11世紀に現モロッコの 34 にできたスンニー派のムラービト朝は1076年にサハラ砂漠のガーナ王国を滅ぼしました。イベリア半島ではキリスト教徒のレコンキスタ運動と対決しました。ムラービト朝を滅ぼしたのがムワッヒド朝で，都も系統も宗派もムラービト朝と同じです。

スペイン最後のイスラーム王朝はアラブ系ナスル朝グラナダ王国です。アルハンブラ宮殿は，「赤い」というアラビア語に由来します。1492年にアルハンブラ宮殿はスペインに無血開城し，レコンキスタ（国土回復）運動は完成しました。

〈エジプト〉

アラブ系シーア派のファーティマ朝を滅ぼしたのは12世紀のクルド系スンニー派のアイユーブ朝で，都はカイロです。建国者サラディン（サラーフ＝アッディーン）はクルド人です。アイユーブ朝を倒したのはトルコ系のマムルーク朝で，都はカイロです。バイバルスはモンゴル軍撃退の英雄です。アッバース朝がチンギス＝ハンの孫フラグに滅ぼされた直後にカリフの家族を庇護したので，そのうちカリフを称するようになりました。マムルーク朝のカイロはイスラーム世界の中心地になり『千夜一夜物語（アラビアン＝ナイト）』はここで完成しました。1291年にマムルーク朝が十字軍の最後の拠点アッコンを陥落させました。この時期カーリミー商人がインド洋で活躍しました。1517年にオスマン帝国のスレイマン１世により滅亡しました。

〈中央アジア〉

トルコ人の原郷はバイカル湖とバルハシ湖の間のアルタイ山脈付近です。現在，中国・ロシア・カザフスタン・モンゴルにまたがる地域です。トルコ人は漢代の中国では丁零・高車などで表記され，隋から唐にかけては鉄勒，突厥（この２つの派生語がテュルク→トルコ），唐の半ばからはウイグルとして活躍しました。ウイグルの宗教はマニ教だったが，その一派が西進しイスラーム化し初のトルコ

系イスラーム王朝カラハン朝をシルクロードの天山北路に建てました。都はベラサグンです。

アラル海に注ぐシル川とアム川の間がソグディアナです。この地域で最初にアッバース朝から独立したのがターヒル朝で，そこから自立したのがサッファール朝です。サッファール朝から自立したのが，ブハラを都に９～10世紀に成立したイラン系イスラーム王朝のサーマーン朝で，トルコ人傭兵奴隷マムルークを西方に供給したことで知られます。

このサーマーン朝を滅ぼしたのがカラハン朝で，ソグディアナがトルコ化し西トルキスタンとなりました。パミール高原の東，現中華人民共和国の新疆ウイグル自治区つまりタリム盆地（その大半がタクラマカン砂漠，古代中国史の西域）が東トルキスタンとなりました。

カラハン朝はカラキタイ（西遼）により滅亡しました。

〈イスラーム文化〉

ギリシア＝ローマ文化・イラン文化・インド文化など先進文化を摂取し融合した文化です。世界文化として発展し中世ヨーロッパに流入しました。中国から製紙法・羅針盤・火薬・活版印刷などの，インドから木綿・砂糖などの西伝を仲介しました。

固有の学問は『コーラン』に基づくアラブ人固有の学問分野のことで，法学・神学・文法学・書記学・詩学・韻律学・歴史学が含まれます。

外来の学問はギリシア・インドなどから導入された非アラブの学問で，哲学・論理学・地理学・医学・数学・天文暦学・光学・錬金術などを指します。

オマル＝ハイヤームはセルジューク朝時代のイラン系の詩人で科学者です。［ 35 ］の制定に参加しました。代表作は合理主義的悲観論と利那主義を四行詩集『ルバイヤート』に表現しました。ニザーム＝アルムルクはセルジューク朝のイラン系宰相でニザーミーヤ学院（マドラサ）をスンニー派の学問奨励のために開設しました。ガザーリーは同学院教授となりシーア派を批判しました。後にスーフィズムに傾倒し理論化しました。スーフィズムとは内面的救いを重視し神との一体感を求めて禁欲的に修行するイスラーム神秘主義のことです。

フィルドゥシーはガズナ朝時代のイランの民族詩人で，イラン建国からササン朝滅亡までの大長編叙事詩『シャー＝ナーメ（王の書）』というペルシア文学最高傑作の１つを著しました。イル＝ハン国のサーディーはペルシア人の詩人で『薔薇園』『果樹園』があります。

タバリーはアッバース朝期のイラン系イスラーム神学者・歴史家で，年代記的

世界史『預言者と諸王の歴史』を著しました。

イル＝ハン国がイスラーム化した時のウズベク＝ハンに仕えたイラン人宰相ラシード＝アッディーンは『集史』という遊牧民としてのモンゴル民族の回顧録を記しました。シャーマニズムという超感覚的な宗教だったモンゴル族が精緻な教則のイスラームに改宗して定住し都市を形成するという，本来の姿から変質し始めた時期に編まれたものです。

チュニス出身のイブン＝ハルドゥーンはマムルーク朝に仕えティムールと会見しました。『世界史序説』で都市と遊牧民との関係を中心に歴史発展の法則性を論じました。

コルドバ出身のイブン＝ルシュド(ラテン名アヴェロエス)はムワッヒド朝に仕えた哲学者・医者・法学者。アリストテレスの著作に注釈を加え中世西欧のスコラ哲学形成に影響を与えました。

モロッコのタンジール出身のイブン＝バットゥータは旅行家で，アジア・アフリカ・ヨーロッパを旅行し『三大陸周遊記』を口述しました。元末の中国を訪れました。シチリア島［23］でイドリーシーは『ルッジェーロの書』を著しました。またイブン＝ファドラーンは『ヴォルガ＝ブルガール紀行』を著しました。

サーマーン朝のブハラ出身のイブン＝シーナー（ラテン名アヴィケンナ)はイラン系の医者でありかつイスラーム哲学の完成者です。『医学典範』は12～16世紀の西欧医学で重用されました。

イラン人の［36］はアッバース朝で活躍。インド数学の影響を受けて代数学を発達させました。

19 ティムール帝国とサファヴィー朝ペルシア

〈ティムール帝国〉

チンギス＝ハンの次男チャガタイがトルキスタンを支配しました。14世紀に西チャガタイ＝ハン国にトルコ人ティムールが現れモンゴル帝国の再興を企てました。サマルカンドを都としたティムール帝国(1370～1507)です。

ティムールは北にキプチャク＝ハン国を攻め，西にはイル＝ハン国を併合し，さらにはバヤジット１世をアンカラの戦いで破りオスマン帝国を中断させ，南にトゥグルク朝の時のデリー＝スルタン朝のインドに遠征(サイイド朝はティムールの武将が建国)，東に向け永楽帝の明の遠征途上のオトラルで病死しました。

第３代シャー＝ルフはヘラートを首都としました。

第４代ウルグ＝ベクの建てたマドラサや天文台がサマルカンドにあります。

細密画（ミニアチュール）は 12 世紀アッバース朝の頃に本の挿絵として生まれ後に中国絵画の影響を受けました。サマルカンドの町に関していえば，「チンギス＝ハンが破壊しティムールが建設した」といわれます。

ティムール帝国はウズベク族のシャイバーニ＝ハンの南下で滅亡しました。西トルキスタンはヒヴァ，ブハラ，コーカンドのウズベク系３ハン国になり，これらは 19 世紀に帝政ロシアに併合され，ソ連を経て 1991 年にウズベキスタン共和国（首都タシケント）として独立しました。

〈サファヴィー朝ペルシア〉

ティムール帝国の南半分にはサファヴィー朝ペルシア（1501 ～ 1736）が成立しウズベク族の南下を 1510 年に撃退しました。撃退したのが神秘主義教団のイスマーイール１世で，シーア派の 12 イマーム派を国教としました。現在のイラン＝イスラーム共和国が 12 イマーム派である理由はここにあります。だからシーア派であることが最重要です。イスマーイール１世はスンニー派のオスマン朝のセリム１世に 1514 年のチャルディラーンの戦いで敗れました。

アッバース１世はタブリーズからイスファハーンに遷都しました。その繁栄ぶりは「イスファハーンは世界の半分」といわれ「イマームのモスク」があります。ペルシャンブルーの幾何学的植物模様（アラベスク）は楽園のイメージです。楽園思想は古くはゾロアスター教に見られユダヤ・キリスト・イスラーム教シーア派に継承されました。アッバース１世は［ 37 ］からホルムズ島を奪還しました。またオスマン帝国からはメソポタミアを奪還しました。

ササン朝以来 850 年ぶりのペルシアであったサファヴィー朝はアフガン人の侵入で滅亡しました。

20 インドのイスラーム化とムガル帝国

〈アフガニスタンのイスラーム王朝〉

初期イスラームのウマイヤ朝期からインドのイスラーム化は徐々に進行しました。しかし本格化するのは 10 世紀のアフガニスタンのイラン系イスラーム王朝ガズナ（ガズニー）朝マフムードが北インドに遠征してからです。続くゴール朝はイラン系を自称するアフガニスタンのイスラーム王朝でガンジス川流域までの北インドをイスラーム化し，仏像を破壊しインドにおける仏教の衰退を決定的なものとしました。この時期，北インドのヒンドゥー系ラージプート諸王朝は分裂抗

争していました。
〈デリー＝スルタン朝〉
インド初のイスラーム王朝はデリーを都としたトルコ系の奴隷王朝です。1206年にアイバクがつくった王朝でイクター制を導入しました。これに始まるデリー＝スルタン朝はトルコ系の奴隷→ハルジー→トゥグルク（イブン＝バットゥータが滞在，ティムールに侵攻される）→サイイド（ティムール系武将が建国）→ロディー朝（唯一アフガン系）の５つです。デリー＝スルタン朝では異教徒に対する弾圧はあまり見られませんでした。イスラーム神秘主義のスーフィー教団と神への絶対的帰依を唱えるヒンドゥー教の一派でインド在来のバクティ信仰（ラーマ信仰，クリシュナ信仰など）の類似性からヒンドゥー教とイスラーム教が融合しました。その融合を図ったカビールの影響を受けて［38］が創始したのがシク教で，パンジャーブ地方のアムリットサールに総本山の黄金寺院があります。
〈ムガル帝国〉
ティムールの子孫バーブルはウズベク族にサマルカンドを追われ，カイバル峠を越えてインドに入りデリーの北のパーニーパットの戦いでロディー朝を倒しました。モンゴル帝国がなまってムガル帝国（1526～1858）と呼びます。第２代フマユーンがスール朝に敗れ一時サファヴィー朝に亡命します。ウズベク族という共通の敵がいたからかくまってもらいました。
第３代アクバルは婚姻関係とジズヤ（人頭税）の廃止によりヒンドゥー教徒のラージプート族と融和しました。アグラに遷都しました。官僚と軍人の位階制度マンサブダール制で中央集権化を図りました。第５代シャー＝ジャハーンはアグラに愛妃ムムターズ＝マハルを偲びタージ＝マハル（インド＝イスラーム様式）を建立しました。設計したのはイラン人です。
第６代アウラングゼーブは版図をデカン高原まで拡げたうえでジズヤを復活したので異教徒の反発を招き，パンジャーブ地方のシク教徒，デリー南西のラージプート族，デカン高原のマラーター王国（シヴァージーが建国）との対決を余儀なくされました。
この第５，６代皇帝の時期にイギリスはマドラス（現チェンナイ），ボンベイ（現ムンバイ），カルカッタ（現コルカタ）に，フランスはポンディシェリとシャンデルナゴルに拠点を築きました。
イギリスはガンジス川河口のベンガル地方で1757年のプラッシーの戦いでフランスに勝ち優位に立ちました。ベンガル知事はクライヴです。伝統的な地主（ザミンダール）には徴税権を与えるのがザミンダーリー制です。マドラス付近で耕

作農民（ライヤット）から個別に徴税したのがライヤットワーリー制です。イギリスが勢力範囲を拡大したので，パンジャーブ地方のシク教国，デリー南西のマラーター王国，デカン高原のマイソール王国とそれぞれ戦争になりいずれもイギリスに屈しました。

〈シパーヒー（セポイ）の乱〉

イギリスの東インド会社の傭兵が宗教的理由から反乱を起こしました。ヒンドゥー教徒は牛を神聖，イスラーム教徒は豚を不浄と見なし，それぞれの脂を銃に使用することに抵抗しました。シパーヒーの乱です。反乱軍がムガル皇帝を擁立したので，イギリスは反乱鎮圧と共にムガル帝国を滅ぼしました。東インド会社も反乱の責任から廃止になり，イギリスによるインドの直接支配が始まりました（1858）。1857～59年の全民族的反英抵抗運動をインド大反乱といいます。北インドの小国の王妃で戦死した英雄がラクシュミー＝バーイーです。

14～17世紀に南インドを支配したヒンドゥー教国がペグー王国です。1498年にポルトガル人ヴァスコ＝ダ＝ガマがマラバル海岸のカリカットに来て1510年にゴアに総督府を置きアルブケルケが総督となりました。

21 アフリカのイスラーム諸王朝

ナイル川流域では，前8世紀にクシュ王国がエジプトを一時支配し首都メロエに最古の鉄工場がつくられピラミッドもつくられました。

4世紀にクシュ王国を征服したのがアクスム王国で紅海・地中海貿易で繁栄しました。コプト派のキリスト教を取り入れエチオピア教会が成立しました。8世紀にはイスラーム教が流入しました。

ニジェール川流域では，ガーナ王国がサハラの［39］とギニア産の金・象牙を交易し繁栄したが11世紀に現モロッコ・［34］のムラービト朝の攻撃で衰退しました。

14世紀にはマンサ＝ムーサ王のもと黒人イスラーム教国マリ王国が繁栄しカイロのマムルーク朝と交流，イブン＝バットゥータが来訪しました。マリ王国を征服したのがソンガイ王国です。トンブクトゥにイスラーム神学研究のために大学がつくられました。首都はガオです。

アフリカ東海岸都市は，北からマリンディ（現ケニア）・モンバサ・ザンジバル（現タンザニア）・キルワです。アッバース朝でザンジュ（黒人奴隷）の乱が起こるがザンジバル島などから供給された奴隷たちの反乱です。これらの都市はイ

スラーム商人とのジャンク船交易に従事し，金・象牙・奴隷を輸出しました。バントゥー語にアラビア語の語彙が加わりスワヒリ語(海辺の人の意)が成立しました。

ザンベジ川流域には石造建築で有名な[40]を中心にモノモタパ王国が栄えイスラーム商人と交易，[40]遺跡からは中国物産も発掘されました。

22 殷・周・春秋戦国時代

〈黄河・長江文明〉

黄河文明は黄土地帯を中心とした新石器文明で，その前半が前 40 ～ 20 世紀に黄河中流域に栄えた仰韶文化で，1921 年にスウェーデン人のアンダーソンが河南省で発見しました。住民は原シナ人で灰陶と西アジア伝来といわれている彩陶を使用し，特に後者から彩陶文化ともいわれます。

前 20 ～ 15 世紀に黄河下流域に栄えたのが竜山文化で，山東省竜山鎮の城子崖で発見されました。仰韶文化を受けて，殷と周の文化の原型を形成，灰陶と黒陶を使用し，ろくろを使用した光沢のある薄手の精良土器を使用し，特に後者から黒陶文化といわれます。

長江つまり揚子江文明は，河姆渡遺跡と上流の三星堆遺跡が代表です。

〈殷〉

黄河中流域の中原地方に前16～11世紀の中国最古の王朝である殷が栄えます。記録の残る最古の王朝は夏だが発掘された最古は殷です。商邑は殷の首都とみなされ殷墟と名付けられました。竜山文化より一歩進んだ青銅器文化です。都市国家連合の形をとった統一王朝で家父長的氏族社会を基礎に神権政治を行いました。占いのために亀甲，獣骨に刻んだ甲骨文字を持っていました。これは 20 世紀に入る時期に王国維と羅振玉よって解読されました。

〈周〉

周は陝西省渭水盆地から興り殷を滅ぼして建国，首都が鎬京であった時期を西周と呼びます。天命思想と易姓革命の考え方が特徴で，平和的方法を禅譲，武力的方法は放伐といいます。封土を媒介とした封建的主従関係で血縁関係を重視しました。宗法によって宗族が統制されていました。

〈春秋時代〉

犬戎の侵入によって前 770 年に周室は洛邑に東遷しました。以後を東周と呼びます。その前半が春秋時代，後半が戦国時代です。前 770 年から晋が韓・魏・趙

に三分した前403年までを孔子の魯国の年代記『春秋』からとって春秋時代といいます。春秋の五覇が登場し，尊王攘夷の気風の中で盟主を覇者と呼びます。

〈戦国時代〉

晋の分裂により戦国時代に入ると，周王を無視して王を自称，楚・韓・秦・魏・趙・斉・燕が戦国の七雄です。その中で強大化したのが法家の商鞅を用いて富国強兵に成功した秦で，前256年に周を滅ぼし戦国時代を終結させ前221年に中国を統一しました。

周代には鉄製農具が普及しました。鉄は牛犂耕による深耕と人工灌漑を可能にし農業の生産性を向上させます。余剰生産物は商工業を発達させ，交換の媒体としての青銅貨幣の使用が盛んになり大商人たちの国境排除要求も高まりました。

諸子百家のうちまず仁と礼を説いたのが孔子，そして性善説が孟子，性悪説が荀子でこれらが儒家です。兼愛説を説いたのが墨子で墨家です。無為自然を説いたのが老子と荘子で併せて老荘思想で道家です。秦と対決することを説く合従策の蘇秦と，秦と連動することを説く連衡策の張儀は縦横家です。法による秩序を説く法家は信賞必罰を旨とし秦の孝公に仕えたのが商鞅です。法家の理論を完成させたのが韓非です。秦王政つまり始皇帝に宰相として仕え法家の理論を実践したのが李斯です。

23 秦

秦の都は渭水を挟んで鎬京つまり長安の対岸の咸陽です。法家で思想統一され焚書坑儒が起こります。文字は篆書（小篆）で統一，［ 41 ］で貨幣が統一されました。郡県制を採用し全国36郡，のちに48郡に中央から官史が派遣されました。中央官制は丞相（政務）・太尉（軍事）・御史大夫（監察）。富豪は咸陽に集められ始皇帝は阿房宮に住みました。匈奴討伐の将軍は蒙恬であり，万里の長城がオルドス地方との間で修築されました。南方には桂林・象郡・南海の３郡が置かれました。臆病な始皇帝は来世でも秦の兵隊に守ってもらおうと生き埋めにしようとしたが，さすがに諫められたので実在する兵隊の彫像と埋葬されることにしました。これが兵馬俑です。

前209～208年に長城修復工事をきっかけに陳勝・呉広の乱が起きました。信賞必罰の法治主義だから遅刻は斬首の刑でした。その時の陳勝の言葉が「王侯将相いずくんぞ種あらんや」です。

24 前漢

陳勝・呉広の乱の中から頭角を現したのが楚の項羽と漢の劉邦で，匈奴の冒頓単于と三つ巴の争いとなります。劉邦が前206年に秦を滅ぼしました。前202年の垓下の戦いで劉邦つまり前漢の高祖が項羽を破って長安を都に前漢を開くが，前200年の白登山の戦いで匈奴の冒頓単于の捕虜になります。当初，前漢は郡県制を敷く地域と地方分権の封建制を敷く地域を合わせる郡国制をとりました。6代景帝の封土削減政策に対して，前154年に呉楚七国の乱が起こるがこれを平定して郡県制に移行します。

〈武帝の時代〉

７代目皇帝がかの武帝です。

武帝は衛青・霍去病に匈奴を征討させオルドス地方を獲得し，さらには敦煌など４郡を河西回廊に設置しました。また張騫をアム川上流のバクトリア地方の大月氏に派遣し匈奴を挟撃しようとしたがそれには失敗しました。張騫の西進に協力した遊牧民が［ 42 ］です。李広利をシル川上流のフェルガナ地方の大宛に派遣し汗血馬を獲得しました。朝鮮半島には楽浪郡など４郡を設置，また南越を征服し９郡を置きました。そのうち３郡が現在のベトナム領です。交趾(現ハノイ)と九真と日南(現フエ)の３つです。

董仲舒の献策で儒学を官学とし五経正義を設置しました。五経がこの頃定まりました。『詩経』『書経』『易経』『礼記』『春秋』の５つです。推薦制の官吏任用法である郷挙里選が実施されたが，地方豪族の中央進出に拍車をかける結果となりました。また桑弘羊の献策で均輸法・平準法の経済政策や塩・鉄，のちに酒の専売制が敷かれました。貨幣は五銖銭です。

哀帝の時の限田策という豪族の大土地所有制限策は失敗，また前漢は概して皇后の一族である外戚が実権を握る時期であり，それに宦官も抗争に参入しました。

〈新〉

８年に外戚の王莽に乗っ取られ，王莽は新(８～23)という王朝を長安を都に建てます。周の理想と儒教の原理主義的に傾いた支配に人心は離れ，18～27年の赤眉の乱で新は滅亡しました。

25 後漢

赤眉の乱の中から登場したのが南陽の豪族の劉秀つまり後漢の光武帝で，25年 洛陽を首都として漢を再興しました。ベトナムの独立を目指した徴姉妹の反乱を鎮圧しました。57年に漢委奴国王印を授けた(1784年に福岡県志賀島で発見)ことが『後漢書』東夷伝に出てきます。ちなみに倭に関する最初の記述は『漢書』地理誌です。

周辺諸国の君主が中国皇帝に朝貢の使節を送り，中国皇帝が位階(王・諸侯などの称号)や返礼品を与えることで成立したのが冊封体制です。邪馬台国の卑弥呼は魏に朝貢使節を送りました。

後漢の最盛期は1世紀後半で，西域都護の班超の活躍で領土を拡大しました。班超の拠点は亀茲(クチャ)です。部下の 43 を大秦国に派遣しようとしたがパルティア付近で断念しました。2世紀には官僚と宦官の権力争いが激化し，166年には宦官が儒者の官僚を弾圧する党錮の禁という事件が起きました。この166年には日南(フエ)に大秦王安敦(マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス帝)の使者が来たと『後漢書』に出てきます。

後漢末には疫病・飢饉・いなごの大量発生などの天災に見舞われ，治病を説く宗教が流行しました。張角の太平道と張陵の五斗米道(天師道)がその代表で，張角を指導者として184年に黄巾の乱が起きその中から曹操，劉備，孫権が登場します。

〈漢の文化〉

後漢の儒学は経典の注釈を主とする公羊学で後漢の鄭玄が完成しました。鄭玄は党錮の禁で一時拘束された人物です。後漢の許慎が編纂した中国最古の字典が『説文解字』です。前漢武帝までの歴史を紀伝体で編んだのが司馬遷の『史記』，前漢高祖から王莽までを紀伝体で編んだのが班固(西域都護の班超の兄)の『漢書』です。また宦官の蔡倫が製紙法を改良し105年に和帝に献上，のちに751年の唐代のタラス河畔の戦いで高仙芝がアッバース朝に敗れイスラーム世界に伝わりました。

26 魏晋南北朝

〈三国時代〉

220年後漢の献帝が魏の曹操の子曹丕に禅譲して滅亡，魏が洛陽の支配者となります。漢の皇族であると自称した劉備は221年に成都を都に蜀を建国，諸葛亮(諸葛孔明)を三顧の礼で迎えました。後漢末の208年の赤壁の戦いでは呉の孫権と連合し曹操を破った諸葛亮も，234年の五丈原の戦いで司馬懿(司馬仲達)に敗れ陣没，結局蜀は魏により滅亡しました。しかし魏は司馬懿の孫の司馬炎の晋に乗っ取られました。280年に晋が建業(現南京)を首都とした呉を滅ぼして三国時代に終止符が打たれます。

〈西晋〉

豪族の連合体であった晋つまり西晋で八王の乱が起きます。そのころ五胡の活動が盛んになり始めます。五胡とはモンゴル系といわれる匈奴と羯，トルコ系かモンゴル系といわれる鮮卑，チベット系に違いない氐と羌の５つです。そのうち，匈奴の劉淵が漢を建国した304年からを五胡十六国時代といいます。劉淵の子劉聡が洛陽を荒廃させたのが永嘉の乱です。これは中国の王朝の都が蛮族により荒廃した最初のケースです。司馬一族の司馬睿は江南の建康つまり南京に逃れ(316晋の南渡)，以後を東晋(317～420)といいます。

〈東晋〉

数十万人が江南に移住したので，東晋では江南の開発が進みました。一方，五胡は華北に十六国を建国しました。十六国をつくったのが五胡だけでなく漢人の国も３つあります。

氐の前秦が383年の淝水の戦いで東晋に敗れ，北と南が別世界になります。

〈北魏〉

十六国のうち５つをつくったのが鮮卑族です。386年に鮮卑族拓跋氏がつくったのが北魏です。拓跋珪(道武帝)が建国しました。439年に太武帝が華北統一して五胡十六国時代(304～439)が終わります。

北魏の太武帝は［44］の新天師道を道教として国教化し，代わって仏教を弾圧しました(後漢の天師道(五斗米道)に葛洪の『抱朴子』などの神仙思想が結びつき新天師道となりました)。これが中国史における４大仏教弾圧「三武一宗の法難」の最初のケースです。北魏の太武帝，北周の武帝，唐の武宗，後周の世宗の４人です。太武帝の死後仏教は解禁となり，その記念として首都平城(大同)には

ガンダーラ風の雲崗の石仏がつくられます。孝文帝は485年に均田制を施行，494年には洛陽に遷都します。北魏においては奴婢や耕牛にも田が支給されそれらを所有する豪族の大土地所有が黙認される形となりました。洛陽西郊につくられた石仏が中国風の竜門です。

遊牧民突厥対策の北魏の辺境軍団を六鎮といいます。六鎮の乱の結果，北魏は西魏と東魏に分裂，それぞれが北周，北斉となります。北周が北斉を滅ぼしました。北周の外戚楊堅が隋を建国し南朝の陳を滅ぼし589年中国を統一します。

〈南朝〉

東晋は劉裕が建てた宋(劉宋)に滅ぼされ，宋→斉→梁→陳(都は建康)と交替します。呉(都は建業)・東晋(都は建康)と合わせて六朝といいます。建業も建康も現在の南京です。

〈諸制度〉

豪族の大土地所有を制限しつつ安定した税収を確保するため，魏晋南北朝時代の各王朝は諸制度を施行しました。魏の屯田制，西晋の占田・課田法，南朝の東晋から宋にかけての土断法(華北からの移民に戸籍をつけ豪族の私有民になることを阻止)，そして北魏以降の北朝の鮮卑系各王朝の均田制と戸籍調査・徴税，均田制実施を担当する三長制，西魏の宇文氏の府兵制です。北魏の均田制は奴婢や耕牛にも，ということはそれらを所有する豪農には多くの土地が与えられたが，隋ではそれらには支給されず，唐に至っては女子にも支給されませんでした(寡婦(未亡人)には支給されました)。

新たな官吏登用法が魏の九品官人法(九品中正)です。各地の中正官が地方の人材を9品等に評定して中央に報告，中央がそれに基づいてその人物を任官させるシステムです。豪族の子弟が上級官職を独占し門閥貴族を形成，「上品に寒門なく下品に勢族なし」という状況になりました。

〈魏晋南北朝時代の文化〉

江南地域を中心とした文化を六朝文化といいます。文学においては四六駢儷体が流行しました。東晋の陶淵明(陶潜)は「帰去来辞」で有名な自然詩人です。宋の謝霊運は山水詩人です。梁の昭明太子は『文選』を編みました。画聖といえば「女史箴図」を描いた東晋の顧愷之，書聖といえば「蘭亭序」の東晋の[45]です。儒教に代わって老荘思想が流行し，虚無的で超世俗的談義である清談が上流階級で語られいわゆる竹林の七賢といわれた人たちが活躍しました。

五胡十六国時代の西域僧で霊能者の仏図澄は洛陽で布教しました。仏図澄の中国人弟子が道安，その弟子が慧遠で白蓮社を組織し浄土宗へと発展しました。仏

典を漢訳した西域僧の［46］は長安で布教しました。いずれも亀茲出身です。南北朝時代ではないことが要注意です。

北魏では賈思勰の『斉民要術』の農書，酈道元『水経注』の地理学など産業の実用書が特色です。後漢の張仲景の医学書『傷寒論』を西晋の王叔和が整理しました。東晋の僧法顕はグプタ朝時代のインドへ行き帰国し『仏国記』を著しました。インド僧の臨済は6世紀に海路来中し禅宗の祖となりました。西晋では陳寿の『三国志』が南朝の宋では『後漢書』が編纂されました。

27 隋・唐

〈隋〉

581年に隋を建国した楊堅つまり隋の文帝は589年に南朝の陳を滅ぼし中国を統一しました。都は大興といわれた長安，現在の西安です。律令制の骨格を整え，均田制・府兵制による兵農一致の原則を確立しつつ租調庸制により税収を確保，また科挙を実施し，魏以降の九品中正による「上品に寒門なく下品に勢族なし」といわれた門閥貴族による官職の独占を防止しようとしました。遊牧民の突厥を討伐したので突厥は東西に分裂しました。2代目の煬帝は鮮卑系の吐谷渾を破って西域に進出しました。黄河～淮水～長江を結ぶ大運河建設という費用のかさむ事業に明け暮れ人民は重税に苦しみました。だが政治の中心の華北と経済の中心の江南が結ばれるきっかけとはなりました。また三度にわたる高句麗遠征にも失敗しました。

隋は618年に親族の李淵によって滅亡，これが山西を本拠地とした唐の建国で都は隋に引き続き長安でした。

〈初唐〉

李世民が唐の太宗でその治世を貞観の治と呼びます。太宗と部下の問答集が『貞観政要』です。律（刑法）令（行政法・民法）格（補充改正）式（施行細則）を整備しました。三省六部一台の中央官制を確立しました。中書省では詔勅の草案が起草され，門下省では詔勅が審議され，尚書省のもとにある吏・戸・礼・兵・刑・工の六部で詔勅が施行されました。

ただし門下省は門閥貴族の子弟の牙城で，彼らには詔勅に対する拒否権がありました。科挙合格者数は年間十数人だったから，実際の役人は貴族の世襲（蔭位の制）でした。官吏の監察機関が御史台です。

租（穀物）庸（中央での労働）調（布）雑徭（地方での労働）が税で，農閑期に均田農

民を折衝府で訓練し府兵制を実施しました。首都を警護したのが衛士，辺境防備が防人です。地方は道・州・県に区分する州県制が敷かれ，辺境には６つの都護府が置かれました。

〈高宗〉

３代目の皇帝は高宗で唐の領域は最大となります。朝鮮半島の百済を滅ぼし(660) 663年の白村江の戦いで新羅と組んで倭(日本)を滅ぼし，高句麗も征服しました(668)。新羅に対しては冊封国として独立を承認しました。西突厥を滅ぼし，ソグディアナ地方を支配下に置きました。皇后が則天武后で高宗の死後，史上唯一の女帝となり国号は周と改め，旧勢力を根絶しました。高宗の息子の中宗もその妻，韋后に毒殺されました。この２人の女性の政権を武韋の禍といいます。

〈盛唐〉

これを収拾したのが玄宗でその治世の前半を開元の治といいます。この頃から均田制が動揺し荘園が発達しました。府兵制は募兵制に切り替えられ，辺境を節度使が守りました。政治に飽きた玄宗は後半には楊貴妃を溺愛し，彼女のまたいとこの楊国忠が宰相になります。それと対立した節度使安禄山・史思明が指導した安史の乱が755年に起きました。それはトルコ系の突厥の援助で鎮圧しました。

節度使の勢力はさらに増大し行政権や財政権も掌握し半独立国化し藩鎮となって唐の統治の基盤は大いに緩みました。兵農一致の原則が崩れ，780年に楊炎の献策により資産の対して課税される両税法が施行され唐は財政国家となり，私有地(荘園)が公認され均田体制は終焉しました。

〈晩唐〉

両税という直接税より塩の専売税は唐朝の主要な財源だったが，塩の高い公定価格に菜食の農民は常に苦しみました。であるから，塩の密売商人は民衆のヒーロー的存在でした。875年に密売商人王仙芝と黄巣が黄巣の乱を起こすとそれが拡大，この反乱は突厥の李克用により鎮圧されました。894年に菅原道真は遣唐使を廃止，その後，朱全忠により唐は滅ぼされ，彼が後梁を開封に樹立して武断政治の五代十国の時代に突入します。

〈唐の社会〉

唐代には首都長安のほか, [47] が置かれた広州や泉州・揚州などが繁栄しました。また，飛銭が普及し貨幣経済が発展しました。

〈唐の文化〉

詩では盛唐期では詩仙李白，詩聖杜甫です。中唐期では楊貴妃の悲劇をうたっ

た「長恨歌」の白居易です。文章としては唐宋八大家の韓愈と柳宗元らが六朝文化の四六駢儷体を批判しました。儒学は引き続き訓詁学で孔穎達が科挙のテキストとして『五経正義』を編纂しました。道教は帝室に保護されました。仏教では，玄奘は７世紀前半に陸路でヴァルダナ朝期のインドのナーランダー僧院へ行き『大唐西域記』を，義浄は７世紀後半海路で分裂期のインドへ行き『南海寄帰内法伝』を著しました。外来の宗教は祆教と呼ばれたゾロアスター教，マニ教，景教と呼ばれたネストリウス派キリスト教（大秦景教流行中国碑にその痕跡），回教と呼ばれたイスラーム教です。

28 五代・宋

〈五代十国の時代〉

後梁・後唐・後晋・後漢・後周が五代です。都は後唐を除いて開封でした。五代のほかに十国ができました。五代のうち後唐・後晋・後漢はトルコ系の王朝であり，とりわけ後晋を建国した石敬瑭は建国援助の代償として燕雲十六州つまり現在の北京・大同付近をモンゴル系契丹族で中国最初の征服王朝である遼に割譲しました。節度使による武断政治の時代です。

〈北宋〉

後周の節度使の趙匡胤が開封を都に960年に宋（北宋）を建国しました。この王朝は節度使の権限を縮小する文治主義を徹底し，その一環として科挙に最終面の殿試を加え皇帝と師弟の契りを交わし君主独裁体制を確立しました。科挙は後に進士科（詩賦の才能）に一本化されました。また門下省を中書省に吸収しました。宋の中国統一は２代目太宗の時です。

宋は読書人という知識人が活躍する時期で，唐末五代十国時代の混乱の中で没落した門閥貴族階級に代わって台頭した読書人たちが士大夫階級を形成していきます。地主たちを［　48　］，収穫の５割を小作料として支払う小作人を佃戸，科挙合格者を出した家を官戸といいます。ただ文治主義のゆきすぎと精鋭部隊を禁軍として近衛兵としたことは，1004年の澶淵の盟で弟である遼に対して銀・絹を貢ぐことになり，1044年の慶暦の和でチベット系タングート族李元昊が建国した西夏にも臣下の礼をとらせたにもかかわらず，銀・絹・茶を貢ぐことになります。

このような対外消極策や官僚への給与のため財政は苦しくなり，神宗が登用した汪兆銘は1069年に新法による富国強兵策を開始します。農民に低利で種を支

給する青苗法，中小商人に低利で融資する市易法あとは均輸法と募役法です。強兵策としては保甲法・保馬法です。しかし既得権益を守りたい勢力の利益を背負った旧法党の司馬光らの抵抗勢力により新法は挫折しました。

〈靖康の変〉

沿海州にツングース系女真族完顔阿骨打が建国した金が勃興，宋は金と謀って遼を挟撃して滅ぼしたが，違約から金を怒らせ，金が南下し宋の上皇の徽宗と皇帝の欽宗を連行して辱めました。これを靖康の変(1126 ~ 27)といいます。欽宗の弟趙構(南宋の高宗)が臨安つまり杭州に南渡し，以後を南宋といいます。

〈南宋〉

南宋では金に対する主戦派岳飛(大義名分を主張)と和平派秦檜が対立，結局，淮水と秦嶺山脈を国境とし金との和平(紹興の和議)が成立したが，南宋は金に対して臣下の礼をとったので秦檜は中国史における売国奴の代名詞的存在となりました。しかし彼のお陰で南宋に150年の繁栄がもたらされました。江南の開発はさらに進みました。最終的には1279年の厓山の戦いでフビライの元により滅亡します。

〈宋の社会〉

宋代には占城米が普及，また江南開発が進み「蘇湖(江浙)熟すれば天下足る」といわれました。外国貿易は唐に引き続き［47］により行れました。羅針盤が実用化し［49］により海外貿易に進出しました。紙幣は北宋が交子，南宋が会子で，同業者組合は商人組合を行，手工業者組合を作といいました。

〈宋の文化〉

宋代の儒学の祖は北宋の周敦頤であり大成したのが，南宋の朱熹です。『四書集注』は朱熹の著作です。性即理・華夷の別・大義名分論が朱子学の骨子で征服王朝がブレイクした時期に漢民族を奮い立たせるものでした。一方，陸九淵は朱熹に対抗し心即理を唱え，明代の陽明学形成に影響を与えました。歴史書としては北宋の司馬光が編年体で『資治通鑑』を，欧陽脩が紀伝体で『新唐書』を編みました。『資治通鑑綱目』は南宋の朱熹です。北宗画は宮廷の画院中心の院体画で写実的，南宗画は知識人中心の文人画で室町時代の水墨画に影響しました。広西省景徳鎮で陶磁器の生産が拡大しました。

宗教は浄土宗や禅宗が流行しました。また金支配下の華北では王重陽により儒・仏・道教が融合した全真教が成立しました。江南では天師道系の正一教が隆盛しました。発明された3大技術が木版印刷術，火薬，羅針盤です。

〈征服王朝〉

遼は916年にモンゴル系契丹族の耶律阿保機が建国しました。926年に渤海を滅ぼし，936年には耶律堯骨は後晋から燕雲十六州を獲得したが，1125年には宋と金により滅ぼされました。一族の［50］が中央アジアへ逃れカラハン朝を滅ぼしカラキタイ（西遼）を建国しました。遼の統治制度は二重統治体制で，契丹族には部族制で北面官を，漢民族には州県制で南面官を設置しました。西夏はチベット系タングート族で李元昊が1038年に建国したが，1227年にチンギス＝ハンにより滅ぼされました。

29 モンゴル帝国と元

〈チンギス＝ハン〉

1206年テムジンはモンゴル高原を統一しクリルタイ（部族長会議）でチンギス＝ハンになりました。モンゴル系の遼を滅ぼしたツングース系の金打倒を目標としたが，ホラズム＝シャー朝のオトラルの地方長官の非礼への復讐から西に遠征し，ホラズムとナイマン部と西夏を滅ぼしました。兵制は千戸制です。

チンギス＝ハンにはジュチ・チャガタイ・オゴタイ・トゥルイの４男子がいたが，オゴタイ＝ハンが２代目大ハンとなりました。

〈オゴタイ＝ハン〉

オゴタイ＝ハンはカラコルムに都を定め金を打倒し，兄ジュチの子バトゥに西征を命じました。バトゥはモスクワを経てキエフ公国を滅ぼしました（1240）。ちなみにモスクワの政治の中枢クレムリンのクレムはモンゴル語で「砦」，キエフのあるウクライナのクライはモンゴル語で「辺境」を意味します。

バトゥは1241年にオーデル川上流のワールシュタット（リーグニッツ）の戦いでドイツ・ポーランドの諸侯連合を破ったがオゴタイの死で引き返しました。

オゴタイの子で３代目大ハン，グユク＝ハンの時に宣教師プラノ＝カルピニがカラコルムに来ました。

チンギス＝ハンの末子トゥルイの子モンケが４代目大ハンになりました。ルイ９世が派遣した宣教師ルブルックがカラコルムに来ました。モンケは弟フビライに大理と高麗を，弟フラグにアッバース朝の都バグダードを攻撃させました（1258）。

〈フビライ即位と４ハン国〉

中国好きのフビライが上都で５代目大ハンになると弟のアリクブケがカラコルムで反乱を起こしました。アリクブケを支持しオゴタイ家のハイドゥがフビライ即位に反旗をひるがえしハイドゥの乱になりました。この反乱でモンゴル帝国は

元と３ハン国に分裂しました。
〈チャガタイ＝ハン国〉
チャガタイが建国，都はアルマリクです。イスラーム教を受容したが，東西に分裂後西から登場したティムールにより滅亡しました。
〈キプチャク＝ハン国〉
バトゥが建国，都はドニエプル川に沿ったサライです。ウズベク＝ハンが全盛でイスラームを受容し新サライに遷都しました。新サライは第二次世界大戦の最激戦地スターリングラード(現ヴォルゴグラード)です。モスクワ大公国が自立した後分裂しました。
〈イル＝ハン国〉
フラグが建国，都はタブリーズです。初めはネストリウス派キリスト教だったが［ 51 ］の時にイスラーム化した，ティムールに征服されました。
〈元〉
フビライは大都(現在の北京)を建設，そこを都として元(1271 ～ 1368)を創始しました。元はモンゴル人と色目人(西域人)３％，漢人(旧金支配下の諸民族)と南人(南宋支配下の主に漢民族) 97％でした。漢民族は当初，登用されなかったので科挙は一時廃止されました。ゆえに儒学者は浮浪者なみの職種に墜ちました。九儒十丐，丐とは乞食のことです。
フビライはラマ教サキャ派のパスパを師と仰ぎ，パスパ文字を採用しました。北京にはラマ教寺院が点在します。中央官制は中書省，地方は行中書省(現在の中国の省の原型)でダルガチが巡察しました。駅伝制度がジャムチでその通行許可書が牌符(パイザ)でパスパ文字が記されています。モンテ＝コルヴィノはカトリックの布教のため大都に来て聖書をモンゴル語に訳しました。パガン朝(緬＝現在のミャンマーはこの字の音読み)を征服しました。しかし，ジャワ島(元軍の遠征の混乱期にシンガサリ朝が倒れマジャパヒト王国ができました)，ベトナム(陳朝大越)，執権北条時宗(鎌倉時代)の日本遠征の３つの遠征には失敗しました。
隋代の運河を南北につなぐ大運河をつくったが，ラマ教への濫費と交鈔の乱発によるインフレで経済は混乱，1351 年に始まる紅巾の乱(白蓮教徒が指導)で滅亡しました。
〈ユーラシアの成立と世界史の誕生〉
モンゴル帝国が成立した 13 世紀にはヨーロッパとアジアが一体化しユーラシアが成立し，モノとヒトが交流しました。「世界史」の誕生です。宋代中国の三大発明の羅針盤・印刷術・火薬がヨーロッパに伝わります。中国絵画の影響でイス

ラーム世界にミニアチュール(細密画)が成立しました。

〈元の文化〉

元曲などの貴族文化が発達しました。王実甫の恋愛物語が『西廂記』，前漢時代の王昭君の悲劇が『漢宮秋』，出世主義の夫と貞節の妻の物語が『琵琶記』です。

イスラーム暦を基に郭守敬が「授時暦」を作成，日本の江戸時代の貞享暦に影響しました。

30 明

〈洪武帝〉

明の太祖洪武帝は一世一元の制を開始，中央集権体制つまり親政体制を確立しました。中書省を廃止し六部を皇帝直属としました。朱子学を官学化し，明律・明令を制定しました。［52］を土地台帳，賦役黄冊を戸籍・租税台帳として財政を確保しました。軍戸と民戸を組織し兵農一致の衛所制，元の制度を原形として里甲制という村落組織をつくり徴税・治安維持のための連帯責任を負わせることにしました。また，６か条の教訓である六諭を公布し民衆を教化しました。

〈永楽帝〉

２代目建文帝は洪武帝の孫であるが，彼の封土削減政策に対して燕王朱棣が蜂起し勝利を収め(靖難の役 1399 ～ 1402)，北京に遷都し３代目永楽帝となりました。彼が北京に築いたのが紫禁城です。

永楽帝はモンゴルに５回親征しました。また宦官鄭和を遠くアフリカ東岸マリンディまで派遣し朝貢を促進しました。内閣大学士を設置し親政を補佐する体制をつくりあげました。永楽帝の死後，宦官が台頭し政治は混乱しました。

〈北虜南倭〉

明の外患のことを北虜南倭といいます。まず北虜です。1449 年の土木の変でモンゴルのオイラート部のエセン＝ハンが侵入し英宗正統帝が捕虜となり連行されました。次いでタタール部がダヤン＝ハンにより統一した後，1550 年にアルタン＝ハンが北京を包囲しました。南倭とは倭寇の活動であるが，前期は日本人，後期は中国人中心でした。結果，海禁政策が緩和されました。

〈一条鞭法〉

万暦帝の代 1572 ～ 82 年に改革したのが張居正であり，その頃，マニラ経由でサカステス銀山のメキシコ銀やペルーのポトシ銀山の銀をスペイン人が東方物産の決済手段として流入させ，また島根県石見の馬蹄銀も流入したので，潤沢な銀

を背景に銀納による税の簡素化を図る一条鞭法が成立しました。この税法は，土地税と人頭税(賦役)を一括して銀納するものです。スペイン人レガスピによるマニラ建設が1571年です。フィリピンはスペイン王フェリペ2世に由来するが，フェリペ2世は1571年にプレヴェザの海戦でオスマン帝国を破っています。

〈明の滅亡〉

16世紀末の豊臣秀吉の朝鮮出兵に際し朝鮮(李朝)に援軍を出し財政が逼迫し，次いで東北地方の女真族の後金との抗争によりさらに財政は困窮，農民に重税を課しそれが李自成の乱を引き起こし毅宗崇禎帝が自殺，1644年の李自成の北京入城で明は滅亡しました。

〈明の社会経済〉

明代には長江中流域へと穀倉地帯が移動し，「湖広熟すれば天下足る」といわれました。山西省の山西商人と安徽省の新安商人の活動が盛んです。同郷者の互助機関である会館と同業者の互助機関である公所ができました。中華思想と朝貢システムにより海禁が徹底すると華僑(南洋華僑)として東南アジアへ移住するものが急増しました。

〈明の文化〉

朱子学を官学化し漢民族の中華思想を理論化するために永楽帝期に国家的編纂事業がなされました。中国最大の百科事典『永楽大典』，科挙の基準として『四書大全』『五経大全』が編まれました。

これに対し，宋代の陸九淵の説を発展させ心即理，知行合一，致良知を唱え，実践を重視した陽明学が王陽明(王守仁)により大成しました。明末清初に登場した考証学が顧炎武と［ 53 ］です。

16～17世紀には実学が多く，例えば李時珍の『本草綱目』，徐光啓の『農政全書』，宋応星の『天工開物』，アダム＝シャールと徐光啓が著した西洋暦法による暦法書が『崇禎暦書』です。庶民文学では4大奇書が成立しました。『水滸伝』『三国志演義』『西遊記』『金瓶梅』です。景徳鎮では染付・赤絵などの陶磁器が発達しました。

31 東南アジア史

〈スマトラ島〉

パレンバン中心の7世紀のシュリーヴィジャヤ王国です。唐の僧義浄が立ち寄りました。

〈ジャワ島〉

シャイレンドラ朝は８～９世紀にジャワ島中部に大乗仏教の仏塔(ストゥーパ)ボロブドゥールを建立しました(1814年発見)。ジャワ島のヒンドゥー教のクディリ朝はワヤン(影絵)で有名です。13世紀，フビライ＝ハンの時代の元軍侵入の混乱期に滅亡したのがシンガサリ朝，誕生したのがマジャパヒト王国です。これは東南アジア最後のヒンドゥー教国でシュリーヴィジャヤを併合しました。

東南アジア最初のイスラーム教国はマラッカ王国です。そのマラッカ王国を1511年にポルトガルが征服します。香料諸島(モルッカ諸島)制圧の拠点とするためです。

インドネシアの島々はイスラーム化しスマトラ島にアチェ王国が，ジャワ島西部のバンテン王国と中部のマタラム王国(16世紀)ができました。そしてオランダが1619年にバタヴィア(現ジャカルタ)を建設します。ちなみにオランダ人とはゲルマン系バタウィ人です。

〈ミャンマー史・イラワジ川流域〉

ビルマ人最初の国家がパガン朝です。これが「緬」と表記されたので1988年からミャンマーになりました。上座部仏教がスリランカから移入，しかし元軍により滅亡しました。次がトゥングー朝，その次がコンバウン(アラウンパヤー)朝でタイのアユタヤ朝を征服しました。19世紀にアッサム地方の茶畑に野心を持つイギリスと争いイギリス領に編入されました。

〈タイ・チャオプラヤー（メナム川)流域〉

先住民族がつくったのが［ 54 ］です。

タイ族が中国雲南省付近に南詔をつくるがフビライに攻められ南下し，スコータイ朝をタイにつくりました。ラーマ＝カムヘン王が上座部仏教を採用しました。

14～18世紀がアユタヤ朝です。カンボジア・クメール王国からアンコール地方を獲得したがミャンマーのコンバウン朝により滅ぼされました。

そしてラタナコーシン朝です。プラヤー＝チャクリ(ラーマ１世)がつくったのでチャクリ朝という現在のタイ王室で，都はバンコクです。

〈ベトナム〉

南越国は秦の始皇帝に攻められ前漢の武帝に滅ぼされました。紀元前のドンソン文化の遺物が銅鼓です。東南アジア最古の国家は扶南(プノム)です。港市国家の代表でオケオからはローマ皇帝の刻印された金貨が見つかります。クメール人の真臘により滅亡しました。そのクメール王国の12世紀のスールヤヴァルマン２世が造営したのが，ヒンドゥー寺院(のちの仏教寺院)アンコール＝ワットです。

ジャヤヴァルマン７世が建てた都がアンコール＝トムです。

ベトナムは現在54の民族により構成されているが北緯17°以南のチャンパーは林邑→環王(唐の時代)→占城と表記されました。

中国が征服王朝の時代に突入する11世紀に，昇竜といわれたハノイに李朝大越ができました。次が陳朝大越です。元軍を撃退したが明の永楽帝に征服されました。陳朝で民族文字，チュノム(字喃)がつくられました。黎利が明から独立し黎朝大越となります。この国がチャンパーを征服し南北ベトナムを統一します(15世紀)。18世紀の西山朝を経て1802年に阮福暎がフランス人宣教師ピニョーの助力を得て阮朝越南を建国しました。都はフエです。

32 大航海時代

〈ポルトガル〉

ポルトガルの［ 55 ］は1415年にアフリカ西北端，ジブラルタル海峡の南岸の港市セウタを攻略しました。また彼が派遣した探検家が1445年にアフリカ大陸の最西端，ヴェルデ岬を発見しました。

ジョアン２世の命でポルトガルの航海者バルトロメウ＝ディアスが出発しアフリカ南端を発見(1488)，ジョアン２世が「喜望峰」と呼びました。

ポルトガルの航海者ヴァスコ＝ダ＝ガマはリスボンを出航し，喜望峰を回り，アフリカ東岸のイスラーム圏に沿って北上し，マリンディで水先案内人を得てインドに直航し1498年カルカッタに到達しました。

〈コロンブス〉

イタリア・フィレンツェの天文・地理学者トスカネリの地球球体説がコロンブスの航路選択に影響したといわれます。

イタリア・ジェノヴァ生まれのコロンブスは，レコンキスタ運動の完成(ナスル朝グラナダ王国のアルハンブラ宮殿陥落)を目撃した後，スペイン女王イサベルの後援を得てパロスを出航し72日後に現バハマ諸島に到着しました(1492)。

コロンブス一行が最初に上陸した島はサンサルバドルと命名され，コロンブスの誤認によりカリブ海東部は西インド諸島と呼ばれるようになりました。

〈その他〉

イタリアのカボット父子は英王ヘンリ７世の後援で，現在のニューファンドランド・北アメリカ沿岸を探検しました。

ブラジルはジョアン２世の時のトルデシリャス条約(1494)で認められていた

が，ポルトガルの提督カブラルの発見により中南米唯一のポルトガル領となりました。また，スペインの探検家バルボアはパナマ地峡を発見しました。

フィレンツェのアメリゴ＝ヴェスプッチは4回にわたって新大陸を探検，「アメリカ」という名称のもととなりました。

ポルトガル人のマゼラン(マガリャンイス)はスペインのカルロス1世の援助でセビーリャを出航，南アメリカ南端から太平洋を横断，1521年現フィリピン諸島に到達したがマクタン島の首長に殺されました。

33 古アメリカ文明

古代アメリカ文明の特色は青銅器であること，鉄器・車・牛・馬などはなかったことです。農耕文化で，トウモロコシ・ジャガイモ・タバコ・トマトなどが栽培されました。

〈メキシコ文明〉

メキシコ中心のメソ＝アメリカ(中米)文明は，紀元前の先進文明がオルメカ文明です。その後の［ 56 ］は「太陽のピラミッド・月のピラミッド」で有名です。ずっと後代にメキシコシティつまりテノチティトランにアステカ文明が栄えます。スペイン人コルテスにより1521年に滅びました。マヤ文明はメキシコのユカタン半島からグアテマラにかけての文明で，ティカルとチチェン＝イッツァが中心です。マヤ文明はスペイン人に滅ぼされました。

〈アンデス文明〉

南米アンデス文明の先進文明はチャビン文化です。13世紀成立のインカ帝国の都はクスコです。神殿･文字を知らずキープ(結縄)で数量を表しました。鉄器･車輪は使用せず，太陽を崇拝しました。インカ帝国最後の王アタワルパは1533年スペイン人ピサロに騙されて殺され征服されました。

1545年にボリビアのポトシ銀山が開削されるとインディオが奴隷として酷使されました。植民者が国から先住民の教化と保護を条件に土地・住民の統治を委託され賦役労働を課すのがエンコミエンダ制です。植民地機構としては管区統治の中枢がアウディエンシアです。17世紀からはアシエンダという大農園制に移行しました。

スペインの聖職者ラス＝カサスは1552年に『インディアスの破壊に関する簡潔な報告』で虐待を非難，インディオからアフリカ人に労働力が変化しました。植民地生まれの白人はクリオーリョです。インディオとの混血層がメスティーソ，

黒人との混血がムラートです。

34 ルネサンス

16世紀アンリ２世の頃のフランスにル＝ネートル（フランス語で再び生まれる）という言葉が登場しました。この言葉を19世紀のスイスの歴史家ニーチェが『イタリア＝ルネサンスの文化』で概念としてのルネサンスとして確立しました。

12世紀ルネサンスという言葉があります。西欧における知の復興運動のことでシャルトルやパリなどの司教座付属の自由学芸教育の活性化から始まりました。例えばローマ法への関心が高まりボローニャ大学で法学教育が盛んになりました。スペインのトレドやシチリア島のパレルモではアラビア語の文献がラテン語に翻訳されました。コルドバのイブン＝ルシュド（ラテン名アヴェロエス）が解釈したアリストテレス哲学がラテン語に翻訳されカトリックの教義と融合し，13世紀のトマス＝アクィナスの『神学大全』が成立しスコラ哲学が大成しました。

中世ヨーロッパを精神的に支配したのが教会だが，教会の価値観とは違うものを模索したのがルネサンスです。ギリシア・ローマの古典古代にそれを見出したが一言でいえば人間中心の価値観です。端的に表れているのが絵画における遠近法で，人間を中心に描き始めました。無論，神の存在を否定しているわけではありません。ピコ＝デラ＝ミランドラは『人間の尊厳について』で神が人間に自由意志を与えたと論じ，自由意志により天使にも悪魔にもなれると言いました。16世紀［ 57 ］を著したエラスムスは自由意志を肯定し自力救済を可能としたが，ルターは自由意志を認めず人間には原罪があるから神の恩寵が必要だと主張しました。

〈フィレンツェ〉

13世紀にフィレンツェに生まれたダンテはトスカーナ語（イタリア語）で『神曲』を書き，ラテン語カトリック世界に対する新たな世界への扉を，さらには将来の国民国家形成への道を開きました。14世紀のペトラルカは『カンツォニエーレ』で教会のミサで知り合った貴婦人への想いをイタリア語の叙情詩に託しました。その親友，ボッカチオは『デカメロン（10日物語）』でペスト禍のフィレンツェでの男女10人の暴露話を著し人間の欲望を肯定的写実的に描いたが，これは中世の終焉を告げる記念碑的作品となりました。

1378年にチョンピの乱という毛織物職人の労働争議が起きました。

ダンテの親友のジョットはフィレンツェ近郊の生まれでチマブエの弟子だそう

です。フィレンツェ派絵画の基礎を築きイタリア＝ルネサンスの道を開きました。『聖フランチェスコの生涯』が代表作です。

ジョットから造形技術を学んだのが15世紀のマサッチオです。マサッチオの代表作はフィレンツェのサンタ＝マリア＝デル＝カルミネ聖堂の『楽園追放』です。マサッチオは 58 からは遠近法を学びました。

58 はフィレンツェのドゥオーモ，サンタ＝マリア＝デル＝フィオーレ大聖堂を設計した人物です。またマサッチオは人体の構造をドナテルロから学びました。精緻な人体研究の成果が『ダヴィデ』です。

フランス王シャルル８世のイタリア侵入(イタリア戦争)を期にメディチ家が追放された後，神秘主義者の修道院長サヴォナローラが禁欲的狂信的な改革をしたが，それに影響され自らの作品を広場で焼き画家として自滅し宗教家として余生を過ごしたのが，『春』『ヴィーナスの誕生』の作者ボッティチェリです。

サヴォナローラの神権政治の後外交官として活躍したのがマキャヴェリです。彼の著作『君主論』(1513)のモデルは教皇アレクサンデル６世の庶子チェーザレ＝ボルジアで，混乱期のイタリアを統一する君主にライオンの力と狐の狡猾さを求め政治を倫理・道徳と切り離す徹底した現実主義を示しました。

サヴォナローラの権力期に逃れていたのがミケランジェロです。代表作はローマのバチカン・サン＝ピエトロ大聖堂にある『ピエタ』とシスティナ礼拝堂にある『最後の審判』です。

ボッティチェリの友人がレオナルド＝ダ＝ヴィンチ。ルネサンスが理想とした万能人(普遍人)の典型です。『モナ＝リザ』がパリのルーブル美術館にあるのは，フランス・ヴァロワ朝のフランソワ１世がパリに招いたからといわれてます。出身村のヴィンチ村はフィレンツェ近郊です。

２人の影響を受け『聖母子像』を描き37歳で急逝したのがティツィアーノです。彼の叔父の 59 は1506年に教皇ユリウス２世からバチカン・サン＝ピエトロ大聖堂の修築を命じられ，事業はミケランジェロ，ベルニーニに受け継がれ17世紀に完成したルネサンス様式の傑作です。

〈イタリア＝ルネサンスの背景〉

①ギリシア・ローマ古典古代の文化遺産が多くあることと中世の大学の人文学部での古典研究がなされました。②十字軍・東方貿易を通じてイスラーム世界と接触しました。③ビザンツ帝国の滅亡(1453)を通じて古典文化が流入しました。④東方貿易の発展で都市が勃興，新興市民階級が台頭し中世の閉塞感から脱却する気運です。⑤教皇や都市の富豪が学芸を保護・奨励しました。⑥政治的統一が

不在で，新たな価値観が芽生え易く有能な人材に活躍の場がありました。

35 フランス史（カペー朝と百年戦争）

カロリング朝西フランク王国が断絶すると，987年にパリ伯ユーグ＝カペーがセーヌ河畔のパリにカペー朝を開きました。

〈フィリップ２世〉

フィリップ２世は，マニ教の影響を受けた異端カタリ派に対するアルビジョワ十字軍により南部へ領土を拡大，またイングランド王ジョンからはノルマンディー地方を奪ったが教皇インノケンティウス３世には屈服しました。さらには第３回十字軍に参加しました。

〈ルイ９世〉

聖王ルイ９世はアルビジョワ十字軍を完遂，モンゴルのカラコルムにルブルックを派遣しました。また第６・７回十字軍を送ったが自身はチュニスで戦死しました。

〈フィリップ４世〉

フィリップ４世は1302年　貴族・聖職者・都市の代表などの封建的特権を確認する全国三部会をパリのノートルダム寺院で開きました。有力者を味方に付けたうえで，教皇領への課税問題で対立していた教皇ボニファテイウス８世を1303年にローマ近郊のアナーニに幽閉し憤死させ，1309年にはローヌ川に面した南仏アヴィニョンに教皇庁を移し新教皇クレメンス５世を擁立しました（教皇のバビロン捕囚）。教皇庁を身近に置くと，異端の宣告が容易だからです。カペー朝の拡大と異端の宣告は不可分の関係です。

ぶどうの産地ギュイエンヌ（中心都市はガロンヌ川に面したナント）と毛織物加工の先進地域フランドルをめぐり約300年間英仏は争ったが，ヴァロワ朝（フィリップ６世）が断絶したカペー朝を継承したことに不満を持ったプランタジネット朝（アンジュー家）のエドワード３世が戦争を挑み，第１次英仏百年戦争となりました。

クレシーの戦い（1346）ではエドワード３世の子エドワード黒太子の長弓隊の活躍でイギリスが勝利しました。1348年ペストがヨーロッパに蔓延し休戦しました。再開後のポワティエの戦い（1356）でも敗れ1358年にはジャックリーの乱という農民反乱も起き，貴族は分裂しフランスは崩壊寸前だったが，［ 60 ］をサポートした天才少女ジャンヌ＝ダルクが要衝オルレアンを奪還し（1429）盛り返しま

した。ヴァロワ家は親英だったブルゴーニュ家と和解し勢力を増し，1453年カレーだけ残しイングランドの勢力を大陸から駆逐しました。

36 イギリス史（ケルト人〜テューダー朝）

グレート＝ブリテン島の先住民はケルト系ブリトン人です。前1世紀に共和政期のローマ将軍カエサルはガリア（現フランス）で支配者ヴェルチン＝ジェトリクスを撃ち破り，現イングランドにも侵入しました。帝政ローマ五賢帝のハドリアヌスは島の北部に長城を築きました。

次に西ゲルマン人のアングロ＝サクソン族がユトランド半島方面から入ってきました。それに対する先住民の抵抗の物語が『アーサー王物語』です。アングロ＝サクソン7王国（ヘプターキー）は829年にウェセックス王エグバートのもとにデーン人を共通の敵として統一しました。その本陣が海岸線から等距離に位置するテムズ川に面したロンドンです。

ノルマン人の一派デーン人の侵入を撃退したのが878年のエディントンの戦いに勝利したアルフレッド大王です。しかし，1016年にデーン人の王クヌートはイングランドを征服，デーン朝を開きデンマーク・ノルウェーとともにイングランドを支配しました。死後アングロ＝サクソン支配が復活しました。

〈ノルマン朝〉

それをロロの子孫ノルマンディー公ウィリアムが1066年のヘースティングズの戦いで破りカンタベリ大司教からウェストミンスター寺院で戴冠されました。これをノルマン＝コンクェストといいます。ソールズベリーの誓いとは領主が国王に忠誠を誓ったことで集権的封建制というイングランド固有の封建制がスタートしました。検地帳のことをドゥームズディ＝ブックといいます。

〈普遍論争〉

カンタベリ大司教で実在論（神や普遍という概念は事物に先行して存在）を唱えたのがアンセルムスです。一方，唯名論（実在するものは個々の事物だけで神とか普遍とかは抽象（名）にすぎない）をパリ大学教授の［ 61 ］は唱えました。これを普遍論争といいます。13世紀に『神学大全』を著したトマス＝アクィナスがアリストテレス主義を導入して論争は一応決着しました。14世紀に入るとドゥンス＝スコトゥスが，カペー朝のフィリップ4世によりパリを追放されました。続くウィリアム＝オブ＝オッカムは唯名論の立場をとり信仰と理性を区別しました。

フランシス＝ベーコンは神学による学問の体系化を試み，イスラームの影響で経験を重視し近代科学の方法論への道を開きました。

12世紀に中世の文化が大きく発展したことを12世紀ルネサンスといいます。農業生産力の向上・十字軍の遠征と商業の復活・イスラーム世界からの学問の流入(イベリア半島のトレド・シチリア島のパレルモ経由)などが背景です。

〈プランタジネット朝〉

ノルマン朝の断絶でアンジュー伯アンリがヘンリ２世になって始まったのがプランタジネット朝です。ヘンリ２世の子リチャード１世(獅子心王)は第３回十字軍に参加し孤軍奮闘，しかしフィリップ２世と戦い戦死します。

〈ジョン〉

その弟ジョン(欠地王)は大陸領土ノルマンディーを失い，カンタベリ大司教任免問題で教皇インノケンティウス３世から破門されました。1215年には貴族により一般評議会によらないで課税をしないとの大憲章(マグナ＝カルタ)に署名させられました。ここでジョンは課税権・逮捕拘禁権行使に関して法的根拠や議会の承認が必要であることを宣言しました。これがイギリス自由権です。「国王といえども神の法の下にある」というブラクトンの言葉に見られる精神，法による支配というイギリスの不文憲法 constitution（国柄・体質)の芽が出たのがこの時期です。

〈ヘンリ３世〉

実はブラクトンはジョンの長子のヘンリ３世がマグナ＝カルタを無視したのでこの言葉を述べました。1265年反乱派貴族が招集され州と都市の代表も招かれました。これが下院の起源です。シモン＝ド＝モンフォールの議会だが，反乱は失敗し彼は戦死しました。

〈エドワード１世〉

次のエドワード１世はウェールズを征服し息子に贈りました。以後，イギリス皇太子をプリンス＝オブ＝ウェールズと呼ぶようになりました。パリのトンネルで自動車事故死したダイアナ妃はダイアナ＝プリンセス＝オブ＝ウェールズでした。

スコットランド遠征に際し国王の諮問機関として身分制議会が開かれました。1295年の模範議会です。このように王権のチェック機能としての議会の基盤が13世紀に出来上がりました。

〈エドワード３世〉

エドワード３世はフランス(ヴァロワ家)との間で百年戦争を開始しました。

1341年には貴族院と庶民院が分離し二院制が成立，国王と庶民院の結びつきが深まります。

1378年にオックスフォード大学のウィクリフは聖書をラテン語ウルガタ訳から英語に翻訳し，またローマ教会からの独立を主張して宗教改革の先駆者となったが，それが実現するのは後のヘンリ8世の時代になってからです。スペンサーが『カンタベリ物語』を著したのは14世紀です。1381年にワット＝タイラーの乱が起きました。ウィクリフの信奉者であるロラード派（祈りもしくは賛歌を口ずさむ者の意）や「アダムが耕しイブが紡いだとき誰が領主だったか」という［62］の思想がこれに影響しました。

1399年からランカスター朝になるが，ヘンリ4世の時代には下院の権限が増大しました。同王から勅許状が与えられた冒険商人組合が毛織物輸出貿易に従事しました。

〈バラ戦争→ヘンリ7世〉

1455～85年にイングランドで起こった王位継承をめぐる内乱をバラ戦争といい，ランカスター家（赤バラ）とヨーク家（白バラ）が争い，前者の傍流だったヘンリ＝テューダーが1485年のボスワースの戦いで勝利しヨーク家の娘と結婚してテューダー朝を創始し，星室庁裁判所で王権に対立した貴族を処罰し絶対王権を確立しました。またイタリア人のカボット父子に北米大陸を探検させました。テューダー朝期はイギリスの宗教改革期であり同時に絶対王政の確立期でもあります。

〔スペイン〕　〔神聖ローマ皇帝ハプスブルク家〕　♡は夫婦

フェルナンド♡イサベル　マクシミリアン1世♡ブルゴーニュ家

ヘンリ8世♡キャサリン－フアナ♡フィリップ美男王

エリザベス1世－メアリ1世　カルロス1世（カール5世）

♡

フェリペ2世

カルロス2世－ルイ14世の妻

〈ヘンリ８世〉

ヘンリ８世は国王直属の諮問機関である枢密院を設置しました。ルターの宗教改革には反対の立場を表明し，教皇レオ10世から［ 63 ］という称号を与えられました。

しかし宮廷のアン＝ブーリンが妊娠すると，スペインのイサベルとフェルナンド５世の娘である妻とのキャサリンとの離婚を決行し，教皇パウルス３世に破門されたが1534年に首長法を発布し，ローマ教会と決別し政教両権を掌握しイギリス国教会が成立しました。さらに修道院を解散し貴族に売ることにより忠誠を誓わせ絶対王政を確立しました。

そして離婚を非難した大法官トマス＝モアを処刑しました。トマス＝モアは『ユートピア』で第１次囲い込み運動を批判しました。また私有財産のない共産主義社会を描きました。「羊はおとなしい動物だが人間を食べる，都市を荒廃させる…」がこの本を見分けるキーワードです。

〈エドワード６世〉

ヘンリ８世とジェーン＝シーモアの子がエドワード６世です。一般祈禱書を発布してカルヴァン主義色の強いイギリス国教会の教義を整えました。

〈メアリ１世〉

ヘンリ８世とキャサリンの娘メアリ１世はスペインの従兄のフェリペ２世と結婚しカトリックを復活させました。新教徒を磔にしたので血のメアリと呼ばれました。スペインとフランスとの抗争に巻き込まれ，エリザベス１世がイタリア戦争の最終講和条約1559年のカトー＝カンブレジ条約でカレーを失い，正真正銘の島国になりました。

〈エリザベス１世〉

フェリペ２世やイヴァン４世のプロポーズを断ったアン＝ブーリンの娘エリザベス１世が，1559年に審査法で国教会の礼拝・祈禱を統一してイギリス国教会を確立しました。エリザベス１世はホーキンズやドレークといった海賊を用いて私拿捕船でスペイン船を襲わせました。自身の暗殺の計画を企てたスコットランド女王メアリ＝ステュアートを処刑した報復としてフェリペ２世が派遣したスペイン無敵艦隊を1588年のアルマダ海戦（ドーバー海峡付近）で破り，オランダの独立を間接的に助ける形となりました。

ジェントリ（郷紳）を治安判事に任命し地方行政にあてさせました。中央では枢密院・星室庁の権限を拡大し王権を強化したが，議会が立法・財政上の権限を保持したので強大な官僚・常備軍は形成されませんでした。議会制度こそイギリス

の伝統・国柄です。

毛織物工業を中心に重商主義政策を推進，1584年にウォルター＝ローリーにヴァージニア植民をさせたが失敗しました。1600年にはアジア進出の特許会社である東インド会社を設立しました。1601年の救貧法では富裕者から救貧税を徴収し貧民に分配しました。「悪貨は良貨を駆逐する」と言ったグレシャムを登用して通貨改革を行いました。

同時期の戯曲家がシェークスピアです。エリザベス１世を描いた『神仙女王』の著者がスペンサーです。「知は力なり」と述べた[64]はイギリス経験論の祖で著作は『新オルガヌム』です。

37 宗教改革と宗教戦争

〈ルター〉

ローマ教皇レオ10世がローマのサン＝ピエトロ大聖堂の修築費用のために，政治的分裂状態だったドイツで贖宥状(免罪符)を販売し，ドイツを「ローマの牝牛」にしたことに対し，1517年にルターがヴィッテンベルク教会の壁に「九十五カ条の論題」をはりつけ抗議し宗教改革が始まりました。

ルターは使徒パウロの教説に依拠し「人は信仰によってのみ救われる」ことを強調し『キリスト者の自由』を著して信仰義認説を展開しました。

ハプスブルク家の神聖ローマ皇帝カール５世(スペイン王カルロス１世)は，ヴォルムス帝国議会でルターに自説撤回を命じたが応じなかったので，法律の保護外に置きました。ルターはザクセン侯フリードリヒによる善意の誘拐によりヴァルトブルク城で新約聖書をギリシア語からドイツ語に翻訳しました。これは近代ドイツ語の確立に寄与しました。

その影響で騎士戦争やミュンツァー指導の農民戦争が起きたがルターは態度を変えこれらの戦争を支持しませんでした。１世紀にパウロは「クリスチャンは上位の権威に従うべきだ」と言いました。上位の権威とは16世紀のドイツの農民にとってはハプスブルク家ということになります。

同時期，フランスのヴァロワ朝はフランソワ１世の時代でした。彼はレオナルド＝ダ＝ヴィンチをパリに招き「フランス＝ルネサンスの父」と呼ばれました。シャルル８世に始まるイタリア政策とイタリア戦争を継続し，神聖ローマ皇帝の選挙に立候補するなど(ヘンリ８世も立候補した)精力的な人物でカール５世と対立しました。

ドイツの領邦君主(諸侯)が，最高の司教として領内の教会の保護支配権を掌握する制度を帝国教会制といいそれはルター主義の導入によって確立しました。つまりルター派諸侯が出来上がったのです。

カール5世は，オスマン帝国のスレイマン1世が1529年に第1次ウィーン包囲を敢行すると諸侯にルター派を一度認めました。しかし，スレイマン1世が寒冷と兵糧不足のために退却すると再びルター的信仰を禁じたので，ルター派諸侯はプロテスト(抗議)し1530年 シュマルカルデン同盟を結成しました。1535年のフランス＝トルコ同盟でフランソワ1世はスレイマン1世に臣下の礼をとり，しばらく後に［65］というオスマン帝国内の通商や旅行の特権(治外法権)を得ました。

〈スイスの宗教改革〉

スイスのチューリヒではツヴィングリが宗教改革を開始したがルターと教義面で決裂し失敗しました。ジュネーヴではカルヴァンが宗教改革を断行，政教一致の神政政治を行いました。カルヴァンの著作はバーゼルで出版した『キリスト教綱要』です。信仰の基準を聖書に置く福音主義で，模範的信者が監督となる長老制度です。万人祭司主義は新教諸派に共通する考えです。カルヴァン派はフランスではユグノー（幽霊)，イングランドではピューリタン(清教徒)，スコットランドではプレスビテリアン(長老派)，ネーデルラントではゴイセン(乞食)と呼ばれました。

〈シュマルカルデン戦争〉

神聖ローマ帝国では，親ハプスブルク(カトリック)諸侯と反ハプスブルク(プロテスタント)諸侯の間にシュマルカルデン戦争が起き，1555年のアウクスブルグの宗教和議で領主や都市の単位でルター派の信仰をカール5世は認めました。カルヴァン派の信仰と個人の信仰の自由は認められませんでした。カール5世は1545年から教皇パウルス3世と北イタリアのトリエント公会議(カトリックが宗教裁判を強化し教皇の至上性と禁書目録を確認するのみ)を開催していたのだが(1563年まで)調停に失敗したため，1556年失意のうちに引退しました。

〈イエズス会〉

カトリック側では1534年にパリのモンマルトルの丘の教会で，バスク(スペイン)人イグナティウス＝ロヨラとフランシスコ＝ザビエルが結成したイエズス会の活動が活発になります。イタリア人マテオ＝リッチは明に伝道しました。

〈ユグノー戦争〉

フランスにおける宗教戦争がユグノー戦争です。ヴァロワ朝のシャルル9世の

母カトリーヌ＝ド＝メディシスが黒幕です。娘マルグレーテ(カトリック)とアンリ＝ド＝ナヴァル(ユグノー)の結婚で宗教戦争が丸く収まるはずだった結婚式の場が，サンバルテルミの虐殺(1572)と化しユグノー戦争は激化しました。アンリ３世が暗殺されヴァロワ朝は断絶，ブルボン家のアンリ４世(先の婚儀の新郎)がカトリック改宗後 1598 年にナントの王令を出し戦争は終結しました。ユグノー戦争の時期に主権概念をヴァロワ朝の王権に援用したのが 66 です。

〈スペイン＝ハプスブルク家〉

イベリア半島(スペイン・ポルトガル)からイスラーム教徒とユダヤ教徒を追放するキリスト教徒の運動をレコンキスタ(国土回復)運動というが，イスラーム史におけるウマイヤ朝の 718 年に始まり 1492 年に終了しました。この運動の中心がカスティリャ王国とアラゴン王国であるが，それぞれの王国のイサベル女王とフェルナンド２世(スペイン王としてはフェルナンド５世)が結婚して合同，1479 年にスペイン王国が成立，1492 年にはナスル朝グラナダ王国(アルハンブラ宮殿)を征服し同運動は終了しました。

〈フェリペ２世〉

この夫婦の孫がスペイン王カルロス１世つまり神聖ローマ皇帝カール５世です。彼はフランドル地方のガンで生まれたのでネーデルラント(低地地方)を尊重したが，同地域を継承した息子フェリペ２世はイングランド女王メアリ１世と結婚し強力にカトリック拡大を推めました。

〈ネーデルラント独立戦争〉

フェリペ２世のカトリック主義と 67 を中心とする毛織物産業の富への収奪に反抗し，1568 年に 80 年にわたるオランダ独立戦争が始まりました。スペイン・ハプスブルク家はカトリックの南部 10 州をゴイセン(カルヴァン派)の北部と分離させることに成功しました。ホラント州(日本語オランダの語源)を中心とする北部７州はオレンジ公ウィリアムを中心に 1579 年にユトレヒト同盟を結成し，1581 年にネーデルラント連邦共和国として独立を宣言したが， 67 はスペイン側に奪われました。だから 67 は現在ベルギーにあります。

1588 年スペインの無敵艦隊がイングランドのエリザベス１世にアルマダ戦争で敗れ，1609 年オランダ独立戦争は休戦条約が結ばれます。同年オランダは長崎県平戸に商館を設置，1619 年にはジャワ島にバタヴィア(現ジャカルタ)を建設しました。17 世紀中頃の覇権国家はオランダというわけです。レコンキスタ運動でスペインを追放されオランダに流れてきたユダヤ人マネーがオランダをのし上げました。1602 年のオランダ東インド会社は世界初の株式会社です。アム

ステルダムの運河沿いにはナチスのゲシュタポに捕まったユダヤ人少女アンネ＝フランクの隠れ家があります。アムステルダムは17世紀前半西ヨーロッパの繁栄を誇り金融の中心になりました。

〈鎖国〉

島原の乱の後，江戸３代将軍徳川家光は1639年にカトリックのポルトガルに来航を禁止しました。いわゆる鎖国令です。オランダに対しては平戸の商館を閉鎖し，活動を長崎の出島に限定し長崎奉行の監視下に置きました。オランダに甘かったことが顕著なのは東京駅を見ればわかります。新幹線が発着する八重洲口の八重洲は1600年に漂着したオランダ船リーフデ号の乗組員ヤン＝ヨーステンに由来します。

豊臣秀吉最晩年の1596年にスペイン船サン＝フェリペ号が高知に漂着しました。そしてスペインには日本をフィリピン化（カトリック化）する野望があることを聞き出しました。ちなみに秀吉はフェリペ２世の存在を知っていたといいます。この情報を徳川家康はリーフデ号の乗組員ウィリアム＝アダムズやヤン＝ヨーステンに問い合わせました。

〈三十年戦争〉

1618年 ベーメンの新教徒が神聖ローマ帝国つまりオーストリア＝ハプスブルク家に対し反乱を起こしドイツ三十年戦争が始まります。ベーメン（ボヘミア）はスラヴ系チェック人の地，そしてフス派の恨みがわだかまる地です。この反抗にファルツ侯，デンマーク王（クリスチャン４世），スウェーデン王（グスタフ＝アドルフ）が加わり戦争は拡大（傭兵隊長として帝国側にはヴァレンシュタインが雇われたが野心を疑われ暗殺された），宰相リシュリューの時のフランスが1635年にカトリック（旧教国）でありながら新教側で参戦し，三十年戦争は宗教戦争というよりも「勢力均衡」のための戦争へと変質しました。

この戦争の間にオランダのスピノザ（国際法の父と呼ばれる）は傭兵隊による悲惨なこの戦争を見て『戦争と平和の法』を著します。戦争と平和の二分法はイスラームの発想にヒントを得ています。

終結時の1648年のウェストファリア条約で，スイスとオランダが正式にハプスブルク家から独立，フランスはアルザス地方とロレーヌの３都市（メッツ・トゥール・ヴェルダン）を獲得，カルヴァン派の信仰も認められました。また，ドイツの300以上の領邦に主権が認められたので同条約は「神聖ローマ帝国の死亡証明書」といわれ，神聖ローマ帝国は有名無実化，ヨーロッパはブルボン家優位の時代へと突入しました。

好況の16世紀と比較した「17世紀の危機」の最大の事例が30年戦争ということになります。 68 は20世紀のドイツの社会学者です。人間による支配をカリスマ的支配・伝統的支配・合法的支配に分類したことで知られます。『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(1904)で資本主義の動因をカルヴァン派の禁欲・勤勉・蓄財こそが神の栄光になるという職業召命説から説明しました。カトリックは蓄財を否定したが，カルヴァンは予定説で天職に励んだ結果としての蓄財を認めました。予定説とは魂の救いは人間の意志と善行とは無関係であり，あらかじめ神によって決められているという説です。

38 イギリスの革命

〈ジェームズ1世〉

エリザベス1世の後を受けて1603年 ステュアート朝を創始した(江戸幕府と同じ年)ジェームズ1世は王権神授説を信奉，議会を無視して対立を深め，特にピューリタン弾圧策をとったので，1620年にピルグリム＝ファーザーズ(巡礼始祖)がメイフラワー号でプリマスに上陸しプリマス植民地を形成しました。

〈チャールズ1世〉

息子のチャールズ1世も王権の根拠を家父長権としたフィルマーの王権神授説を採用し絶対主義政策を取り続けたので，法律家コークが1628年に「権利の請願」を出して，議会の同意のない課税，不法逮捕などに反対しました。その際，13世紀のブラクトンのセリフを拝借しました。しかし，同王がこれを無視し議会を解散，専制政治を続行したのでピューリタン革命となりました。

スコットランドの反乱鎮圧費用をイングランド貴族が負担することを争点に始まったピューリタン革命はまず，王党派と議会派が対立し，議会派の中の独立派のクロムウェルの 69 が1645年のネーズビーの戦いで前者を圧倒すると，次には議会派内部の対立となります。

〈共和政(コモンウェルス)〉

独立派のクロムウェルが立憲君主派の長老派と共和主義を主張する水平派や真正水平派を追放・弾圧して権力を握り，1649年にチャールズ1世を処刑しイギリス史上唯一の共和政(コモンウェルス)を樹立しました(1649～1660)。クロムウェルはカトリックのアイルランド征服に着手，1651年には航海法によりオランダ船を締め出し，護国卿という地位に就き軍事独裁を行いました。同時期ホッブズは「人間は人間に対して狼であるゆえに万人の万人に対する闘争を自然状態」

とみなし人民が自己保存のために社会契約として自然権を全面譲渡する怪物のような絶対君主を想定し『リヴァイアサン』(1651)を著しました。この本は1660年の王政復古の根拠となりました。

〈チャールズ２世〉

クロムウェルの死後，勢力を盛り返した長老派と王党派が妥協して王政復古となり，チャールズ２世が即位したが，同王がカトリックを容認しつつ絶対王政に逆戻りしたので，議会は1673年の審査法(公職者は国教徒に限る法)と1679年の人身保護法を制定し対抗しました。

〈ジェームズ２世〉

いとこのルイ14世がナントの王令を廃止しカトリック主義を前面に出した1685年に，チャールズ２世の弟で審査法により公職追放を経験しカトリック教徒として有名であったジェームズ２世が即位しました。それを認めるグループをトーリ，認めないグループをホイッグといいました。

〈名誉革命〉

ジェームズ２世に男子が生まれたため，議会が同王の娘メアリ２世と夫のウィレム(ウィリアム３世)を国王として招き，ジェームズ２世はフランスに亡命，これが1688年の名誉革命です。この革命に思想的基盤を与えたのがフィルマーを批判し社会契約説に立ったロックで，彼は自由と平和を自然状態として自然権が守られない統治に対する抵抗権，革命権を説きました(『統治二論』1690)。

1689年に議会は王権に対する優位を宣言(権利の宣言)，これを法文化したのが［ 70 ］であり議会主権が明確になりイギリス立憲政治の原点となりました。

メアリ２世の妹アン女王はスコットランドを併合し，1707年グレートブリテン王国が成立しました。スペイン継承(アン女王)戦争の1713年のユトレヒト条約でフランスからニューファンドランド・アカディア・ハドソン湾地方を，スペインからジブラルタル・ミノルカ島を獲得しました。奴隷売買の権利アシエントも獲得しました。

〈ハノーヴァー朝〉

ステュアート家と血縁関係にあったハノーヴァー家ジョージがジョージ１世となったが英語を解せずドイツ滞在が多かったので，議会の多数党が内閣を組織して議会に対して責任を負う制度(責任内閣制度)がトーリ党ウォルポールにより成立し，「王は君臨すれども統治せず」といわれるように議会政治が発達しました。(1721)

39 フランス絶対王政と第２次英仏百年戦争

1589 年（フランス革命のちょうど 200 年前）にフランス＝ブルボン朝を創始したアンリ４世は，1604 年にフランス東インド会社を設立しました。シャンプランがセントローレンス川をさかのぼり 1608 年に現カナダにビーバーの毛皮を求めてケベック植民地を建設しました。

〈ルイ 13 世〉

息子のルイ 13 世が 1615 年に三部会を停止して王権を強化しました。宰相リシュリューは三十年戦争においては新教側で参戦することを進言しハプスブルク家の弱体化を図りました。フランス学士院（アカデミー＝フランセーズ）を組織しフランス語の統一と洗練を行いました。

〈ルイ 14 世〉

ルイ 14 世が４歳で即位するとマザランが宰相となりました。

三十年戦争のウェストファリア条約（1648）ではアルザスとロレーヌの３都市を獲得しました。フランス＝ブルボン家の両ハプスブルク家に対する全面的優位が決定的となりました。

この年，王権の伸長に反対する高等法院（フランスの最高司法機関で王の勅令を審査する権限があった）や貴族によるフロンドの乱が起きました。幼少のルイ 14 世はパリを脱出したが，マザランが収拾しました。

1661 年（清の康熙帝即位の年）にルイ 14 世が親政を開始します。教育係ボシュエ仕込みの王権神授説を信奉「朕は国家なり」と言ったとされます。フランスのカトリック教会をコントロールするのがサンディカリズムです。

東インド会社再建を行った［ 71 ］を起用して重商主義を進め，特権マニュファクチュアが発展します。インドにシャンデルナゴル・ポンディシェリという拠点が築かれました。ラサールがミシシッピ川流域を開拓しルイジアナ植民地（ルイ 14 世にちなむ）が形成されました。

1685 年にカトリック重視政策をとりナントの王令を廃止したので，多くのユグノーが国外に逃避し経済に打撃となりました。

バロック様式のヴェルサイユ宮殿を建造したのはルイ 14 世です。

自然国境説により南ネーデルラント継承戦争，オランダ侵略戦争，ファルツ戦争，スペイン継承戦争の４つの侵略戦争を行いました。これら４つは，イギリスとカナダをめぐる４つの戦争（第２次英仏百年戦争の前半戦）に以下のように対応

します。

南ネーデルラント継承戦争
オランダ侵略戦争
ファルツ（継承）戦争――――――――――――――――――ウィリアム王戦争
スペイン継承戦争（ユトレヒト条約・1713年）　――――――アン女王戦争

〈スペイン継承戦争〉
　スペイン＝ハプスブルク家です。イサベル＆フェルナンド５世の孫カルロス１世→フェリペ２世→フェリペ３世→フェリペ４世→カルロス２世です。近親結婚がたたってカルロス２世は発育不良で早死してしまいます。跡取りがなくスペイン＝ハプスブルク家は断絶してしまいます。ルイ14世は妻マリー＝テレーズの異母弟がカルロス２世であったことから継承権を主張し，孫のフィリップをフェリペ５世として即位させたのでオーストリア・イギリス・オランダが反対しハプスブルク家のカール（のちのカール６世）を擁立して戦争となりました。
　1713年のユトレヒト条約でフェリペ５世の王位継承権は承認されたがスペインとフランスとの合併は禁止されました。イギリスはスペイン＝ブルボン家からジブラルタル・ミノルカ島を獲得しました。ジブラルタルは現在もイギリス領です。フランス＝ブルボン家はイギリスにニューファンドランド・アカディア・ハドソン湾地方を割譲しました。
　講和会議後，サン＝ピエールが『永久平和草案』を提出しまた。

40 オーストリア・プロイセンの絶対王政

　12世紀にエルベ川西岸からオーデル川流域一帯につくられたブランデンブルク辺境伯領を15世紀以降支配したのがホーエンツォレルン家です。同家は次いでプロイセンも支配しました。
　プロイセン公国とは十字軍期の三大宗教騎士団の１つヴェンデ十字軍のドイツ騎士団領が南に発展し13世紀に征服を完成した地域です。現ポーランド付近で首都はケーニヒスベルクです。
〈フリードリヒ＝ヴィルヘルム〉
　ブランデンブルク＝プロイセンは大選帝侯フリードリヒ＝ヴィルヘルムが三十年戦争で東ポンメルンを獲得し領土を拡大しました。エルベ川以東の地域の地主

貴族をユンカーといいます。彼らは農奴の賦役労働によりグーツヘルシャフト(再版農奴制)を展開，資本主義生産の発展した西欧社会への輸出穀物を生産しました。

〈フリードリヒ１世〉

スペイン継承戦争で神聖ローマ皇帝(ハプスブルク家)側に立って参戦し1701年にプロイセン王国となりました。フリードリヒ１世の時でその都がベルリンです。

〈フリードリヒ＝ヴィルヘルム１世〉

プロイセン王国はフリードリヒ＝ヴィルヘルム１世(軍隊王)が軍国の基礎を築きました。

〈フリードリヒ２世(大王)〉

その息子フリードリヒ２世はヴォルテール(『哲学書簡＝イギリス便り』でイギリスを替美しフランスの後進性を批判)の影響を受けた啓蒙専制君主です。ポツダムにあるロココ様式のサンスーシ宮殿にはヴォルテールの部屋があります。「君主は国家第一の僕」と述べ『反マキャベリ論』を著し進歩的な態度を示したが，実態は上からの近代化と富国強兵を目指し議会開設や憲法制定に無関心な警察国家でした。

〈オーストリア＝ハプスブルク家〉

1529年のオスマン帝国の第２次ウィーン包囲を撃退し，1699年のカルロヴィッツ条約でハンガリーとトランシルヴァニアを獲得し東に領土を拡大し複合多民族国家となりました。

皇帝カール６世は王位継承法(プラグマテッシュ＝ザンクティオン)で女子相続を諸侯に認めさせ(フランク王国サリー支族サリカ法では女王および女子継承を禁じている)，娘マリア＝テレジアに継承しました。

〈オーストリア継承戦争〉

フリードリヒ２世はマリア＝テレジアのハプスブルク家継承問題から起きた1740年のオーストリア継承戦争に参戦し，オーストリアから鉱物資源が豊富な［ 72 ］を獲得しました。

〈七年戦争〉

［ 72 ］をフリードリヒ２世から取り戻したいオーストリアのマリア＝テレジアは，フランス＝ブルボン家と提携(外交革命)しました。その証として末娘のマリ＝アントワネットがルイ16世に嫁ぎました。孤立したプロイセンの先制攻撃で七年戦争が始まるが，結局1763年のフベルトゥスブルク条約でプロイセン王

国がシュレジエンを確保しました。

このホーエンツォレルン朝プロイセン王国(1701 〜 1918)は第一次世界大戦終結時まで続くことになります。

41 帝政ロシア

〈 73 〉

1223年のカルカ河畔の戦いでロシア諸侯が敗れてからの200年以上にわたるモンゴル人によるロシア支配を 73 といいます。

チンギス=ハンの孫のバトゥがつくったキプチャク=ハン国がティムールの遠征により揺らぎそこからモスクワ大公国が自立しました。時の大公イヴァン3世はビザンツ皇帝の姪と婚姻関係にあったのでツァーリ(カエサル)を名乗りました。孫のイヴァン4世は血縁から正式にツァーリとなりました。

〈ツァーリズムの成立〉

イヴァン4世はキプチャク=ハン国の後継の1つのカザン=ハン国を平定，その時の記念碑がモスクワの聖ヴァシーリ聖堂で，赤の広場の横にあります。「モスクワは第2のコンスタンティノープル，第3のローマ」といわれます。ビザンツ皇帝の権力ギリシア正教会の権威がモスクワ大公つまりロシア皇帝に集中したからで，これをツァーリズム(カエサルによる支配)といいます。強大な権力は密告による恐怖政治によって維持されました。この手法は20世紀にスターリンが範としたものです。

14世紀以降ロシアの東南辺境への逃亡者が牧畜・狩猟・漁業・交易・略奪などを生業としたが，宮廷の保護下で自由な戦士団を形成し 74 となります。その首長イェルマークが貴族ストロガノフ家によって派遣されシビル=ハン国を平定しシベリアの語源となりました。

〈ロマノフ朝成立〉

1613年 ミハイル=ロマノフからがロマノフ家の世襲王朝です。1670年にはステンカ=ラージンの乱という農民反乱が起きました。

〈ピョートル1世〉

ロシア絶対主義の確立はピョートル1世の時です。彼の治世の特色はまず西欧化で，自ら西欧を視察しました。

清の乾隆帝とネルチンスク条約を結びます。

スウェーデンとはバルト海の覇権をめぐり北方戦争が行われました。その間の

1703年にネバ川河口にペテルブルクを建設しました。ペテロはピョートルの守護聖人です。北方戦争は1721年のニスタット条約でピョートル１世が勝利しました。

ピョートル１世は黒海にも進出しオスマン帝国からアゾフ海を獲得しました。晩年ベーリングに命じシベリアとカムチャツカ半島を探検させ，死後アラスカを発見しました。また９世紀にキュリロスが発明したキリル文字を整理しロシア文字の元を創りました。ロシア正教会の教会会議の構成員12人はピョートル１世が任命しました。これがビザンツ帝国の皇帝教皇主義を受け継ぐツァーリズム（ロシア絶対主義）の本質です。

ロマノフ家の女帝エリザベタはハプスブルク家のマリア＝テレジア，ブルボン家のポンパドール夫人と３枚のペチコート同盟を結びます。エリザベタの甥ピョートル３世はプロイセンのフリードリヒ２世に傾倒しました。

〈エカテリーナ２世〉

ピョートル３世と結婚したのがドイツ貴族の娘エカチェリーナ２世です。啓蒙専制君主として知られる彼女はヴォルテールと往復書簡を交わしディドロの『百科全書』を財政的に支援しました。アメリカ独立戦争では武装中立同盟を提唱し間接的に反イギリス的行為に出ました。３回のポーランド分割（1772・1793・1795年）に全て関与しました。黒海北岸クリミア半島を獲得（オスマン帝国支配地域）しセヴァストーポリ要塞を築きます。北海道の根室にはラクスマンを派遣しました。農民反乱プガチョフの乱やフランス革命への反感から次第に保守反動化しました。

ペテルブルクはペトログラード（第一次世界大戦でドイツと戦ったがブルクはドイツ語だから）→レーニングラード（レーニンが帝政ロシアを倒したから）→サンクト＝ペテルブルク（レーニンがつくったソ連が崩壊したから）と名称変更されました。

〈アレクサンドル１世〉

1801年19世紀元年からデカブリストの乱の1825年まで在位しました。

〈ニコライ１世〉

ギリシア独立戦争，パリ七月革命を経てクリミア戦争中の1855年までが在位期間です。

〈アレクサンドル２世〉

クリミア戦争中に即位し，1861年に農奴解放令を出し領主制を廃し農奴に人格的自由を与えました。農地の分与は有償でした。この影響で1863年にポーラ

ンドで自治権要求運動が起きたが，これを鎮圧しました。この事件が1864年の第1インターナショナル(マルクス中心)成立の誘因となります。

知識人をインテリゲンツィアといいます。彼らが展開した農民啓蒙運動はヴ＝ナロード(人民の中へ)をスローガンにしたナロードニキ運動であり農村共同体ミールを基盤に活動したが，官憲への密告と弾圧，農民の無関心で挫折しニヒリズム(虚無主義)やアナーキズム(無政府主義)に堕しました。[75]の作品『父と子』にニヒリストという言葉が初めて登場します。彼らのうち人民の意志(ルソーの『社会契約論』のキーワード)派が1881年にアレクサンドル2世を暗殺します。このような社会不安を背景に頻発したユダヤ人虐殺をポグロムといいます。同年，帝政ロシアは清朝中国と中央アジアの境をめぐりイリ条約を結びました。

〈アレクサンドル3世〉

ビスマルクが更迭され不可侵条約が破棄されると，ロシアはフランスに接近，1891年から1894年にかけて露仏同盟が結ばれました。フランス資本によりシベリア鉄道が敷かれロシア産業革命がピークを迎えました。

テキスト解答

【穴埋め問題】

解答

１．円筒印章

２．ペルセポリス

３．ベヒストゥーン碑文

４．クノッソス宮殿

５．シノイキスモス

６．オストラシズム（陶片追放）

７．ラウレイオン

８．フィリッポス２世

９．コイネー

10. ウェルギリウス

11. 分割統治

12. ラティフンディア

13. タキトゥス

14. 皇帝崇拝

15. プロタゴラス

16. パリサイ派

17. モエンジョ＝ダーロ

18. エリュトゥラー海案内記

19. ナーガールジュナ（竜樹）

20. 義浄

21. アウグスティヌス

22. ローランの歌

23. パレルモ

24. カルマル同盟

25. 1054

26. キュリロス

27. 教会大分裂（大シスマ）

28. サンチャゴ＝デ＝コンポステラ

29. 三圃制

30. パルミラ

31. 622
32. 知恵の館（バイト＝アルヒクマ）
33. アズハル学院
34. マラケシュ
35. ジャラリー暦
36. フワーリズミー
37. ポルトガル
38. ナーナク
39. 岩塩
40. ジンバブエ
41. 半両銭
42. 烏孫
43. 甘英
44. 寇謙之
45. 王羲之
46. 鳩摩羅什
47. 市舶司
48. 形勢戸
49. ジャンク船
50. 耶律大石
51. ガザン＝ハン
52. 魚鱗図冊
53. 黄宗羲
54. ドヴァーラヴァティー
55. エンリケ航海王子
56. テオティワカン文明
57. 愚神礼讃
58. ブルネレスキ
59. ブラマンテ
60. シャルル７世
61. アベラール
62. ジョン＝ボール

63. 信仰の擁護者
64. フランシス＝ベーコン
65. カピチュレーション
66. ボーダン
67. アントワープ（アントウェルペン）
68. マックス＝ヴェーバー
69. 鉄騎隊
70. 権利の章典
71. コルベール
72. シュレジエン
73. タタールのくびき
74. コサック
75. トゥルゲーネフ

【正誤問題】

頁	【誤】		【正】
P２	アビシニア高原	→	アナトリア高原
P３	なし		
P４	太陽暦	→	太陰暦
P５	サルゴン２世	→	ネブカドネザル２世
P６	オレンジ	→	オリーブ
P７	ゼウス神	→	アポロン神
P８	プラトン	→	ソクラテス
P９	なし		
P10	グプタ朝	→	マウリヤ朝
P11	イスラーム教	→	仏教
P12	ロンメル	→	ハンニバル
P13	前25年	→	前27年
P14	エピクロス派	→	ストア派
P15	サルデス	→	ミレトス
P16	なし		
P17	肯定	→	否定
P18	ルンビニー	→	ブッダガヤ

P19	アラブ人商人	→	ギリシア人商人
P20	洛陽	→	長安
P21	なし		
P22	コルドバ	→	トレド
P23	マジャール族	→	アヴァール族
P24	1016 年	→	1066 年
P25	綿織物業	→	絹織物業
P26	なし		
P27	ボローニャ大学	→	ナポリ大学
P28	ケンブリッジ大学	→	オックスフォード大学
P29	なし		
P30	シエナ	→	アッシジ
P31	ウラマー	→	ウンマ
P32	なし		
P33	アルジェリア	→	チュニジア
P34	スレイマン１世	→	セリム１世
P35	なし		
P36	ウズベク＝ハン	→	ガザン＝ハン
P37	イラン系	→	トルコ系
P38	なし		
P39	ペグー王国	→	ヴィジャヤナガル王国
P40	ジャンク船	→	ダウ船
P41	なし		
P42	五経正義	→	五経博士
P43	公羊学	→	訓詁学
P44	なし		
P45	突厥	→	柔然
P46	臨済	→	達磨
P47	突厥	→	ウイグル
P48	汪兆銘	→	王安石
P49	広西省景徳鎮	→	江西省景徳鎮
P50	なし		

P51　ドニエプル川　→　ヴォルガ川
P52　貴族文化　→　庶民文化
P53　プレヴェザの海戦　→　レパントの海戦
P54　南詔　→　大理
P55　カルカッタ　→　カリカット
P56　なし
P57　ニーチェ　→　ブルクハルト
P58　ティツィアーノ　→　ラファエロ
P59　ナント　→　ボルドー
P60　なし
P61　フランシス＝ベーコン　→　ロジャー＝ベーコン
P62　スペンサー　→　チョーサー
P63　審査法　→　統一法
P64　なし
P65　帝国教会制　→　領邦教会制
P66　なし
P67　スピノザ　→　グロティウス
P68　なし
P69　トーリ党ウォルポール　→　ホイッグ党ウォルポール
P70　サンディカリズム　→　ガリカニズム
P71　なし
P72　1529 年　→　1683 年
P73　乾隆帝　→　康熙帝
P74　なし
P75　不可侵条約　→　再保障条約

付　録

テーマ１
中東（オリエント～イスラーム史）

1 古代オリエント

王朝名にあてはまる選択肢を選び，現在の国名を記入せよ。

王朝名	選択肢	解答欄
シュメール	a　セム語系カルデア人，ヘブライ人をバビロンへ捕囚	h
アッカド	b　小アジアに建国，世界最古の鋳造貨幣	j
バビロン第１王朝	c　セレウコス朝から独立したイラン系，共和政ローマと対立	i
ヒッタイト	d　都はスサとペルセポリス，ゾロアスター教，サトラップを「王の目 王の耳」が監視	k
アッシリア	e　オリエントを初めて統一，都ニネベ	e
メディア	f　アッシリアを攻略，キュロス２世がここから独立	f
新バビロニア	g　ゾロアスターを国教化，『アヴェスター』，ローマ・ビザンツ帝国・クシャーナ朝・エフタルと抗争	a
リディア	h　南メソポタミアのウルなどの都市国家で神権政治，楔形文字	b
アケメネス朝	i　「目には目，歯には歯」の同害報復の法典，セム語系アムル人の王朝	d
セレウコス朝	j　メソポタミアを初めて統一したセム語系	l
パルティア	k　小アジアに建国，世界初の鉄製武器，欧印語系，バビロン第１王朝を攻略	c
ササン朝	l　アレクサンドロス大王の後継者が建国，アム川上流にバクトリア王国が独立	g

2 イスラーム以前のインド史

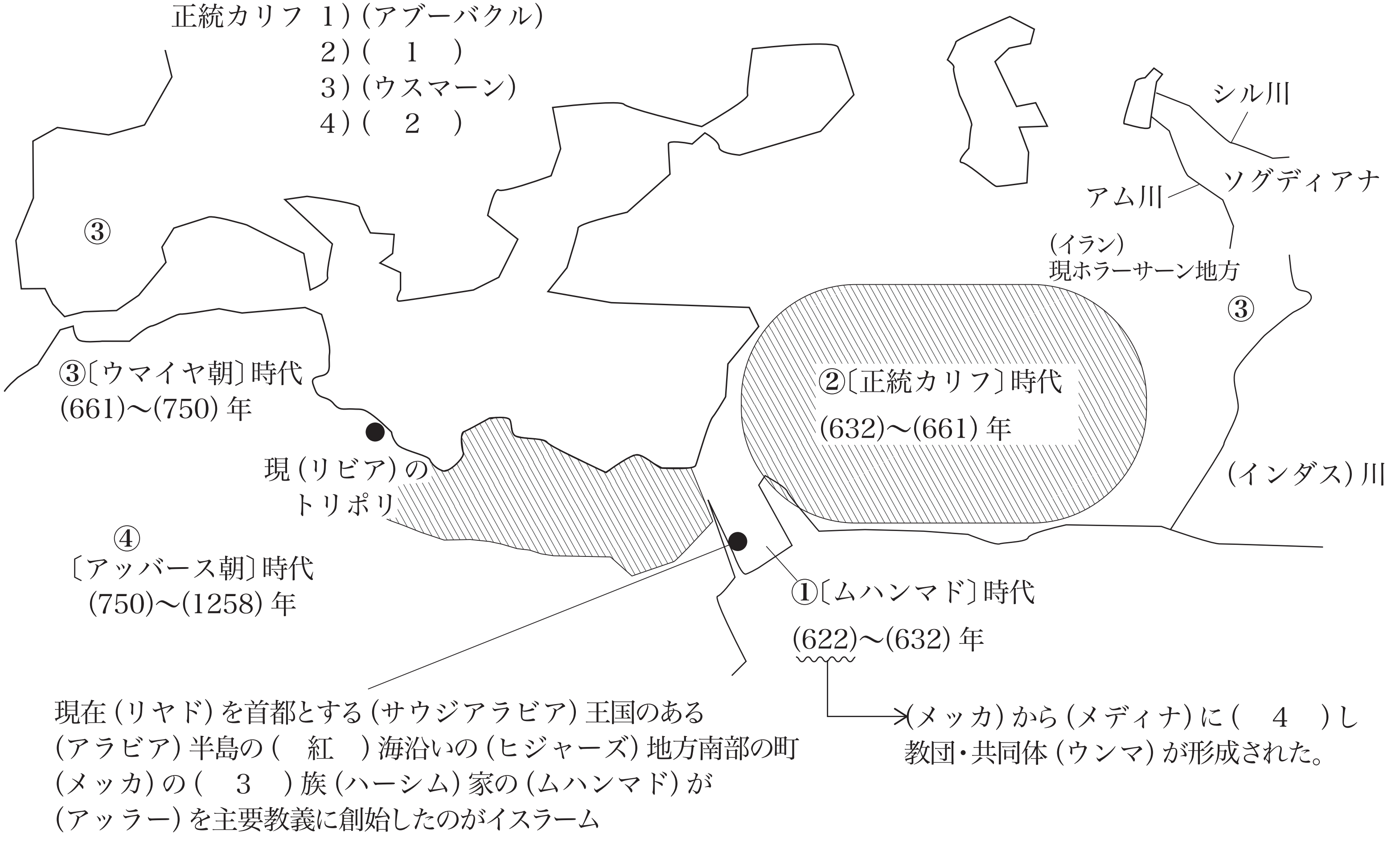
解答

ヴェーダ時代	
マウリヤ朝マガダ国	
サータヴァーハナ朝	
クシャーナ朝	
グプタ朝マガダ国	
ヴァルダナ朝	
分裂時代	

選択肢

a　都パータリプトラ　　b　都カナウジ
c　都プルシャプラ（現ペシャワル）　　d　アショーカ王
e　カニシカ王　　f　チャンドラグプタ vs セレウコス
g　チャンドラグプタ１世　　h　チャンドラグプタ２世（超日王）
i　ハルシャ王　　j　ヒンドゥー教成立　　k　仏教成立
l　大乗仏教隆盛　　m　上座部（小乗）仏教隆盛　　n　ジャイナ教成立
o　バラモン教成立　　p　ナーランダー僧院成立　　q　『マヌ法典』完成
r　ガンダーラ菩薩像　　s　『マハーバーラタ』『ラーマーヤナ』完成
t　スリランカ（セイロン）布教　　u　法顕訪印　　v　玄奘訪印
w　義浄訪印　　x　カーリダーサ『シャクンタラー』　　y　カリンガ攻略
z　パーラ朝が仏教保護　　ア　アレクサンドロス大王侵入
イ　『エリュトゥラー海案内記』に登場
ウ　デカン高原に存在，ドラヴィダ系　　エ　エフタルにより滅亡
オ　シャープール１世により滅亡　　カ　サンスクリット文学隆盛
キ　石柱碑・磨崖碑のダルマで統治　　ク　サーンチーにストゥーパ
ケ　アジャンター・エローラの石窟　　コ　ナーガールジュナ（竜樹）

3 初期イスラーム史


正統カリフ 1)(アブーバクル)
2)(　1　)
3)(ウスマーン)
4)(　2　)
③
③〔ウマイヤ朝〕時代
(661)〜(750) 年
現(リビア)の
トリポリ
④
〔アッバース朝〕時代
(750)〜(1258) 年
②〔正統カリフ〕時代
(632)〜(661) 年
①〔ムハンマド〕時代
(622)〜(632) 年
(メッカ)から(メディナ)に(　4　)し
教団・共同体(ウンマ)が形成された。
現在(リヤド)を首都とする(サウジアラビア)王国のある
(アラビア)半島の(　紅　)海沿いの(ヒジャーズ)地方南部の町
(メッカ)の(　3　)族(ハーシム)家の(ムハンマド)が
(アッラー)を主要教義に創始したのがイスラーム
シル川
ソグディアナ
アム川
(イラン)
現ホラーサーン地方
③
(インダス)川

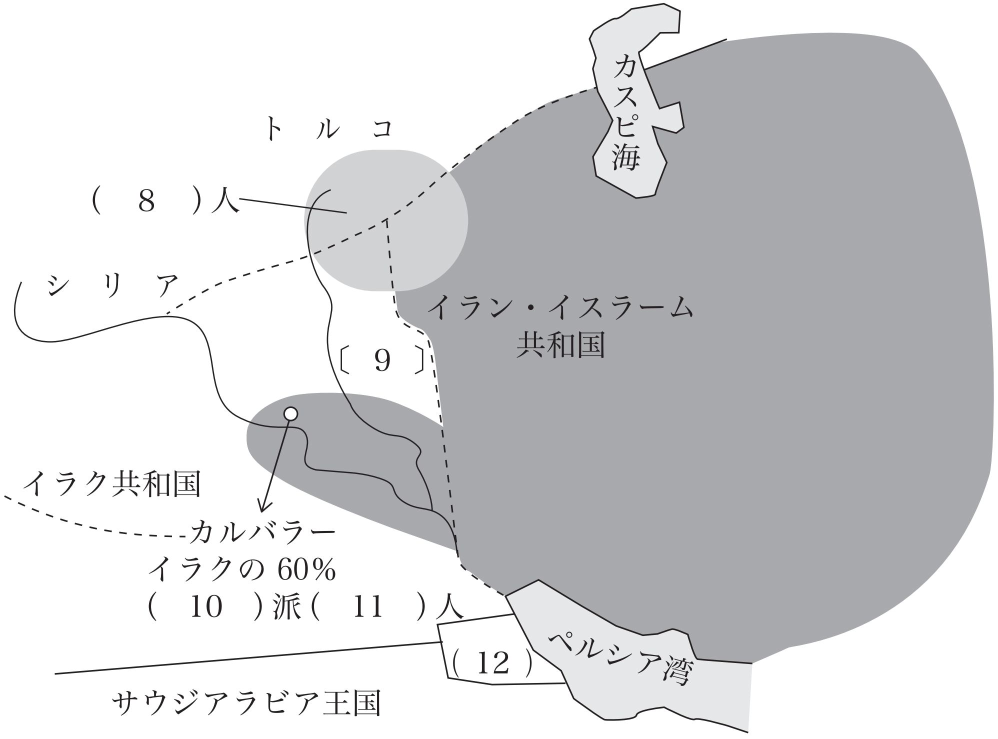
ムハンマド

娘（ファーティマ）♡（　5　）

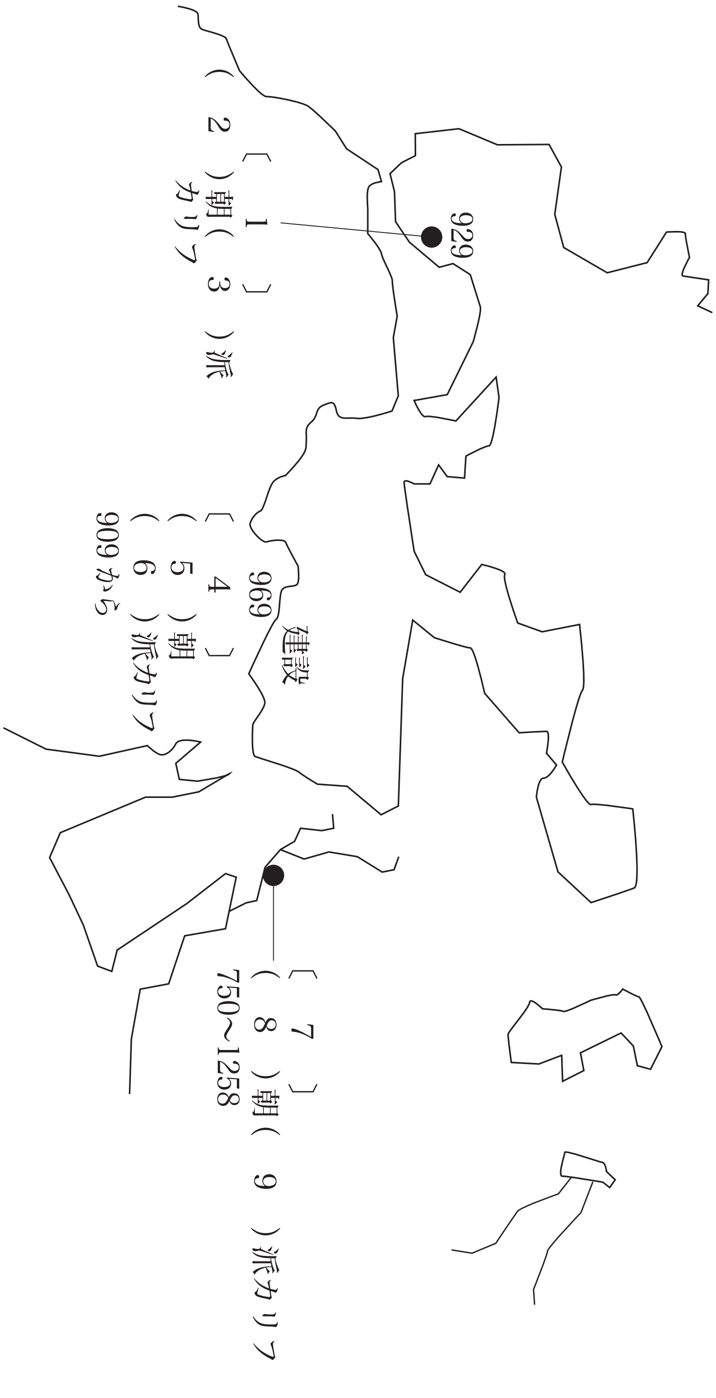
〔ウマイヤ〕家 × フサイン

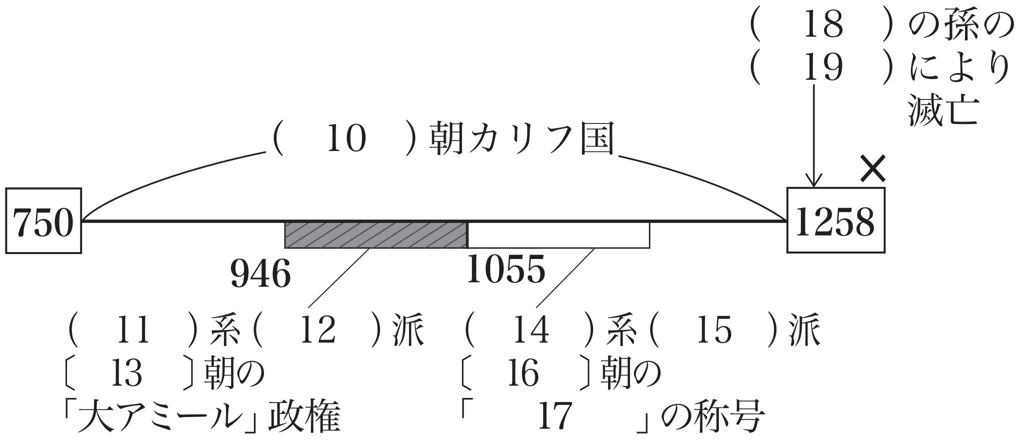
カルバラーの悲劇（680）
by（　6　）朝

（　7　）派の成立



4 イスラームの分裂





〈10世紀はシーア派の世紀，11世紀はスンナ派の巻き返し〉

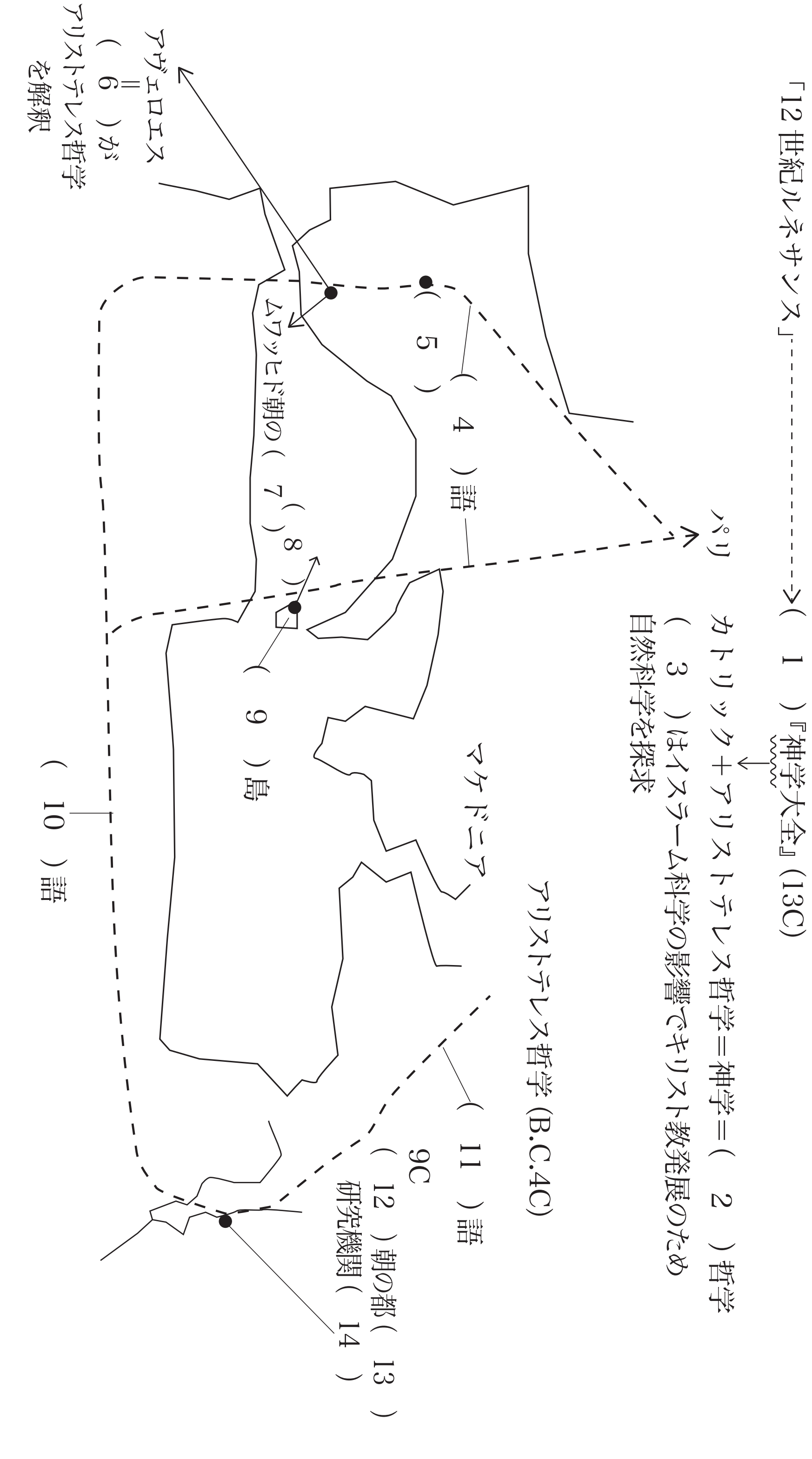
北アフリカ		メソポタミア
〔 20 〕朝	10C	〔 26 〕朝
〔 21 〕朝〔 22 〕朝	11C	〔 27 〕朝
〔 23 〕朝〔 24 〕朝	12C	〔 28 〕朝カリフ国復活〔 29 〕朝
〔 25 〕朝	13C	(30)とその祖父(31)が征服

5 セルジューク朝

（　1　）川付近を故地とするセルジューク族は（　2　）派のイスラームに改宗し，（　3　）年（　4　）に率いられ（　5　）に入城。同地を支配していた（　6　）系（　7　）派の（　8　）朝（「大アミール」）政権を打倒し，（　9　）朝のカリフから（　10　）＝権力者の称号を得た。セルジューク朝の最盛期は（　11　）の治世でその宰相（　12　）は，学院（＝　13　）である（　14　）を各地に建立，神学者（　15　）を招く。この神学者は（　16　）派の神学と神秘主義（　17　）を融合した。また『四行詩集』（＝　18　）の作者（　19　）も同朝で活躍した。（　20　）年の（　21　）の戦いで（　22　）帝国を脅かすと，この帝国の皇帝（　23　）世は，同年セルジューク朝がキリスト教の聖地（　24　）を占領し巡礼者を迫害したとして西方世界に救援を要請，教皇（　25　）世が（　26　）年に（　27　）中部の（　28　）で宗教会議を開き，翌年（　29　）の派兵がなされ（　30　）が建国される。この国の領土の大半を奪い返した（　31　）人が（　32　）でカイロの（　33　）朝の創設者である。セルジューク朝は分裂し，小アジアの（　34　）朝と東方の大半は（　35　）朝に受け継がれ，後者は13世紀に（　36　）により征服された。また（　37　）には（　38　）朝のカリフ政権が復活したが，モンゴル人（　39　）により殺された。（　40　）年のことだった。

1）	11）	21）	31）
2）	12）	22）	32）
3）	13）	23）	33）
4）	14）	24）	34）
5）	15）	25）	35）
6）	16）	26）	36）
7）	17）	27）	37）
8）	18）	28）	38）
9）	19）	29）	39）
10）	20）	30）	40）

6 アリストテレスは自然を解釈し，アヴェロエスはアリストテレスを解釈した



7 イスラーム王朝　識別テスト

1. 中央アジア初のトルコ系イスラーム王朝　トルキスタンを形成
2. 都マラケシュ　ベルベル系　ガーナ王国征服
3. チンギス＝ハンに滅ぼされたトルコ系イスラーム王朝
4. 946年バグダード入城　「大アミール」称号　イクター制始まる
5. クルド人サラディン　第3回十字軍と講和
6. アブド＝アッラフマーン3世　カリフ宣言　都コルドバ
7. 都ブハラでイブン＝シーナー『医学典範』　1と10により滅亡
8. 十字軍の原因　カリフから「スルタン」の称号
9. 12Cのコルドバでイブン＝ルシュドがアリストテレスを解釈　ベルベル系
10. インド・イスラーム化のきっかけ　アフガニスタンのトルコ系
11. 10を滅ぼし北インド支配　イラン系
12. インド初のイスラーム王朝(1206)
13. デリー＝スルタン朝の最後　アフガン系
14. アルハンブラ宮殿をスペインに無血開城
15. スペインをイスラーム化した王朝
16. アズハル学院をカイロとともに建設
17. アッコンを陥落させ十字軍を終わらせモンゴルを撃退　カリフの家族保護
18. チンギス＝ハンの孫により滅亡
19. 18の人物が建国　カザン＝ハンのときイスラーム化
20. ウズベク＝ハンのときイスラーム化，ティムールに攻められ，モスクワ大公国独立

1)	11)
2)	12)
3)	13)
4)	14)
5)	15)
6)	16)
7)	17)
8)	18)
9)	19)
10)	20)

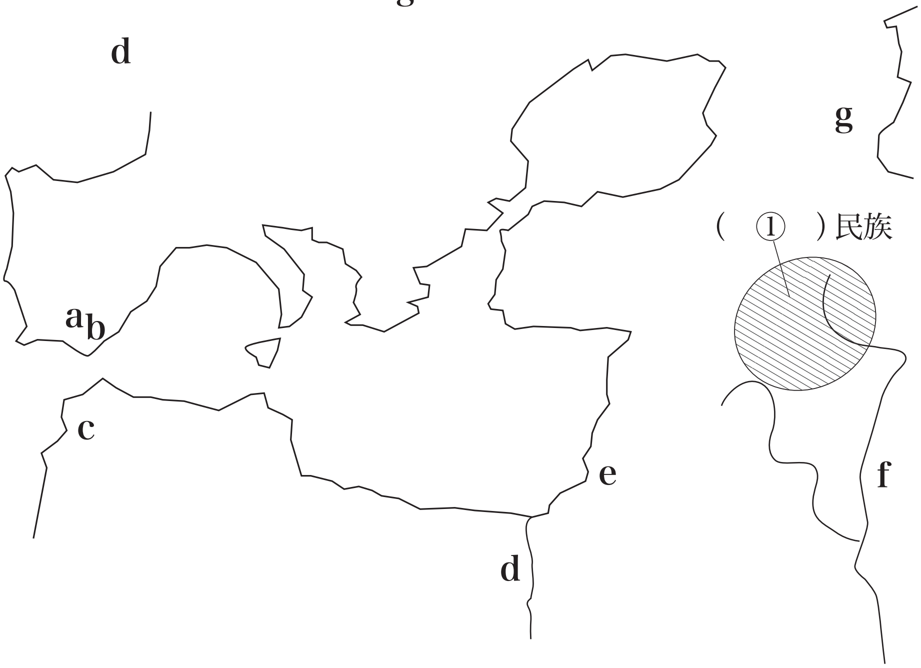
以下の **a**～**g** を都とした王朝を 1～19 のうちから選べ。

a　　　　　　**e**

b　　　　　　**f**

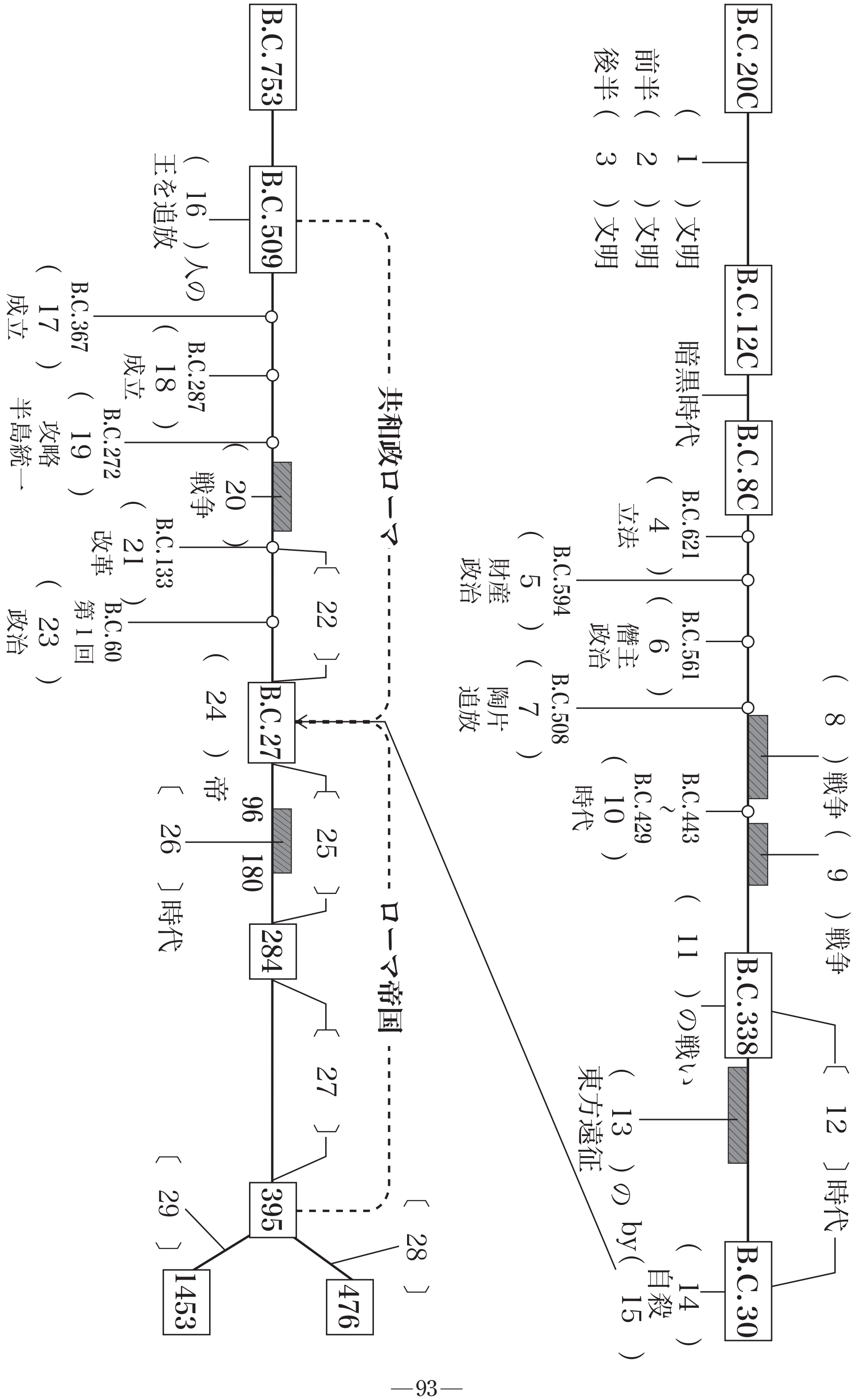
c　　　　　　**g**

d



テーマ２
近代以前のヨーロッパ

1 古代ギリシア・古代ローマの見取り図



2 ヨーロッパ史の基礎

☆ヨーロッパの先住民族（　30　）人
現住地グレートブリテン島の（　31　）と（　32　）
（　33　）
フランスの（　34　）半島
（　35　）のガリシア地方

☆ヨーロッパの征服民族
1）（　36　）民族…ローマ周辺
2）（　37　）民族…デンマークのある（　38　）半島
ノルウェー，スウェーデンの（　39　）半島南部
北ドイツ（　40　）海沿岸
3）（　41　）民族…現（　42　）の首都キエフを流れる（　43　）と西部（　44　）山脈の間

☆3）に関して
㋕…カトリック　㊣…ギリシア正教に分け，民族を記せ。

クロアチア
セルビア
ポーランド
チェコ
スロヴァキア
ロシア
ウクライナ
ルーマニア
ブルガリア
ハンガリー
スロヴェニア

☆２）に関して

			原郷	建国地
西　２民族	（x	45　）…	〔　46　〕	〔　47　〕
	（y	48　）…	〔　49　〕	〔　50　〕
東　５民族	（ア	51　）…	〔　52　〕	〔　53　〕
	（イ	54　）…	〔　55　〕	〔　56　〕
	（ウ	57　）…	〔　58　〕	〔　59　〕
	（エ	60　）…	〔　61　〕	〔　62　〕
	（オ	63　）…	〔　64　〕	〔　65　〕

ア〔 66 〕年〔　67　〕
イ〔 68 〕年〔　69　〕
ウ〔 70 〕年〔　71　〕により滅亡
エ〔 72 〕年〔　73　〕
オ〔 74 〕年〔　75　〕

☆xについて

496年〔　76　〕
534年〔　77　〕
732年〔　78　〕
751年〔　79　〕
756年〔　80　〕
774年〔　81　〕
800年〔　82　〕…
843年〔　83　〕
870年〔　84　〕

800年の世界史的意義
〔　85　〕

3 ノルマン人（別名　　1　　）の活動

〔　5　〕海

イギリスの建国年号

＝

（　2　）年の

〔　3　〕による

ⓑ〔　　4　　〕

ロシアの起源

（　12　）年（　13　）建国

〔　　14　　〕

↓

（　15　）年（　16　）建国

※〔　　17　　〕

北フランス

（　6　）年〔　7　〕建国

ⓐ〔　　8　　〕

※988年の出来事と意義

（　18　）

南イタリア

（　9　）年

（　10　）建国

〔　　11　　〕

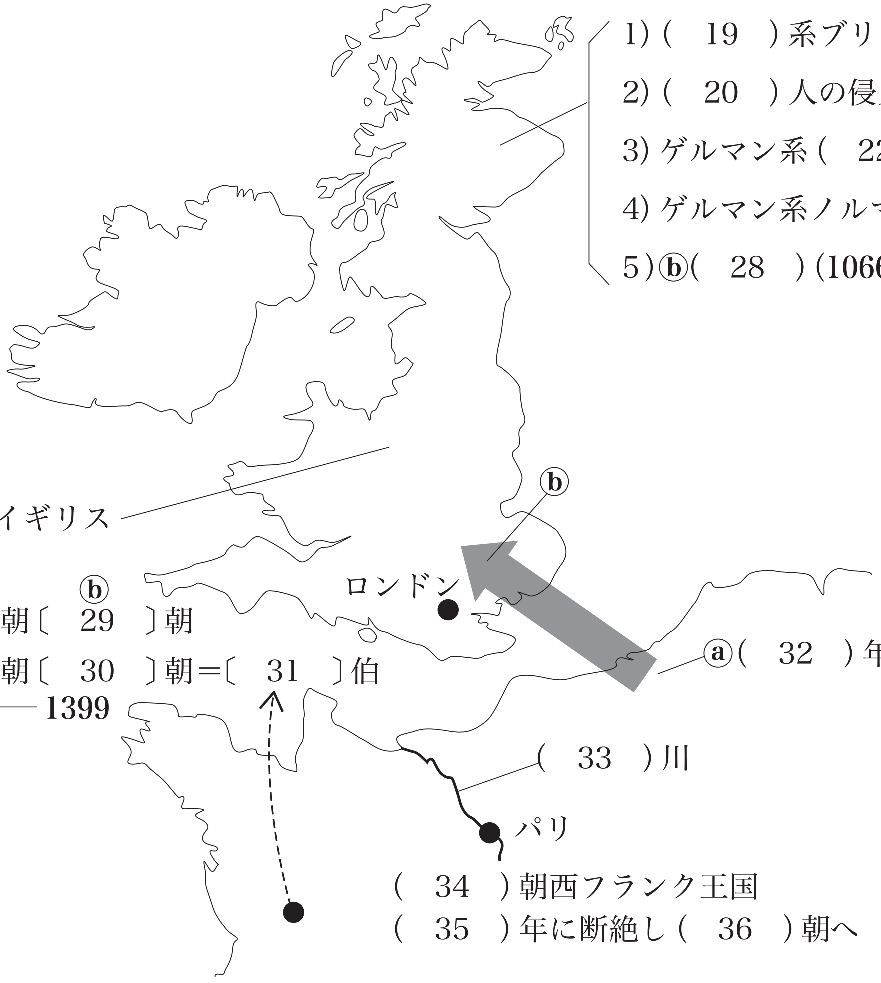
1)（　19　）系ブリトン人

2)（　20　）人の侵入 ex〔　21　〕の長城

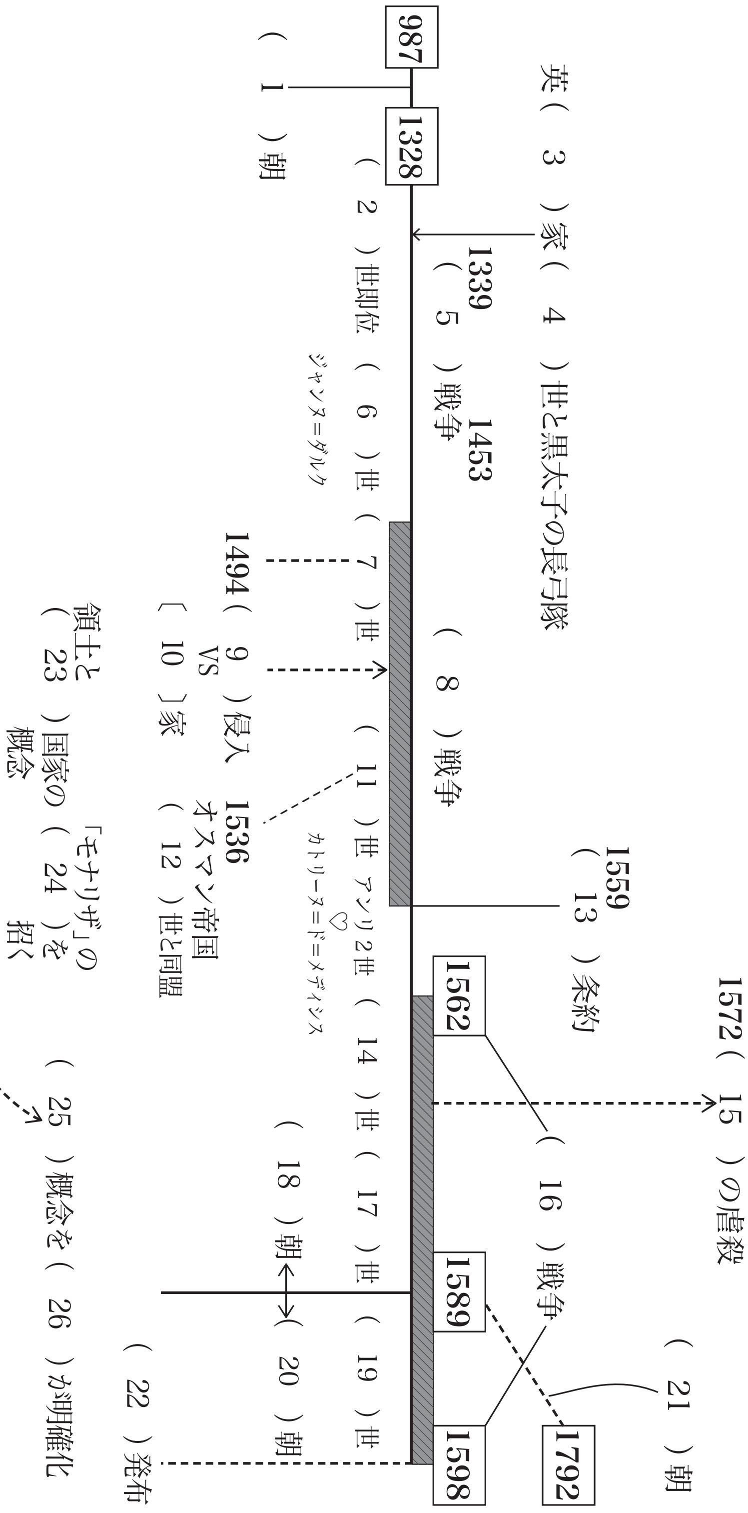
3) ゲルマン系（　22　）族による七王国（＝　23　）を（　24　）が統一（829）
→（　25　）大王

4) ゲルマン系ノルマン人の（　26　）人（　27　）による王朝（1016）

5) ⓑ（　28　）（1066）



4 中世フランス史


987
1328
（ 1 ）朝
英（ 3 ）家（ 4 ）世と黒太子の長弓隊
1339 （ 5 ）戦争
1453
（ 2 ）世即位
（ 6 ）世
ジャンヌ＝ダルク
（ 7 ）世
（ 8 ）戦争
1494（ 9 ）侵入
VS
［ 10 ］家
（ 11 ）世
カトリーヌ＝ド＝メディシス
アンリ2世
1536
オスマン帝国
（ 12 ）世と同盟
領土と（ 23 ）国家の概念
「モナリザ」の（ 24 ）を招く
1559（ 13 ）条約
1562
（ 14 ）世
1572（ 15 ）の虐殺
（ 16 ）戦争
（ 17 ）世
1589
（ 18 ）朝
（ 19 ）世
（ 20 ）朝
1598
1792
（ 21 ）朝
（ 22 ）発布
（ 25 ）概念を（ 26 ）が明確化

5 だーれ？

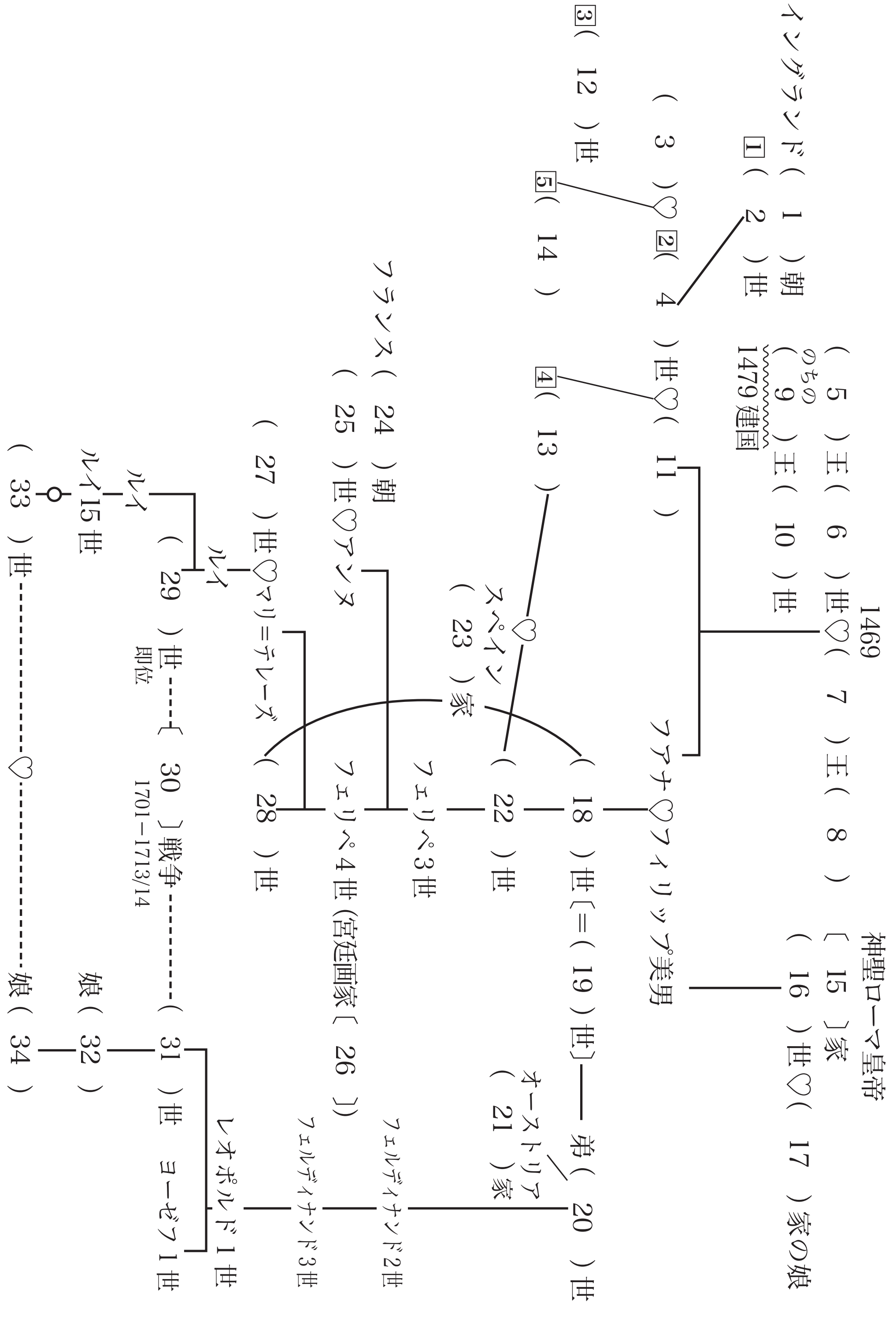
1　第３回十字軍
2　キエフ公国
3　962 年に戴冠した
4　800 年に戴冠した
5　ノルマンディー公国
6　両シチリア王国
7　ノヴゴロド国
8　フン人の首領
9　８を説得
10　西ローマ帝国を滅ぼす
11　アナーニ事件起こす
12　ロンドンをデーン人から奪回
13　アンジュー伯アンリ
14　1066　ノルマンコンクェスト
15　496　アタナシウス派に改宗
16　東ゴート王国の大王
17　732　トゥール・ポワティエ間の戦い
18　ランゴバルド王国を滅ぼす
19　アルビジョワ十字軍始める
　　第３回十字軍
20　アルビジョワ十字軍終える
　　第６・７回十字軍
21　マグナ＝カルタに署名
22　模範議会
23　シモン＝ド＝モンフォールの議会
24　神聖ローマ帝国初代皇帝
25　ラヴェンナ地方を教皇に寄進
26　987 年に王朝をパリに創始
27　教皇権絶頂期，ジョンを破門
28　アナーニ事件で憤死

α　ボニファティウス８世
β　インノケンティウス３世
a　ヘンリ２世
b　ヘンリ３世
c　フィリップ２世
d　フィリップ４世
e　アルフレッド大王
f　ジョン
g　ピピン
h　ユーグ＝カペー
i　ウィリアム１世
j　ルッジェーロ２世
k　クローヴィス
l　アッティラ
m　カール
n　リチャード１世
o　エドワード１世
p　カール＝マルテル
q　ルイ９世
r　リューリク
s　オレーグ
t　ロロ
u　レオ３世
v　ヨハネス 12 世
w　オットー１世
x　レオ１世
y　テオドリック大王
z　オドアケル

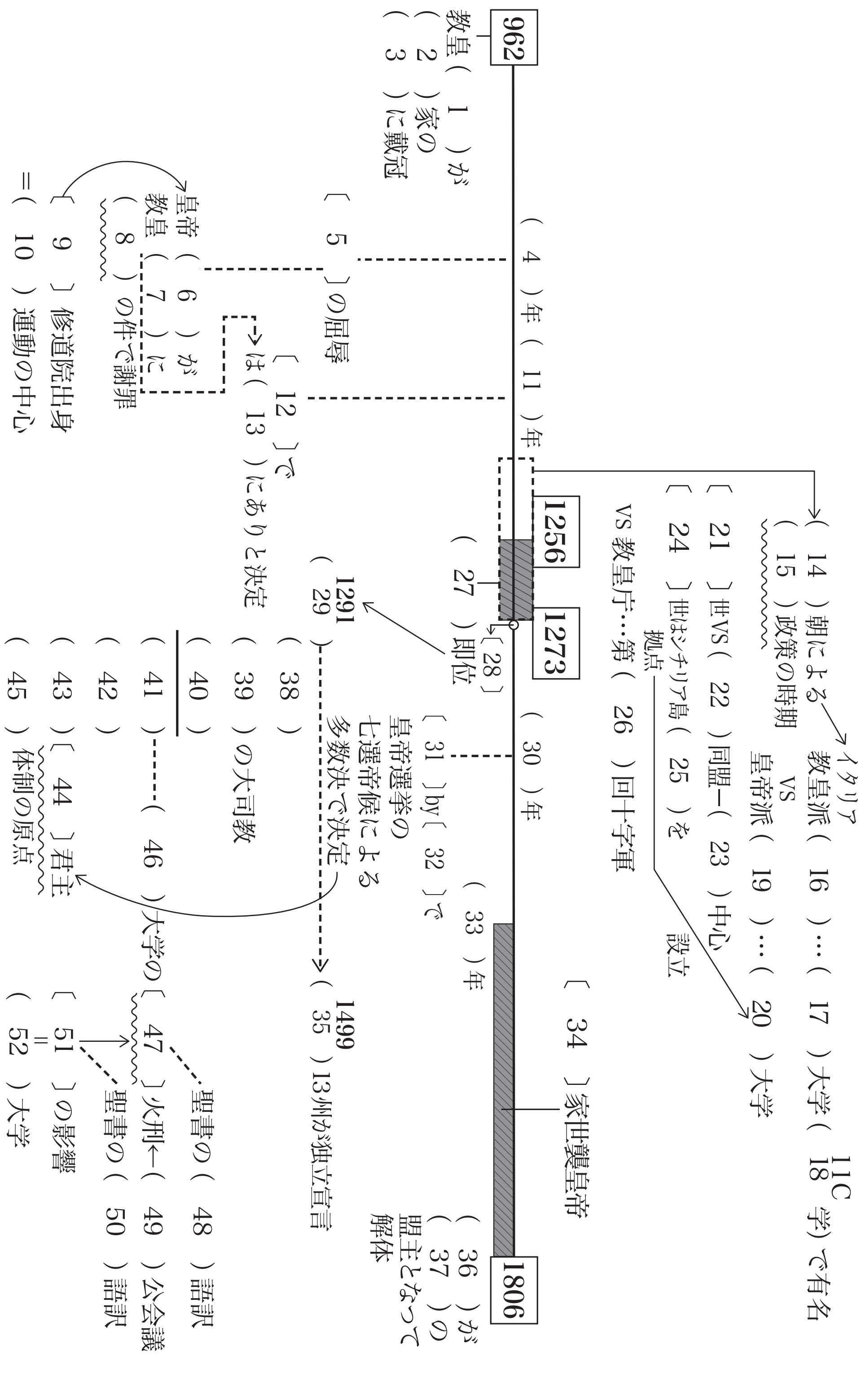
6 どーこだ？

1	托鉢修道会・フランチェスコ	a	コルドバ
2	ピピンが寄進	b	グラナダ
3	イングランドの大司教座	c	トレド
4	ハンザ同盟在外商館 現ノルウェー	d e	マルセイユ アヴィニョン
5	フランス中南部修道院	f	パリ
6	銀で有名　南ドイツ	g	モンテ＝カシノ
7	ハンザの女王	h	アッシジ
8	アドリアの女王	i	ピサ
9	アルフレッド大王がデーン人から 奪還・ハンザの拠点	j k	フィレンツェ ジェノヴァ
10	第１回十字軍が王国建設	l	ヴェネツィア
11	ベネディクトゥス修道会	m	ミラノ
12	フィリップ４世が教皇庁を移転	n	ラヴェンナ
13	アルハンブラ宮殿	o	アウクスブルグ
14	ハギア＝ソフィア大聖堂	p	ブレーメン
15	北イタリア・レヴァント貿易・ロ マネスク建築の大聖堂	q r	ハンブルク リューベック
16	ドイツ第２の都市・ハンザの中心 の一つ	s t	ベルゲン ブリュージュ
17	ボッカチオ『デカメロン』	u	ノヴゴロド
18	後ウマイヤ朝の都	v	ロンドン
19	西ゴート王国の都・翻訳の町	w	クリュニー
20	ギリシア人の都市・南フランス	x	カンタベリー
21	セーヌ川が流れている	y	コンスタンティノープル
22	コロンブス生誕の地・レヴァント 貿易	z	イェルサレム
23	ハンザ同盟外地商館　現ベルギー		
24	ハンザ同盟外地商館　現ロシア		
25	ロンバルディア同盟の中心地		
26	ハンザ同盟の中心地の一つ		

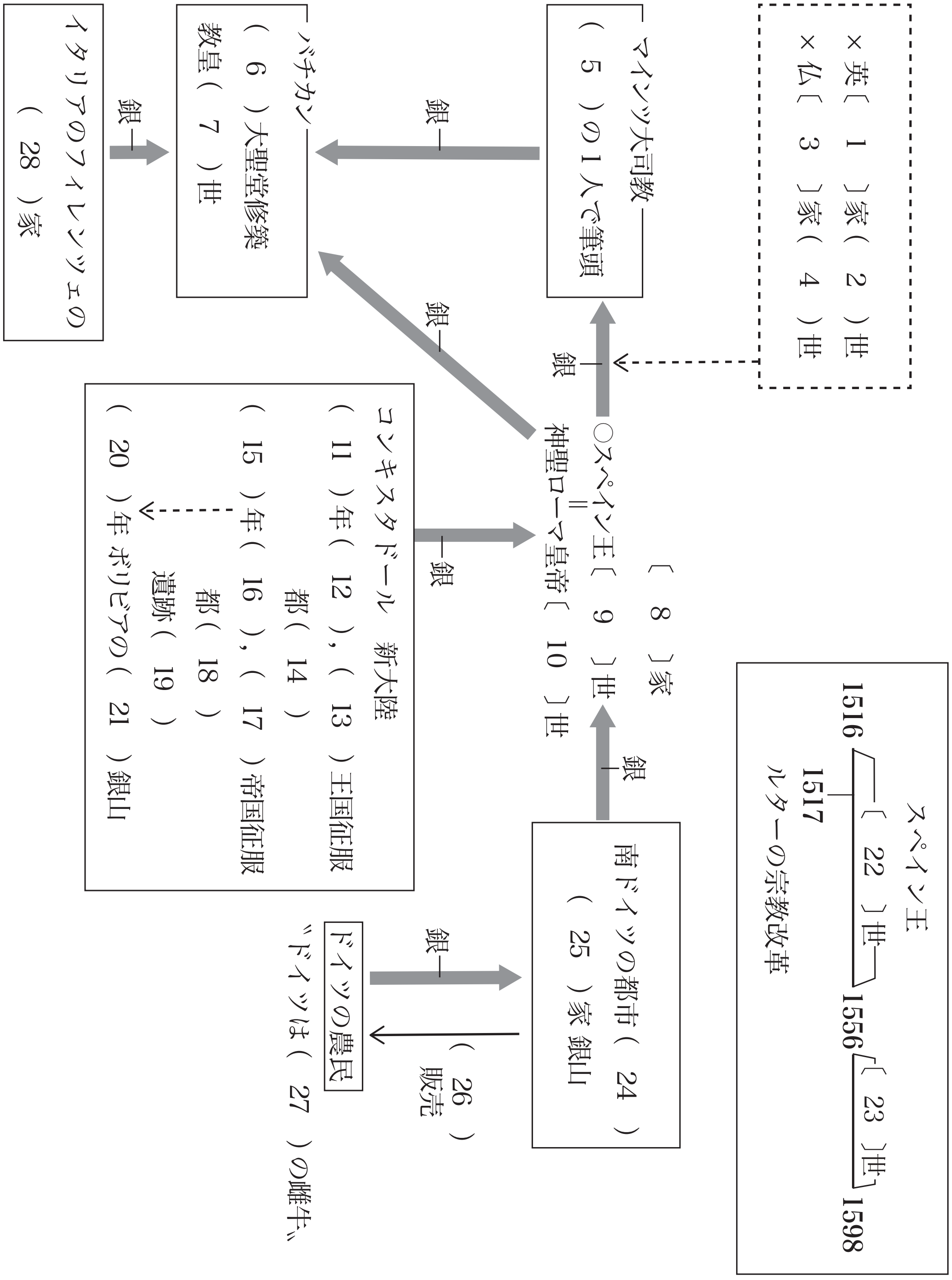
7 ヨーロッパ史必修系図



8 神聖ローマ帝国（ドイツ第１帝国）



9 ルターが挑んだ構図



×英〔 1 〕家（ 2 ）世
×仏〔 3 〕家（ 4 ）世
マインツ大司教
（ 5 ）の1人で筆頭
バチカン
（ 6 ）大聖堂修築
教皇（ 7 ）世
イタリアのフィレンツェの
（ 28 ）家
銀
〔 8 〕家
○スペイン王〔 9 〕世
＝
神聖ローマ皇帝〔 10 〕世
コンキスタドール 新大陸
（ 11 ）年（ 12 ），（ 13 ）王国征服
都（ 14 ）
（ 15 ）年（ 16 ），（ 17 ）帝国征服
都（ 18 ）
遺跡（ 19 ）
（ 20 ）年 ボリビアの（ 21 ）銀山
南ドイツの都市（ 24 ）
（ 25 ）家 銀山
（ 26 ）
販売
ドイツの農民
"ドイツは（ 27 ）の雌牛"
スペイン王
1516 〔 22 〕世 1556 〔 23 〕世 1598
1517 ルターの宗教改革

10 ステュアート朝

1603

①〔 1 〕世，宗派（ 2 ）＝（ 3 ）の息子，スコットランド王ジェームズ6世が（ 4 ）を唱えた

（ 5 ）が（ 6 ）号で（ 7 ）へ

②〔 8 〕世，宗派（ 9 ）（ 10 ）が同説を唱え，**1628** の（ 11 ）も無視し議会閉鎖

スコットランドにも強制したので（ 12 ）革命へ

①（ 13 ）派 VS（ 15 ）派
× ○
1645（ 14 ）の戦い

（ 16 ）派 ②内輪もめ
（ 17 ）派〔 18 〕中心
（ 19 ）派
（ 20 ）派

1649 →（ 27 ）処刑し，（ 28 ）を征服 **1660**---- 共和政
1651〔 29 〕発布
1651（ 30 ）が（『 31 』）発表
カルヴァンのような（ 32 ）政治の時代

③〔 21 〕世，宗派（ 22 ） 仏王（ 23 ）と提携
議会は **1673**（ 24 ）---内容〔 25 〕
1679（ 26 ）で対抗

④〔 33 〕世，宗派（ 34 ）即位 **1685**---- この年ルイ14世（ 35 ）廃止
→容認派（ 36 ）--->保守党
→否認派（ 37 ）--->自由党

1688 名誉革命 ④を追放 ⑤〔 38 〕世〔 39 〕世 共同統治 ←（ 40 ）の思想の影響で **1689**（ 41 ）発布
‖
1215 の（ 42 ）と内容酷似

1694（ 43 ）設立

⑥〔 44 〕**1707**（ 45 ）併合

1714

＜ホッブズの(　46　)＞

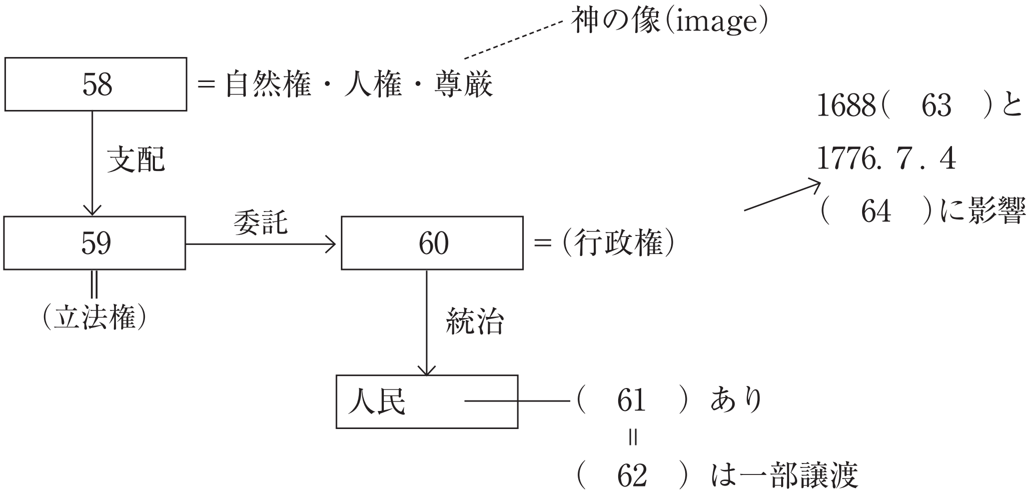
〝人間には神の意志はわからないが，唯一わかるのは人間に自己保存の欲求がある〟と述べ，無神論者であると非難されたトーマス＝ホッブズは，(　47　)年に(『　48　』)を発表，これは(『　49　』)の「ヨブ記」に出てくるワニの怪物。〝人間は人間にたいして狼となる〟と述べ，万人の万人にたいする(　50　)を(　51　)であると規定，(　52　)を守る（＝自己保存）のためには(　53　)（＝人権)を全面的に怪物(ワニ)に譲渡する(　54　)を結ぶべしと主張，1660年の

〔　55　〕の喩え

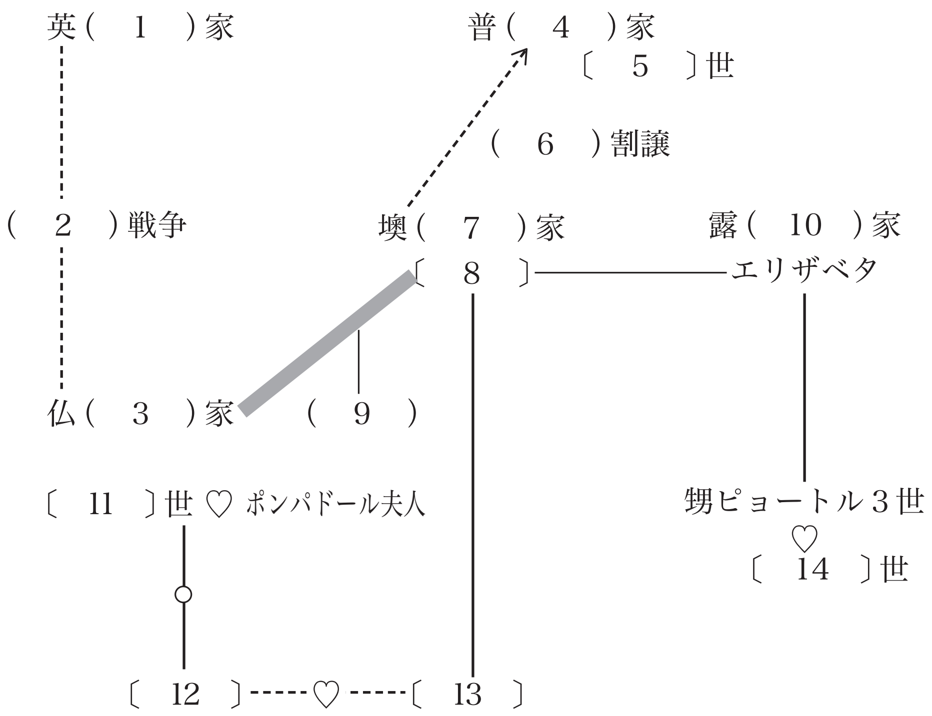
(　56　)に思想的根拠を与えた。

＜ロックの(　57　)＞

自然状態はおおむね自由で平等



11 七年戦争の構図



フリードリヒ２世は（　15　）を師とする（　16　）で，ベルリン近郊（　17　）に（　18　）様式の（　19　）宮殿を建立し部屋を用意。

〝国王は国家の第一の僕〟と述べ『反マキャヴェリ論』を著す。

「マキャヴェリ」について
（　20　）年の（　21　）世の侵入にはじまる（　22　）戦争期の（　23　）地方の都市（　24　）において（『　25　』）を著す。為政者に求められるのは，（　26　）ではなく（　27　）であると述べ，教皇（　28　）世の子チェザレ＝ボルジアを理想視。

テーマ4
東部ユーラシア史

1 テスト

a　殷　　b　周　　c　秦　　d　前漢　　e　新　　f　後漢
g　魏　　h　西晋　　i　東晋　　j　北魏　　k　隋　　l　唐
m　北宋　　n　南宋　　p　なし

(1)　以下の年号はａ～ｐのどの年号か。

1）618～907
2）8～23
3）B.C. 202～8
4）960～1127
5）317～420

(2)　以下の都市を都としたものをａ～ｐから選べ。

1）洛陽（洛邑）
2）西安（鎬京，咸陽，長安，大興城）
3）開封
4）南京（建業，建康，金陵）
5）杭州（臨安）

(3)　以下のものはどの王朝で始まったか。

1）均田制・三長制
2）郡国制
3）府兵制
4）科挙
5）占田課田法
6）郡県制
7）屯田制・九品中正
8）郷挙里選
9）土断法
10）殿試

⑷　以下の乱が起こったのは？

1）黄巾の乱
2）黄巣の乱
3）赤眉の乱
4）呉楚七国の乱
5）陳勝呉広の乱
6）安史の乱
7）八王の乱
8）武韋の禍
9）党錮の禁
10）永嘉の乱

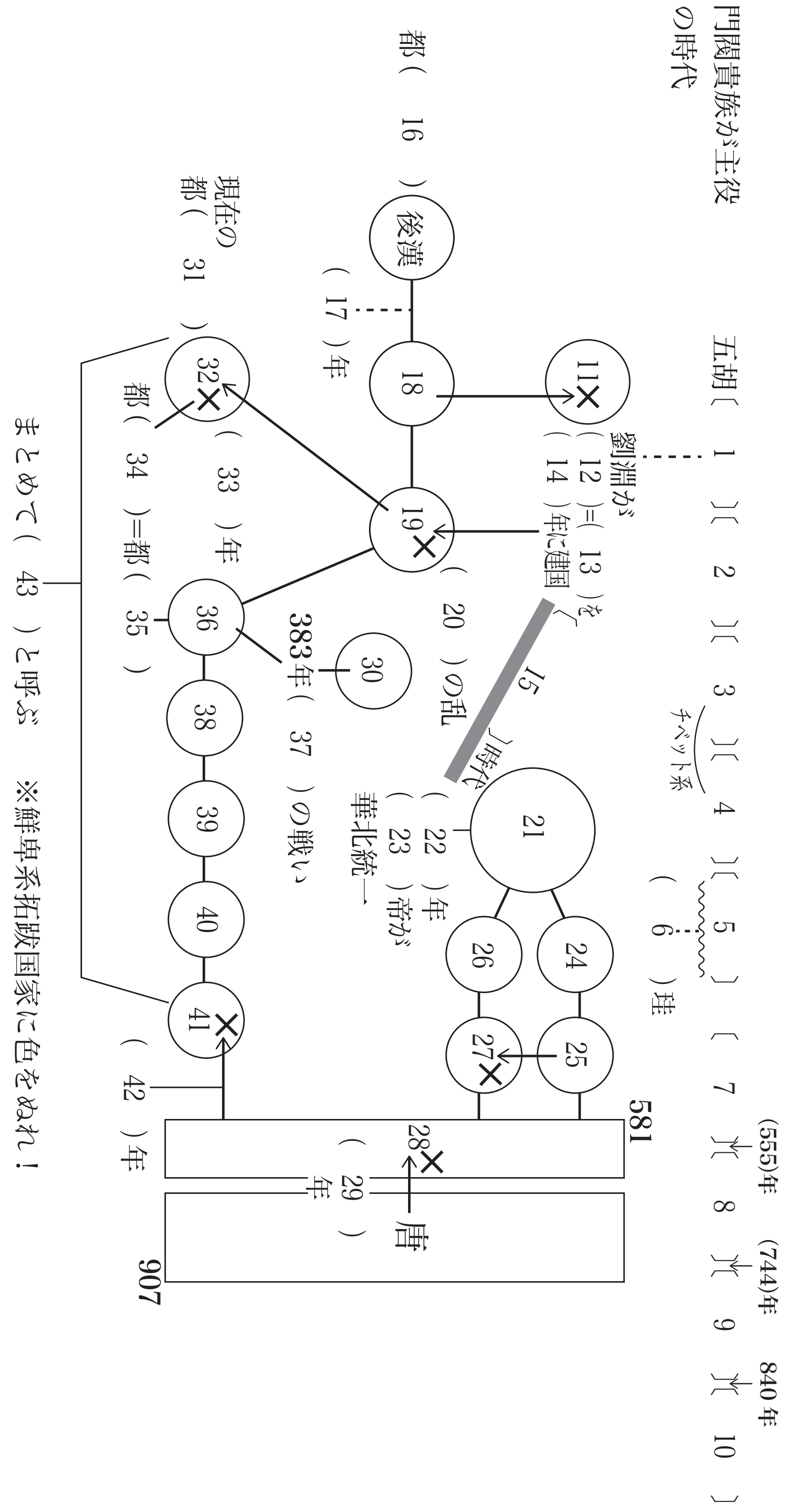
⑸　どの王朝？

1）半両銭
2）寇謙之の道教
3）王羲之の書
4）董仲舒の五経博士
5）孔穎達の五経正義
6）鄭玄の訓詁学
7）焚書・坑儒
8）朱熹の大義名分論
9）杜甫・李白の詩

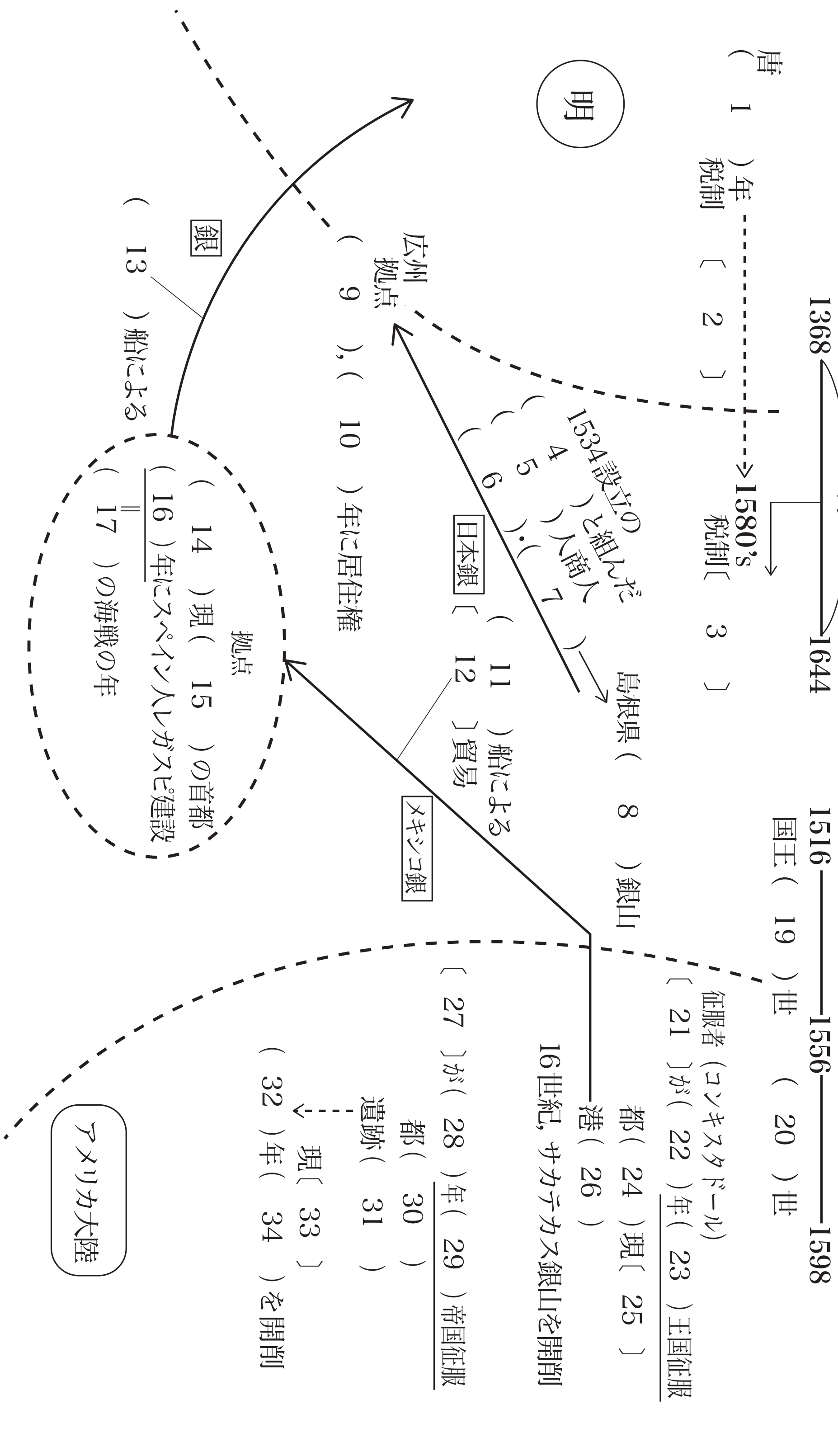
⑹　どの王朝の建国者？

1）劉秀
2）劉邦
3）曹丕
4）王莽
5）楊堅
6）趙匡胤
7）李淵
8）司馬炎

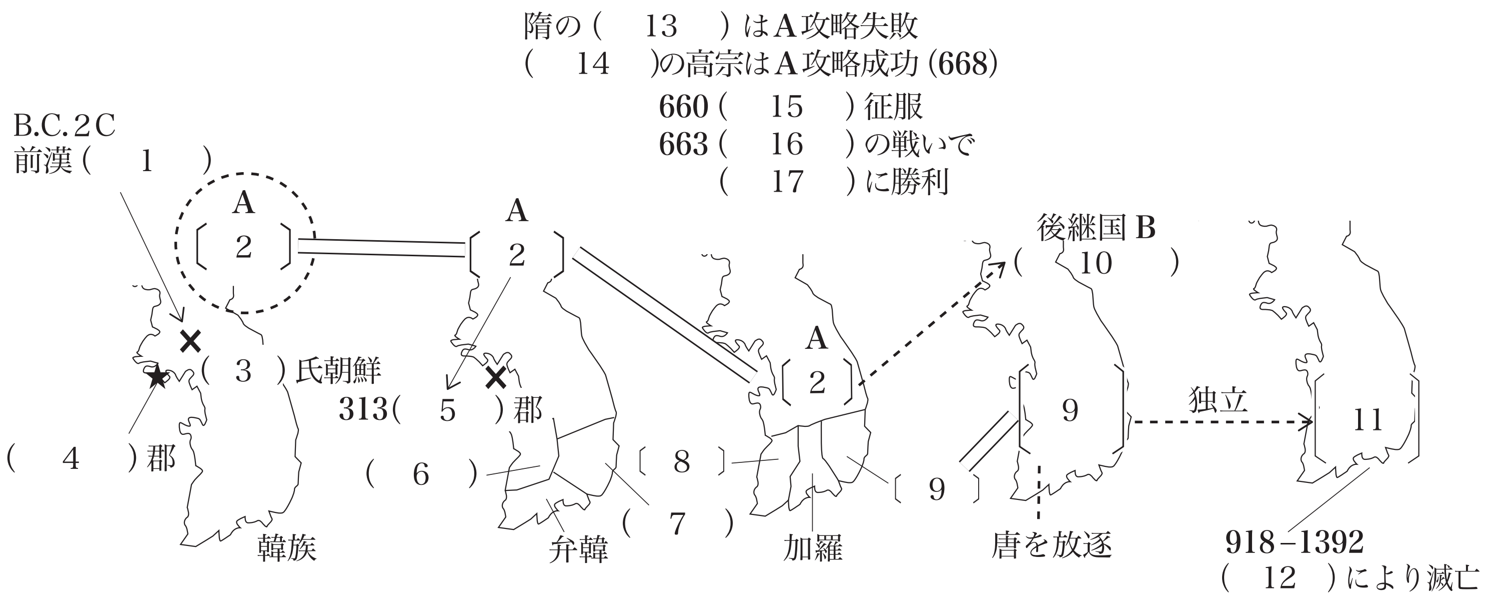
2 魏晋南北朝〜隋唐


門閥貴族が主役の時代
五胡〔 1 〕〔 2 〕〔 3 〕〔 4 〕〔 5 〕
チベット系
（ 6 ）族
〔 7 〕〔 8 〕〔 9 〕〔 10 〕
(555)年
(744)年
840年
劉淵が（ 12 ）＝（ 13 ）を（ 14 ）年に建国
15 時代
後漢
都（ 16 ）
（ 17 ）年
11
18
19
（ 20 ）の乱
21
（ 22 ）年
（ 23 ）帝が華北統一
24
25
26
27
581
28
（ 29 ）年
唐
907
30
383年（ 37 ）の戦い
現在の都（ 31 ）
32
（ 33 ）年
都（ 34 ）＝都（ 35 ）
36
38
39
40
41
（ 42 ）年
まとめて（ 43 ）と呼ぶ
※鮮卑系拓跋国家に色をぬれ！

3 16世紀の銀の流れ


唐（ 1 ）年 税制〔 2 〕
1368
明
1644
1580's 税制〔 3 〕
明
広州 拠点
（ 9 ），（ 10 ）年に居住権
1534設立の（ 4 ）と組んだ（ 5 ）人商人・（ 6 ）・（ 7 ）
日本銀
（ 11 ）船による
〔 12 〕貿易
島根県（ 8 ）銀山
銀
（ 13 ）船による
拠点
（ 14 ）現（ 15 ）の首都
（ 16 ）年にスペイン人レガスピ建設
（ 17 ）の海戦の年
メキシコ銀
スペイン＝（ 18 ）家
1516 国王（ 19 ）世 1556 （ 20 ）世 1598
征服者（コンキスタドール）〔 21 〕が（ 22 ）年（ 23 ）王国征服
都（ 24 ）現〔 25 〕
16世紀, サカテカス銀山を開削
港（ 26 ）
〔 27 〕が（ 28 ）年（ 29 ）帝国征服
都（ 30 ）
遺跡（ 31 ）
現〔 33 〕
（ 32 ）年（ 34 ）を開削
アメリカ大陸

4 朝鮮史



分類せよ		a. 都,開城　b. 都,慶州　c. 都，丸都→平壌
高句麗	23	d. 広開土王の碑(414)　e. 青磁　f. 仏国寺
新　羅	24	g. 骨品　h. 両班はじまる　i. 大蔵経
高　麗	25	j. 三別抄の乱　k. 訓民正音
朝鮮(李朝)	26	l. 朱子学　m. 金属活字

Bは（　18　）により滅亡
↓
（　19　）と（　20　）により滅亡
オゴタイ＝ハンにより滅亡　（　21　）により滅亡

1392−1910
（　22　）氏朝鮮

5 東南アジア史総整理

〈ミャンマー（ビルマ）〉

1044（　1　）朝

1531（　2　）朝 → 攻撃

1752（　3　）朝が
茶どころ（　4　）地方をめぐり
３度の戦争に敗れ
（　5　）年（　6　）に編入

〈タイ（シャム）〉

7C初（　7　）王国

1257（　8　）朝

1351（　9　）朝 → 攻撃

1782（　10　）朝
＝
チャクリ朝
これが現在の
タイ王室

〈カンボジア・ラオス〉

1C末（　11　）

6C　（　12　）

12C　（　13　）造営

〈ベトナム南部〉

2C末（　14　）

8C半 チャンパー（環王）

9C後半（　15　）

（　16　）年（　17　）領インドシナ連邦

〈ベトナム北部〉

（　18　）文化

前漢武帝（B.C. 2C）

（　19　）（ハノイ）・（　20　）（フエ）郡

7C唐ハノイに
（　21　）都護府

1009（　22　）朝大越

1225（　23　）朝大越

1428（　24　）朝大越

〈インドネシア〉（マレー・スマトラ　ジャワ）

（　25　）王国

マタラム朝

（　26　）朝
＝
〔　27　〕
造営

クディリ朝

（× 28 ）

1222（　29　）朝

1293（　30　）王国

（　31　）年（　32　）領
マレー連合州

20C初頭年（　33　）領
東インド

パガン　アユタヤ　ドヴァーラヴァティー　スコータイ
シャイレンドラ　トゥングー　ラタナコーシン　コンバウン
シュリーヴィジャヤ　黎　陳　李　占城　林邑
扶南　真臘　安南　日南　交趾

付録　解答

テーマ１
中東（オリエント～イスラーム史）

1 古代オリエント

a ：イラク
b ：トルコ
c ：イラン
d ：イラン
e ：イラク
f ：イラン
g ：イラン
h ：イラク
i ：イラク
j ：イラク
k ：トルコ
l ：イラク→シリア

2 イスラーム以前のインド史

ヴェーダ時代	k, n, o, ア
マウリヤ朝マガダ国	a, d, f, m, t, y, キ, ク
サータヴァーハナ朝	イ, ウ
クシャーナ朝	c, e, l, r, オ, コ
グプタ朝マガダ国	a, g, h, j, p, q, s, u, x, エ, カ, ケ
ヴァルダナ朝	b, i, v
分裂時代	w, z

3 初期イスラーム史

1	ウマル	2	アリー	3	クライシュ	4	ヒジュラ
5	アリー	6	ウマイヤ	7	シーア	8	クルド
9	バグダード	10	シーア	11	アラブ	12	クウェート

4 イスラームの分裂

1	コルドバ	2	後ウマイヤ	3	スンナ	4	カイロ
5	ファーティマ	6	シーア	7	バグダード	8	アッバース
9	スンナ	10	アッバース	11	イラン	12	シーア
13	ブワイフ	14	トルコ	15	スンナ	16	セルジューク
17	スルタン	18	チンギス＝ハン	19	フラグ	20	ファーティマ
21	ムラービト	22	ファーティマ	23	ムワッヒド	24	アイユーブ
25	マムルーク	26	ブワイフ	27	セルジューク	28	アッバース
29	ホラズム＝シャー	30	フラグ	31	チンギス＝ハン		

5 セルジューク朝

1）	シル	2）	スンナ	3）	1055
4）	トゥグリル＝ベク	5）	バグダード	6）	イラン
7）	シーア	8）	ブワイフ	9）	アッバース
10）	スルタン	11）	マリク＝シャー	12）	ニザーム＝アルムルク
13）	マドラサ	14）	ニザーミーヤ学院	15）	ガザーリー
16）	スンナ	17）	スーフィズム	18）	ルバイヤート
19）	ウマル＝ハイヤーム	20）	1071	21）	マンジケルト
22）	ビザンツ	23）	アレクシオス１	24）	イェルサレム
25）	ウルバヌス２	26）	1095	27）	フランス
28）	クレルモン	29）	第１回十字軍	30）	イェルサレム王国
31）	クルド	32）	サラディン	33）	アイユーブ
34）	ルーム＝セルジューク	35）	ホラズム＝シャー	36）	チンギス＝ハン
37）	バグダード	38）	アッバース	39）	フラグ
40）	1258				

6 アリストテレスは自然を解釈し，アヴェロエスはアリストテレスを解釈した

1	トマス＝アクィナス	2	スコラ	3	ロジャー＝ベーコン
4	ラテン	5	トレド	6	イブン＝ルシュド
7	コルトバ	8	パレルモ	9	シチリア
10	アラビア	11	ギリシア	12	アッバース
13	バグダード	14	知恵の館		

7 イスラーム王朝　識別テスト

1）カラ＝ハン朝	2）ムラービト朝	3）ホラズム＝シャー朝
4）ブワイフ朝	5）アイユーブ朝	6）後ウマイヤ朝
7）サーマーン朝	8）セルジューク朝	9）ムワッヒド朝
10）ガズナ朝	11）ゴール朝	12）奴隷王朝
13）ロディー朝	14）ナスル朝	15）ウマイヤ朝
16）ファーティマ朝	17）マムルーク朝	18）アッバース朝
19）イル＝ハン国	20）キプチャク＝ハン朝	

a）6	b）14	c）2,9	d）5, 16, 17
e）15	f）18	g）19	①　クルド

テーマ２
近代以前のヨーロッパ

1 古代ギリシア・古代ローマの見取り図

1	エーゲ	2	クレタ	3	ミケーネ
4	ドラコン	5	ソロン	6	ペイシストラトス
7	クレイステネス	8	ペルシア	9	ペロポネソス
10	ペリクレス	11	カイロネイア	12	ヘレニズム
13	アレクサンドロス大王	14	クレオパトラ	15	オクタヴィアヌス
16	エトルリア	17	リキニウス＝セクスティウス		
18	ホルテンシウス法	19	タレントゥム	20	ポエニ
21	グラックス兄弟	22	内乱の１世紀	23	三頭
24	アウグストゥス	25	プリンキパトゥス	26	五賢帝
27	ドミナトゥス	28	西ローマ帝国	29	東ローマ帝国

2 ヨーロッパ史の基礎

30	ケルト	31	スコットランド	32	ウェールズ
33	アイルランド	34	ブルターニュ	35	スペイン
36	ラテン	37	ゲルマン	38	ユトランド
39	スカンディヴィア	40	バルト	41	スラヴ
42	ウクライナ	43	ドニエプル川	44	カルパティア

☆３）に関して

クロアチア：カトリック　スラヴ

セルビア：ギリシア正教　スラヴ

ポーランド：カトリック　スラヴ

チェコ：カトリック　スラヴ

スロヴァキア：カトリック　スロヴァキア

ロシア：ギリシア正教　スラヴ

ウクライナ：ギリシア正教　スラヴ

ルーマニア：ギリシア正教　ラテン

ブルガリア：ギリシア正教　ブルガール

ハンガリー：カトリック　マジャール

スロヴェニア：カトリック　スラヴ

45　フランク　46　ライン川下流　47　ガリア北部

48　アングロ＝サクソン　49　ユトランド半島から北ドイツ

50　ブリタニア　51　東ゴート　52　黒海北岸

53　イタリア　54　ヴァンダル

55　ヴィスワ川とオーデル川の間　56　現チュニジア(カルタゴ)

57　ブルグンド　58　ヴィスワ川とオーデル川の間

59　ガリア東南部　60　ランゴバルド　61　中央ヨーロッパ

62　イタリア　63　西ゴート

64　黒海西岸，ドナウ川下流　65　トレド(イベリア半島)

66　555　67　ビザンツ帝国　68　534

69　ビザンツ帝国　70　534

71　フランク王国（メロヴィング朝）　72　774

73　フランク王国（カロリング朝）　74　711　75　ウマイヤ朝

76　クローヴィス，アタナシウス派改宗

77　ブルグンド王国滅ぼす　78　トゥール＝ポワティエ間の戦い

79　カロリング朝創始　80　ピピンの寄進

81　ランゴバルド王国滅ぼす　82　カールの戴冠

83　ヴェルダン条約　84　メルセン条約

85　カールはフランク族なのでゲルマン人。(西)ローマ皇帝として，キリスト教世界の指導者(教皇レオ３世)から戴冠された。つまり，ゲルマン(北ヨーロッパ)要素とローマ(地中海のヨーロッパ古典古代)要素とキリスト教(古代オリエント)要素が結びついた。

3 ノルマン人（別名１）の活動

1	ヴァイキング	2	1066	3	ウィリアム１世
4	ノルマン朝	5	バルト	6	911
7	ロロ	8	ノルマンディー公国	9	1130
10	ルッジェーロ２世	11	両シチリア王国	12	862
13	リューリク	14	ノヴゴロド国	15	882
16	オレーグ	17	キエフ公国		

18　ウラディミル１世がビザンツ皇帝の妹と結婚し，ギリシア正教へ改宗→ロシアの正教化

19	ケルト	20	ローマ	21	ハドリアヌス
22	アングロ＝サクソン	23	ヘプターキー	24	エグバート
25	アルフレッド	26	デーン	27	クヌート
28	ノルマン朝	29	ノルマン	30	プランタジネット
31	アンジュー	32	911	33	セーヌ
34	カロリング	35	987	36	カペー

4 中世フランス史

1	カペー	2	フィリップ６	3	アンジュー
4	エドワード３	5	百年	6	シャルル７
7	シャルル８	8	イタリア	9	イタリア
10	ハプスブルク	11	フランソワ１	12	スレイマン１
13	カトー＝カンブレジ	14	シャルル９	15	サン＝バルテルミ
16	ユグノー	17	アンリ３	18	ヴァロア
19	アンリ４	20	ブルボン	21	ブルボン
22	ナントの王令	23	主権	24	レオナルド＝ダ＝ヴィンチ
25	主権国家	26	ボーダン		

5 だーれ？

1	n	2	s	3	v	4	u	5	t
6	j	7	r	8	l	9	x	10	z
11	d	12	e	13	a	14	i	15	k
16	y	17	p	18	m	19	c	20	q
21	f	22	o	23	b	24	w	25	g
26	h	27	*β*	28	*α*				

6 どーこだ？

1	h	2	n	3	x	4	s	5	w
6	o	7	r	8	l	9	v	10	z
11	g	12	e	13	b	14	y	15	i
16	q	17	j	18	a	19	c	20	d
21	f	22	k	23	t	24	u	25	m
26	p								

7 ヨーロッパ史必修系図

1	テューダー	2	ヘンリ7	3	アン＝ブーリン
4	ヘンリ8	5	アラゴン	6	フェルナンド2
7	カスティリャ	8	イサベル	9	スペイン
10	フェルナンド5	11	キャサリン	12	エドワード6
13	メアリ1	14	エリザベス1	15	ハプスブルク
16	マクシミリアン1	17	ブルゴーニュ	18	カルロス1
19	カール5	20	フェルディナンド1	21	ハプスブルク
22	フェリペ2	23	ハプスブルク	24	ブルボン
25	ルイ13	26	ベラスケス	27	ルイ14
28	カルロス2	29	フェリペ5	30	スペイン継承
31	カール6	32	マリア＝テレジア	33	ルイ16
34	マリー＝アントワネット				

8 神聖ローマ帝国（ドイツ第１帝国）

1	ヨハネス12世	2	ザクセン	3	オットー１世
4	1077	5	カノッサ	6	ハインリヒ４世
7	グレゴリウス７世	8	叙任権	9	クリュニー
10	教会刷新	11	1122	12	ヴォルムス協約
13	教皇	14	シュタウフェン	15	イタリア
16	ゲルフ	17	ボローニャ	18	法
19	ギベリン	20	ナポリ	21	フリードリヒ１
22	ロンバルディア	23	ミラノ	24	フリードリヒ２
25	パレルモ	26	５	27	大空位時代
28	ルドルフ１世	29	スイス３州	30	1356
31	金印勅書	32	カール４世	33	1438
34	ハプスブルク	35	スイス	36	ナポレオン１世
37	ライン同盟	38	トリーア（トリール）	39	マインツ
40	ケルン	41	ベーメン	42	ファルツ
43	ザクセン	44	領邦	45	ブランデンブルク
46	プラハ	47	フス	48	チェコ
49	コンスタンツ	50	英	51	ウィクリフ
52	オックスフォード				

9 ルターが挑んだ構図

1 デューダー
2 ヘンリ８
3 ヴァロワ
4 フランソワ１
5 ７選帝侯
6 サン＝ピエトロ
7 レオ 10
8 ハプスブルク
9 カルロス１
10 カール５
11 1521
12 コルテス
13 アステカ
14 テノチティトラン
15 1533
16 ピサロ
17 インカ
18 クスコ
19 マチュピチュ
20 1545
21 ポトシ
22 カルロス１
23 フェリペ２
24 アウクスブルク
25 フッガー
26 贖宥状
27 ローマ
28 メディチ

10 ステュアート朝

1 ジェームズ１
2 英国教会
3 メアリ＝ステュアート
4 王権神授説
5 ピルグリム＝ファーザーズ
6 メイフラワー
7 プリマス
8 チャールズ１
9 英国教会
10 フィルマー
11 権利の請願
12 ピューリタン
13 王党
14 ネーズビー
15 議会
16 長老
17 独立
18 クロムウェル
19 水平
20 真正水平
21 チャールズ２
22 カトリック
23 ルイ 14 世
24 審査法
25 国教徒のみ公職につける
26 人身保護法
27 チャールズ１世
28 アイルランド
29 航海法
30 ホッブズ
31 リヴァイアサン
32 神権
33 ジェームズ２
34 カトリック
35 ナントの王令
36 トーリ党
37 ホイッグ党
38 ウィリアム３
39 メアリ２
40 ロック
41 権利の章典
42 マグナ＝カルタ
43 イングランド銀行
44 アン女王
45 スコットランド

＜ホッブズの（ 46 ）＞

46	社会契約説	47	1651	48	リヴァイアサン
49	旧約聖書	50	闘争	51	自然状態
52	生命	53	自然権	54	契約
55	絶対君主	56	王政復古		

＜ロックの（ 57 ）＞

57	社会契約説	58	自然の法	59	議会
60	政府	61	革命権	62	自然権
63	名誉革命	64	アメリカ独立宣言		

11 七年戦争の構図

1	ハノーヴァー	2	フレンチ＝インディアン		
3	ブルボン	4	ホーエンツォレルン		
5	フリードリヒ2	6	シュレジエン	7	ハプスブルク
8	マリア＝テレジア	9	外交革命	10	ロマノフ
11	ルイ15	12	ルイ16世		
13	マリー＝アントワネット			14	エカチェリーナ2
15	ヴォルテール	16	啓蒙専制君主	17	ポツダム
18	ロココ	19	サンスーシ	20	1494
21	シャルル8	22	イタリア	23	トスカナ
24	フィレンツェ	25	君主論	26	信義
27	権謀術数	28	アレクサンデル6		

テーマ４
東部ユーラシア史

1 テスト

(1)

1 l	2 e	3 d	4 m	5 i

(2)

1 b,f,g,h,j	2 b,c,d,e,k,l	3 m	4 i	5 n

(3)

1 j	2 d	3 p	4 k	5 h
6 c	7 g	8 d	9 i	10 m

(4)

1 f	2 l	3 e	4 d	5 c
6 l	7 h	8 l	9 f	10 h

(5)

1 c	2 j	3 i	4 d	5 l
6 f	7 c	8 n	9 l	

(6)

1 f	2 d	3 g	4 e	5 k
6 m	7 l	8 h		

2 魏晋南北朝～隋唐

1	匈奴	2	羯	3	羌
4	氐	5	鮮卑	6	拓跋
7	柔然	8	突厥	9	ウイグル
10	キルギス	11	蜀	12	漢
13	前趙	14	304	15	五胡十六国
16	洛陽	17	220	18	魏
19	西晋	20	永嘉	21	北魏
22	439	23	太武帝	24	西魏
25	北周	26	東魏	27	北斉
28	隋	29	618	30	前秦
31	南京	32	呉	33	280
34	建業	35	建康	36	東晋
37	淝水	38	宋	39	斉
40	梁	41	陳	42	589
43	六朝				

3 16 世紀の銀の流れ

1	780	2	両税法	3	一条鞭法
4	イエズス会	5	ポルトガル	6	生糸
7	絹織物	8	石見	9	マカオ
10	1557	11	ガレオン	12	アカプルコ
13	ジャンク	14	マニラ	15	フィリピン
16	1571	17	レパント	18	ハプスブルク
19	カルロス 1	20	フェリペ 2	21	コルテス
22	1521	23	アステカ	24	テノチティトラン
25	メキシコシティ	26	アカプルコ	27	ピサロ
28	1533	29	インカ	30	クスコ
31	マチュ＝ピチュ	32	1545	33	ペルー
34	ポトシ銀山				

4 朝鮮史

1	武帝	2	高句麗	3	衛
4	楽浪	5	楽浪	6	馬韓
7	辰韓	8	百済	9	新羅
10	渤海	11	高麗	12	李成桂
13	煬帝	14	唐	15	百済
16	白村江	17	倭軍	18	遼
19	金	20	北宋	21	金
22	李	23	c, d	24	b, f, g
25	a, e, h, i, j, m	26	k, l		

5 東南アジア史総整理

1	パガン	2	トゥングー	3	コンバウン
4	アッサム	5	1886	6	英領インド帝国
7	ドヴァーラヴァティー	8	スコータイ	9	アユタヤ
10	ラタナコーシン	11	扶南	12	真臘
13	アンコール＝ワット	14	林邑	15	占城
16	1887	17	フランス	18	ドンソン
19	交趾	20	日南	21	安南
22	李	23	陳	24	黎
25	シュリーヴィジャヤ	26	シャイレンドラ	27	ボロブドゥール
28	三仏斉	29	シンガサリ	30	マジャパヒト
31	1895	32	イギリス	33	オランダ

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。